

マンガ・アニメーション研究マッピング・プロジェクト 報告書

Report of Manga and Animation Research Mapping Project

はじめに

本プロジェクトは、日本のマンガ・アニメーション研究の現状を体系的に整理し、国内外に対して日本のマンガ・アニメーション「研究」についての情報発信を行うと共に、国内においてマンガ・アニメーションを振興する機関・施設関係者に向けて、更には今後の研究を支える若き初学者たちに向けてのガイド作成を目的としたプロジェクトである。

「マッピング・プロジェクト」と記すように、企画当初としては両分野の研究状況を俯瞰できる系譜図や分布図というような形で一覧性の高いマップとして可視化することを1つのゴールとして想定していたものであるが、以下に紹介する両分野研究チームの代表者による合同協議によって、今年度はその第1期としてまずはベースとなる情報を収集・整理(リスト化)することから始める事とした。

リスト取りまとめにあたっての主方針は、各分野を取り巻く状況の違いに応じて、今年度のマンガ分野は人を軸とした「研究者リスト」として、アニメーション分野は、書籍を軸とした「アニメーション研究初学者のためのブックガイド」として取りまとめることとした。

このように、各分野にとって優先度の高い情報の整理から取り掛かる事となったが、今後のマップ化に向けて、それぞれのリストの項目やカテゴリー分けの定義や基準、更に各分野における現状や課題等について分野を横断して活発に議論されたことは大変意義深い。

本報告書には、その他リスト作成にあたって各分野内で議論・検討されたことなどがまとめられている。また、マンガ分野は日英併記、アニメーション分野は日本語のみとなっているが、各分野の進捗の違いによるもので、いずれは足並みを揃えることを予定している。

当プロジェクトを通じて、日本におけるマンガ・アニメーション研究の更なる振興、及び将来的に国内外の研究者の交流促進、研究者育成へとつながれば幸いである。

■ 各分野研究チームの紹介

本プロジェクトは、以下の体制において実施された(所属は2013年3月時点のもの)。

<マンガ分野>

監 修： ジャクリーヌ・ベルント（京都精華大学マンガ学部教授／日本マンガ学会理事）
吉村 和真（京都精華大学マンガ学部准教授／日本マンガ学会理事）

研究チーム：（国外担当）

ジャクリーヌ・ベルント（同上）

杉本バウエンス・ジェシカ（京都精華大学国際マンガ研究センター研究員）

（国内担当）

石川 優（大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター研究員）

西原 麻里（同志社大学社会学部メディア学科嘱託講師）

国内協力： 家島 明彦（島根大学キャリアセンター副センター長専任講師）

池上 賢（立教大学社会学部兼任講師）

金澤 宏明（明治大学兼任講師）

奏 美香子（花園大学文学部創造表現学科専任講師）

柊 和佑（稚内北星学園大学情報メディア学部情報メディア学科講師）

<アニメーション分野>

監 修： 小出 正志（東京造形大学デザイン学科教授／日本アニメーション学会会長）

研究チーム： キム・ジュニアン（日本国際交流基金日本研究フェローシップ／東京造形大学客員研究員／
日本アニメーション学会理事）

土居 伸彰（日本学術振興会特別研究員／日本アニメーション学会理事）

協力： 日本アニメーション学会

木村 智哉（早稲田大学研究助手）

権藤 俊司（東京工芸大学准教授）

清水 知子（筑波大学比較文化学類講師）

霜月 たかなか（フリーライター／日本アニメーション学会理事）

須川 亜紀子（関西外国語大学外国語学部講師）

藤津 亮太（アニメ評論家）

米村 みゆき（専修大学文学部准教授）

松山 ひとみ（アムステルダム大学大学院）

マンガ分野 実施報告書／研究者リスト

Report on Manga Research and Researchers

— 報告書 目次 —

第1章 国内におけるマンガ研究者マッピング・プロジェクト

文責：西原麻里

1-1. 国内マンガ班としてのプロジェクトの背景および目的	02
1-2. 著者リスト・著作リストの作成にあたって	02
1-3. リストからみる、国内マンガ研究の暫定的現状および傾向	03
1-3-1. 著者リストとマンガ研究者の現状および傾向	
1-3-2. 著作リストとマンガ研究成果物の現状および傾向	
1-4. 次年度以降のプロジェクトの課題	04

第2章 海外におけるマンガ／コミック研究者マッピング・プロジェクト

文責：ジャクリーヌ・ベルント / 杉本パウエンス・ジェシカ

2-1. 調査の背景と目的	05
2-2. 選択基準	06
2-3. 結果と考察	07
2-4. 今後の課題	09

— Contents of Report —

Chapter 1 Report on the Mapping of Manga /Comics Research Published in Japanese

by Mari Nishihara

1-1. Background and aims of the project	10
1-2. Compilation of the survey of researchers and publications	10
1-3. Current domestic situation and trends apparent from the survey	11
1-3-1. Analysis of survey: Current situation and trends - Author survey	
1-3-2. Analysis of survey: Current situation and trends - Publication survey	
1-4. Issues for the next stage of the project	12

Chapter 2 Mapping of Manga /Comics Researchers Abroad: Report on Preliminary Phase of Investigation

by Jaqueline Berndt & Jessica Bauwens-Sugimoto

2-1. Background and Aims	14
2-2. Selection Criteria	15
2-3. Findings	16
2-4. Tasks for the Future	18

マンガ分野 実施報告書／研究者リスト

Report on Manga Research and Researchers

— リスト 目次 —

1. 国内におけるマンガ研究者・評論家リスト	20
2. 日本語で読める代表的著作	25
3. 国外におけるマンガ／コミック研究者・評論家リスト	36
MAPPING Comics/Manga Studies outside of Japan/the Japanese language	

アニメーション研究のためのブックガイド／報告書

—目次—

第1章 実施報告書

1-1. 背景・目的	48
1-2. 「ブックガイド」作成の過程	49
1-3. 今後の課題	51

第2章 アニメーション研究のためのブックガイド

2-1. アニメーション研究へのイントロダクション	52
2-2. 更なる一步を踏みこむためのブックガイド	63

マンガ分野 実施報告書／研究者リスト
Report on Manga Research and Researchers

第1章 国内におけるマンガ研究者マッピング・プロジェクト

文責：西原麻里

1-1. 国内マンガ班としてのプロジェクトの背景および目的

日本のマンガ研究における最大の特徴は、制度的な意味での研究者によるのみでなく、在野での盛んな評論活動などにも支えられながら発展してきたことである。ポピュラーカルチャー研究の拡充、日本マンガ学会や大学でのマンガ学部の設立などが示すように、マンガを「学」として捉える潮流は近年ひじょうに大きなものとなってきている。同時に、評論や批評、大学など研究機関以外の場での研究も着々と行われている。

しかし、マンガ研究の現状を俯瞰してみると、さまざまな学問領域やフィールドで営まれた蓄積があるものの、その全体像を見通すことが困難な状況にあるのではないだろうか。その要因のひとつが、研究の相互参照の欠如である。マンガ研究はまさに「マンガ」ということばによって構成された学際的研究分野であり、学問領域や方法論が厳密に定まっているわけではない。共通項としての「マンガ」のなかで、論点やディシプリン、分析対象などがさまざまに入り混じっている。また、在野で評論家や批評家として活動していた者が大学に教員として所属するようになるのは、おおよそ1990年代後半からであり、大学等研究機関でマンガ研究を志す者の増加、マンガに関する研究成果の増加と連動しているといえる。ところが、それらが整理されずカオス的な状態にあるために、日本でのマンガ研究の内実が掴み難いのではないかと考えられる。

今回のマッピングプロジェクトでは、1990年代以降によく参照されている論者を中心に挙げ、基本的に1990年代から発表されたそれぞれの代表的著作をピックアップした。その目的の1点は、マンガ研究という領域における初学者や海外のマンガ研究者、マンガ研究外部の者にとって有効に活用できるものとする、もう1点はそれぞれの成果を方法論や対象などで結びつけ、同時に諸状況を整理し、日本のマンガ研究のあり様をマクロな視座から把握することである。

1-2. 著者リスト・著作リストの作成にあたって

国内マンガ班は、代表：石川優・西原麻里、メンバー：家島明彦・池上賢・金澤宏明・秦美香子・柊和佑の7名である。この7名で、1990年代以降に日本のマンガ研究において頻繁に参照されている研究者・評論家を61名、日本語で読める彼らの代表的著作を130本ピックアップした。ここには、特定の学問領域内部やマンガ研究の隣接分野において著名な者も含まれている。リスト作成にあたっての具体的なコンセプトは、以下の4点である。

- ① マンガ研究のコアな状況が把握できるもの
- ② ある学問領域やジャンル、フィールド内でのみ共有されてきた知見を、それぞれ縦断／横断的に結びつけ集

約できるもの

- ③ マンガ研究の初学者にとって先行研究のガイドの役割を果たせるもの
- ④ 日本のマンガ研究が発展していくために不足している部分を明らかにできるもの
プロジェクトの進度に従い、研究者・評論家と論考とは徐々に増加させる予定である。

1-3. リストからみる、国内マンガ研究の暫定的現状および傾向

1-3-1. 著者リストとマンガ研究者の現状および傾向

著者リストでは、研究者・評論家61名について、①性、②出生年、③所属と肩書き、④ベースとなる学問について紹介した。なお、基本的には公開されているプロフィールや略歴などに記載された情報を記している。

①性をみると、論者の男女比がおよそ3:1となっており、ジェンダーバランスが均等であるとは必ずしもいい難いことを指摘できる。②出生年では、1946年～1950年代・1960年代の層がとくに厚く、現在の日本のマンガ研究を牽引している世代が明確に浮びあがっている。女性で1960年代以前に生まれた者は藤本由香里のみであり、相対的に男性よりも若手が多い。③所属と肩書きでは、大学等研究機関に所属(していた)／在野で活動(していた)、の2点で区分してみると、前者がのべ35名、後者がのべ26名であった。近年、在野で活動していた者が大学等の教員となる傾向があるが、両者のどちらをも肩書きとして掲げている者は10名である。研究機関以外で活発に評論・批評・研究活動が行われてきたことが如実にわかり、日本のマンガ研究の特徴が明瞭に示されている。④ベースとなる学問については、人文社会科学系の研究者がほとんどで、なかでも社会学領域の者がもっとも多い。

1-3-2. 著作リストとマンガ研究成果物の現状および傾向

著作リストでは、著作物の情報だけでなく、それぞれの①視点・方法と②対象を、簡略にキーワードで記載している。

①視点・方法の分類では、ジャンルの内部や言説の歴史の変遷をテーマとする論考、マンガ独自の文法やマンガ表現・表象に関する論考がとくに多く、マンガに関する研究としてポピュラーな手法であることがわかる。また、あるジャンルに特化した論考、マンガをメディア論的見地から考察した論考も比較的多く提出されている。相対的にみて数が少ないものでは、読者論・受容論、マンガ産業論などが挙げられる。これらの視座は今後、さらなる発展を期待したい部分である。

②対象では、少女マンガとやおい／ボーイズラブについての論考がとくに多く、女性向けのジャンルが頻繁に考察されてきたことがわかる。少年マンガなどの男性向けジャンルを全般的に扱った論考は、市場が巨大であるわりに、少ないといえるだろう。代わりに男性向けジャンルでは、手塚治虫やつげ義春といった、特定の作家に着目した論考が多く提出されている。また、政治マンガや学習マンガなど、ある目的のために創作されるマン

ガ、日本以外のマンガ、ストーリーマンガ以外の形式のマンガについては、研究の蓄積という点で、まだ手薄な部分があると指摘できるだろう。悪書追放運動といったマンガをとりまく社会、雑誌や同人誌、貸本マンガなどのメディアなどの対象も、掘りさげて考える余地が残されている。日本のマンガの豊穡で巨大な文化的・産業的状況に対して、研究や評論はさらに論考を加えていくところが多くあるといえるだろう。

1-4. 次年度以降のプロジェクトの課題

今年度は、1990年代以降の日本のマンガ研究において、中心的役割を担っている論者とその著作物を挙げた。いずれも、マンガ研究を行ううえでの基礎的知識となるものである。日本におけるマンガ研究のコアな部分は、本リストからある程度把握できたと考えている。

しかし当然ながら、日本のマンガ研究にはさらに多くの研究者や評論家が参入している。若手研究者がさまざまな学問領域から続々と登場しているほか、新たな世代の評論・批評活動も活発である。また、時間的制約から、採りあげて断念した論者も多い。加えて、1990年代以前の先行的研究・評論活動があったからこそ、現在のような研究の発展があったという事実を見逃してはならない。とくに、マンガに関する評論を積極的に採りあげていた『COMIC BOX』といった雑誌やムック本、展覧会の図録等に、さまざまな論者による批評や論文が数多く掲載されており、それらの多くは未だに一冊にまとめられることなく分散状態にある。こういった状況を把握しておくことも、マンガ研究の多様性を認識するうえで重要な点であると考えられる。

次年度以降は、上記の課題も含めることで、より多種多様で奥ゆきのあるマップを目指していきたい。

※以上は2013年1月時点の報告書であり、同時点のリストを元に書かれている。

第2章 海外におけるマンガ／コミック研究者マッピング・プロジェクト

文責：ジャクリーヌ・ベルント / 杉本パウエンス・ジェシカ

2-1. 調査の背景と目的

21世紀初頭以来、学術研究の世界におけるマンガ研究¹の地位は、それに携わる研究者数の増加に示されるように、著しく向上している。このプロジェクトの対象は、その代表的な研究者に向けられている。本調査は、海外における——つまり、日本語圏以外の——マンガ／コミック研究を体系的に「マッピング」することによって、以下の事柄に応えることを目的とする。

- マンガ／コミック研究を専門としてはいないが、この領域に関心を持つ研究者や教育者に対して、情報を提供する(例えば、2012年11月にシンガポール国立大学で開催された国際会議「日本のポピュラーカルチャーを教える」などを参照)²。
- アニメーション研究、ファン文化研究、メディア・ミックス研究とも異なると同時に、マンガを副次的に利用する——例えば、心理学、社会学、日本研究などでマンガが単なる素材として扱われているような研究——とも異なるものとして、マンガ自体の研究に焦点を当てる。
- 狭義の「コミック研究」と「マンガ研究」をより広い視野から架橋する(例えば、文化庁、あるいは京都精華大学国際マンガ研究センターなどの日本の機関によって企画されてきた国際会議を念頭に置いている)³。
- 研究者同士の交流を推進することによって、マンガ／コミック研究の文化横断的な研究交流を促す。

最終的には、近年のマンガ／コミック研究の主な動向を、今回のようなデータベースに集積するだけでなく、研究者間の相互関係を銀河系のようなイメージで立体的に視覚化することを目標としている。ただし、プロジェクトの第一期は短期間であったため目標に到達するのは難しい。そこで、今期では「マッピング・プロジェクト」全体に向けた基盤づくりとして、まずは主要文献とその著者に関する情報を集積し、方法論的な項目を分類することを重視した。

そこで以下、今回の切り口を具体的に説明するとともに、本プロジェクトの第二期で取り組むべき課題について指摘する。

¹ 本報告書では、日本マンガ、およびそのスタイルを用いた表現に関する研究を「マンガ(Manga)」研究と、日本マンガ・スタイルとは異なるものに関する研究を「コミック(Comics)」研究とそれぞれ鍵括弧つきで表記する。また、これをふまえ、両者に関する研究の総称を「マンガ／コミック研究」と鍵括弧を付けずに表記する。さらに、鍵括弧なしでマンガと表記する場合は、「マンガ」、「コミック」の両者を含むものとする。なお、注記はすべて訳者(石川優、吉村和真)による。

² マンガ／コミックの研究・教育に対する需要は、国内外で高まりを見せている。一方で、その需要に応えるための土壌は十分に整備されているとはいえない。そこで、こうした事例のように、その溝を埋めるための試みが国内外で実施されている。

³ 歴史的に見て、「コミック研究」と「マンガ研究」の相互参照はつねに活発におこなわれてきたわけではない。しかし近年、このような先行研究の状況を踏まえ、両者の学術的交流を促進させる国際会議などが企画されている。

2-2. 選択基準

現時点で、データベースには61名の研究者と、論集や専門誌での特集を含む108件の文献が集められている。ここでは、ひとまず英語で発表された研究を優先的に収集しているが、これは英語が非日本語圏における学術的共通言語として機能しているためでもある。しかし一方で、本調査の特徴を根本的に裏付けているのは「日本からの視点」である。そのため、本調査は「マンガ」に関する研究を優先的にとりあげている。なお、具体的な調査の対象は、以下の3点に絞られる。

- (1)日本のマンガ評論家や研究者による研究を、日本語以外の言語(現時点では英語を中心としているが、若干のフランス語、ドイツ語、スペイン語も含む)に翻訳したもの。
- (2)日本語を使用しない研究者による「マンガ」に関する研究、および(北米をはじめとする)海外で学術研究のキャリアを積んだために、主に英語で発表されてきた日本人研究者による論考⁴。
- (3)日本マンガ以外の「コミック」研究。中でも、特に「コミック理論」を重視するもの。ここでいう「コミック理論」とは、文化横断的可能性を内包すると思われる、マンガの一般的性質を追求するものを意味する。つまり、日本語による「マンガ」研究において未開拓と思われる、「マンガ/コミック理論」という側面を発展させるために役立つもの。

本調査やそれに基づくデータベースの主軸を形成しているのは、以下のカテゴリーである。これらは、「国内班」が採用したカテゴリーとは完全に符合しない場合でも、主に日本マンガ研究との適合性を考慮して選択されたものである。

- 所属(職名なし)
- 学位(博士号の有無)
- ジェンダー(この研究分野では、女性は依然として少ない。全体の15%以下である)
- 世代(研究者が自らをどの世代に位置付けるかを判断するのは難しいが、本分野における著名な研究者には年配の世代が多い。これに対し、新規参入の研究者には20代の大学院生が多い)。
- 研究分野・学科
 - (a) 研究者
文学(言語ごとの)、物語論、美術史、記号論、言語学、映像論、視覚文化論、舞台芸術論、日本研究、メディア研究(コミュニケーション研究を含む)、大衆文化論(サブカルチャー論を含む)、ジェンダー研究、社会学、文化人類学、歴史学、政治学、カルチュラル・スタディーズ、心理学、教育学など
 - (b) 実技系(美術・デザインなど)の人物、評論家⁵

⁴ 例えば、北米の大学院を修了した大城房美や長池一美など、留学先の学界で研究者としてのディシプリンを積んできた研究者を想定している。

⁵ (a)で挙げられているようなアカデミズムとは異なる領域の人物は(b)のカテゴリーに分類されている。

- 研究の方向性
 - (a) 調査・実証中心
 - (b) 理論構築中心
- 主な研究活動の場・想定読者層
 - (a) 現場中心
 - (b) 学術中心
- マンガ研究に対する切り口・研究の中心

表現論、作家論、読者論、ジャンル論、ファン文化論(オタク論、腐女子論を含む)、マンガ史、マンガ・メディア論(雑誌論、産業論を含む)、比較マンガ論、マンガ社会論(言説分析を含む)
- 主な研究対象
 - (a) 文化圏ごと:アメリカン・コミックス、BD、ヨーロッパ(BD以外)、「マンガ」、劇画(主に日本語圏における)、韓国漫画、中国漫画、インド、東南アジア、南米など
 - (b) メジャー／マイナー⁶:主流、個性派、アンダーグラウンド
 - (c) 出版形態:カートゥーン(一枚絵)、コママンガ、ストーリーマンガ

2-3. 結果と考察

上述した(1)の点、つまり日本のマンガ研究者の文献を翻訳したものについては、The International Journal of Comic Art (ed. by John Lent, 1999-) という草分け的な雑誌の成果が突出している。この年2回刊行されるジャーナルには、日本語による論文の翻訳が時折掲載されている。一方、Mechademia (ed. by Frenchy Lunning, University of Minnesota Press, 2006-) という「マンガ、アニメ、ファンアートのための年次フォーラム」は、多少とも日本の大衆文化に関する創作や活動に焦点を当てている。Mechademia(およびその関連会議)は欧米の「コミック」文化よりも日本の「マンガ」を熱心にとりあげてはいるが、必ずしも「マンガ」研究自体には焦点化していない。同誌において「マンガ」は、メディアの特性を問わないファン文化はもちろん、アニメやゲーム、その他の先端技術に関連したメディアよりも下位に位置づけられている。さらに、それらの日本の諸メディア文化についての研究は、主に欧米および日本からの視点で行われてきたことも事実である。このように、Mechademiaの事例は、今後の研究にとっての課題を抱えてもいる。つまり、特殊性と相対性——欧米から見る「日本」とアジアから見る「日本」、そして、特殊な表現であると同時にメディア横断力を持つマンガ——をいかに両立させるか、という課題である。

文化横断的研究の成果は、依然として少数といえる。往々にして、マンガ研究は地理的・言語的に定義される文化に応じて細分化されてしまいがちである。つまり、英語圏、フランス語圏、日本語圏——アメリカン・コミックス、

⁶ここでの区分は、大量生産を前提とした出版物(例えば、日本における『週刊少年ジャンプ』など)か、必ずしもそのような方向性を目指さない出版物(例えば、『ガロ』など)であるかを意図している。ただし、両者にまたがる事例もある。

バンド・デシネ、「マンガ」——は、マンガ/コミック研究における学術的関心の大部分を占めている。このような学術的関心の傾向は、著名な研究者にも若手研究者にも発表の場を与えている近年の英語専門誌からも窺える。その例として、European Comic Art (ed. by Laurence Grove and Ann Miller, Liverpool UP, 2008-)、Studies in Comics (2010-, Intellect)、the Journal of Graphic Novels and Comics (ed. by Joan Omrod et al., Manchester Metropolitan University, 2010-)を挙げることができる。後者には、日本マンガ、および欧米で正典化されているコミックからは逸脱した、その他のコミックに関する論文が掲載されている。

過去10年間のマンガ/コミック研究の状況を概観すると、まず、マンガの学術研究を正当化する志向が減ったことが指摘できる。次に、マンガを批評的な学術研究に取り込もうとする研究者は、初期の社会学的・歴史学的なマンガ研究者とは対照的である。つまり、彼らはすでに「反映論」⁷に偏らず、(言葉と画を絡み合わせるという)コミック/マンガの表現的特殊性を十分に考慮するようになっている。しかし一方で、マンガのメディア的・文化的なコンテクスト(出版形態、ジャンル、読者のリテラシー、マンガの約束事に精通しているかどうかという受容のあり方)については、しばしば等閑視されている。このような海外の研究状況は、日本における状況とはまったく対照的である。こうして、マンガという表現形式は普遍的で文化横断的である、という暗黙の了解を前提に、個々の作品を社会総体およびその諸言説へと短絡的に結びつけてしまう傾向が依然として存続している。

マンガ/コミック研究の中でも理論構築を志向するもの——つまり、マンガを自らの研究の目的にしながら、既存の概念や方法論に揺さぶりをかける研究⁸——の多くは、文学研究を学問的背景にもっている。また、メディア研究や社会科学的な研究は少ないように思われる。このような状況は、日本とは対照的である。さらに、欧米の「コミック」と日本の「マンガ」を研究することの間にも重要な相違点がある。それは、「マンガ」は文化的・社会的な「現象」としては注目されるが、物語論や美学的な研究の対象にはほとんどならないということである(意外なことに、日本語による研究についても、同様の傾向を見出すことができる)。

文学研究を学問的背景にもつ「コミック」研究者の多くは、相対的に見て狭い資料範囲に基づいており、その研究はしばしば二重の意味で制限されている。第一には、地理的・言語的な意味での文化的な制限(例えば、コミックに関する物語論が、英語による作品だけに基づいて展開される場合)であり、第二には、あるマクロ文化の中のサブ/カルチャー的な位置づけによる制限(例えば、個性が高く自己完結した作品としての「グラフィック・ノベル」が、物語的コミック全体の規範と見なされる場合)である。この二重の制限は、欧米研究者による「コミック理論」を、日本の「マンガ」——つまり「作者主義」、「芸術作品」、「美的洗練」といった近代概念に基づく価値基準を再考させるはずの読者参加型のマンガ⁹——研究に応用することを妨げている。さらに、「普遍性」の名のもとに覆い隠されやすい第三の制限は、ジェンダーである。意外にも、日本語および欧米の研究は、通常、コミック

7 広義の「社会反映論」を指す。マンガは社会や世相を「反映」するものであるとして、マンガと社会を(しばしば短絡的に)結びつけて論じる論考を意味する。日本では、主にマンガ表現論(マンガをマンガとして成立させる「表現の文法」に研究の主眼を置く)の立場から、この「反映論」はマンガの表現形式・構造を十分に考察していないとして批判されてきた。

8 これに対置される研究としては、マンガを別の研究目的のための単なる手段・資料として扱うものが考えられる。

9 例えば、『週刊少年ジャンプ』における読者アンケート主義や、ファンによる同人誌制作などを想定することができる。

/マンガに関する原論が男性研究者によって上梓されており、女性研究者は女性マンガジャンルや女性作家の研究に集中しているといった点において、似通っている。

以上のような背景から、マンガ/コミック研究は「文化」と切り離すことができない、という結論が導き出される。しかしながら、すでにMechademiaについて述べたように、さらなる課題は、理論的一般化と具体的な文脈とを関連づけることである。

2-4. 今後の課題

次期「マッピング・プロジェクト」では、文化的範囲を拡大する必要がある¹⁰。マンガ/コミック研究を専門としない——とりわけメディア研究、カルチュラル・スタディーズ、社会学といった分野の——研究者による、マンガに関する散発的な研究も調査していく予定である¹¹。さらに、今回採用したカテゴリーだけでなく、マンガ/コミック研究の動向や特殊性が、実はマンガ/コミック研究特有の事情だけでなく、諸国の学術文化のあり方にも規定されている、といった一般的な相違点を追究するうえでも、「国内班」と活発に意見交換していく必要があるだろう。

¹⁰ 今期における調査範囲については、本稿の「2. 選択基準」を参照。

¹¹ マンガ/コミック研究を専門としない研究者によるマンガ/コミックに関する論考を集積していくことによって、より多角的にマンガ/コミック研究の知見を「マッピング」することが可能になるだろう。

Chapter 1 | **Report on the Mapping of Manga /Comics Research Published in Japanese**

by Mari Nishihara

1-1. Background and aims of the project

The most important characteristic of Japanese-language manga research is that it is not only conducted by academic scholars, but also by critics and persons who work in the manga industry. As evident from current trends such as the expansion of popular culture studies, the founding of the Japanese Society for Studies in Cartoon and Comics (JSSCC, in 2001) and the establishment of manga departments at universities, manga/comics are by now acknowledged as a legitimate field of academic study. Concurrently, manga research is pursued outside of the academic realm, especially by critics and collectors.

But while a lot of work has been done in various disciplines and fields, a comprehensive view of Manga Studies in its entirety remains difficult to get. Among other things, this can be traced back to the lack of research-related cross-references. Manga Studies is a multidisciplinary field joint together by the term 'manga/comics,' but also devoid of any clearly defined scholarly area or methodology. A huge diversity of critical issues, disciplines, and objects of analysis meet under the shared heading of 'manga.' In the late 1990s, people who had dedicated themselves deliberately to the non-academic world became involved in academic teaching, which, among other things, has led to a surge in the amount of people aiming at Manga Studies within existent research institutions such as universities, and to an increase in manga-related research publications. But because these outcomes have never been systematically gathered, there is a state of chaos, which makes it hard to assess Manga Studies as a field.

As a first steps towards 'mapping' Japanese-language Manga/Comics Studies, we mainly focused on scholars whose publications have been referenced frequently since the 1990s. We opted for this approach in keeping with our twofold aim, that is, first, to make the survey effectively available to people who come into the field of Manga Studies from the outside, including beginners and researchers from abroad, and second, to provide the opportunity to grasp Japanese-language Manga Studies from a broader angle by interconnecting results, methodologies, and objects of study, and arranging them in groups.

1-2. Compilation of the survey of researchers and publications

Headed by Ishikawa Yu and Nishihara Mari, the domestic Manga Studies team had a total of seven members

including Ieshima Akihiko, Ikegami Satoru, Kanazawa Hiroaki, Hata Mikako, and Hiiragi Wasuke. A total of 61 researchers, frequently referenced within Japanese-language Manga Studies, and 130 publications in Japanese authored by these researchers were selected to form the core of the 'mapping project.' In addition to representatives of Manga Studies in the strict sense, the group includes scholars who are renowned within a specific academic discipline and/or fields adjacent to Manga Studies.

The following four criteria guided our compilation:

- ① to elucidate the core of Manga Studies.
- ② to allow for vertical and horizontal combinations of findings usually confined to a certain academic discipline, genre or field.
- ③ to provide a survey of existent research to those who are new to Manga Studies
- ④ to clarify deficiencies of Japanese-language Manga Studies in order to facilitate its further development.

More researchers, critics and arguments shall be considered as the 'mapping projects' proceeds.

1-3. Current domestic situation and trends apparent from the survey

1-3-1. Analysis of survey: Current situation and trends - Author survey

The survey of authors lists 61 researchers and critics according to (1.) gender, (2.) year of birth, (3.) affiliation and position, and (4.) field of scholarship. Crucial information based on their brief personal record is provided as well.

1. With respect to gender, a male-female ratio of 3 to 1 stands out, which suggests that the field is anything but gender-balanced.

2. With respect to the year of birth, we noticed that researchers from two generations clearly form the backbone of Japan's current manga research: those who were born between 1946 and 1950, and those born in the 1960s. Among female researchers, the only one born before 1960 is Fujimoto Yukari, while the majority are younger than their male colleagues.

3. As for affiliation and position, we differentiated between two groups: first, those affiliated (past or present) with universities and other academic institutions, and second, those who have been working in areas unrelated to academia. 35 researchers belonged with the former, 26 with the latter. 10 matched both categories, as in recent years, many of those active in the non-academic realm have started working at universities. Clearly, manga criticism/journalism and research have been carried out not only within academic institutions; the

survey evidences this particularity of Manga Studies in Japan.

4. Most manga researchers have a background in humanities, with sociology standing out.

1-3-2. Analysis of survey: Current situation and trends - Publication survey

The publication survey does not simply list bibliographical information, but also indicates (1.) perspective and method, and (2.) object of study (by means of keywords).

1. With respect to perspective and method, we noted that the vast majority of research is dedicated to (a) investigations of historical transformation within genres and discourse, and (b) examinations of manga's specific grammar, aesthetics and representation. We also found a relatively large number of research focused on certain genres, or manga from a Media-Studies perspective. At the same time, research on readership and reception as well as the manga industry is still rather scarce. Underrepresented in terms of numbers, the latter call for further attention.

2. As for prevailing objects of study, we were able to confirm that manga genres aimed at female readers enjoy vivid interest, first and foremost, girls' manga and yaoi, or Boys' Love. Given that the market for boys' manga and other genres aimed at male readers is gigantic, the amount of respective research is astonishingly small. However, studies on individual artists tied to the male realm, for example, on Tezuka Osamu and Tsuge Yoshiharu, are available.

Likewise underdeveloped is research on political cartoons or educational comics (*gakushū* manga), non-Japanese comics/manga, and all forms deviating from graphic narratives.

We also see that there remains work to be done in regard to the society surrounding manga, including the occasional banning of 'harmful publications,' but also to media such as magazines, fanzines and rental comics as well as their markets. Compared to the culturally and industrially fortunate situation of Japanese manga, the related research and journalism exhibit still significant shortcomings.

1-4. Issues for the next stage of the project

During the first phase of the project, we have focused on Japanese-language manga research done in the 1990s and onward. Consequently, the survey provides standard references for basic knowledge on Manga Studies, covering the core of manga research in Japan.

It goes without saying that there are many more scholars and critics involved in manga research. A new generation of manga critics is piping up, as an increasing number of young scholars emerges from a broad

range of academic fields. Due to time limitations, many researchers have not been included yet.

In addition, we should not overlook that the recent maturation rests on research and journalism from before the 1990s. Articles and essays by a diversity of writers appeared in Mooks (a hybrid of magazine and book), exhibition catalogues and journals like COMIC BOX (which played a significant role in promoting manga criticism), but most of them are still dispersed, that is, not yet made available in collected volumes. Awareness in this regard is important in order to grasp the diversity of Manga Studies.

For the second phase of the project, the creation of a multifaceted, three-dimensional map is the task at hand.

Chapter 2 Mapping of Manga/Comics Researchers Abroad: Report on Preliminary Phase of Investigation

by Jaqueline Berndt & Jessica Bauwens-Sugimoto

2-1. Background and Aims

The position of Comics Studies within academia has seen a notable increase in significance since the beginning of the 21st century. Indicative of this trend is the rising number of scholars engaged in this field, a representative part of which is documented by our present survey. With this first systematic attempt at ‘mapping’ Comics/Manga Studies abroad—i.e. as published in other languages than Japanese—we hope to contribute to complying with recent needs such as the following:

- providing information to researchers and educators who are not specialized in Comics/Manga Studies (see for example the “Teaching Japanese Popular Culture” conference at the National University of Singapore, Nov. 2012),
- highlighting specifically the study of comics in its own right, as distinct from both (a) research on animation, fan cultures or media convergence, and (b) the use of comics for other purposes, as mere material in service of psychology, sociology, Japanese Studies and so forth;
- interconnecting Comics Studies and Manga Studies (for example in relation to international conferences organized by Japanese institutions such as the Agency for Cultural Affairs, or the International Manga Research Center, KSU),
- facilitating comics/manga research across traditional cultural borders, by means of initiating exchange between scholars.

The ultimate goal is not only to document major currents of recent Comics/Manga Studies in a database like the one presented now, but also to visualize existent interrelations between scholars in a three-dimensional galaxy-like form. This could not be achieved during the project’s rather short-termed first phase. In order to lay the foundations for the entire ‘mapping project,’ priority was given to sorting out crucial methodological issues, based on a limited corpus of collected texts and their authors. Below, we shall explain our approach and point out tasks to be tackled during the next phase.

2-2. Selection Criteria

The present database includes: 61 researchers, and 108 publication titles, including collaborations on edited volumes and magazine special issues by the researchers listed. So far, we have given preference to research published in English, simply because of its role as the lingua franca in non-Japanese academia. But our survey as such is guided by a Japanese perspective. Accordingly, we privilege research on Japanese manga. In fact, our three major focuses are:

1. publications by Japanese manga critics and researchers translated into non-Japanese languages (for now, primarily English, with a small number in French, German, and Spanish);
2. original publications on Japanese manga by non-Japanese scholars, but also Japanese researchers who, due to their professional socialization outside of Japan (i.e. in North America, to begin with), have been publishing primarily in English;
3. publications on graphic narratives besides manga with a special emphasis on comics theory, that is, explorations of general properties of graphic narratives which promise to hold the utmost potential for transcultural scholarship, or to rephrase, which may help to develop the still stunted theoretical side of Japanese-language Manga Studies.

The categories below, which form the backbone of the present database, were chosen mainly in consideration of their compatibility with Japanese Manga Studies, even if they do not entirely match the categories applied by the 'domestic team.'

- affiliation (for now, without position)
 - academic degree (for now, only PhD)
 - gender (women in the field are still a minority, and make up less than 15% of the total number)
 - generation (while it can be hard to determine what generation a scholar identifies with, the more established ones in the field are senior academics, while new scholars entering the field are often graduate students in their twenties)
 - field of expertise
- (a) scholars (literature [according to language], narratology, art history, semiotics, linguistics, film studies, visual culture, Theater/Performance Studies, Japanese Studies, media studies [incl. communication], popular culture studies [incl. subcultures], gender studies, sociology, cultural anthropology, historiography, political sciences, psychology, education, etc.

(b) artist, critic

● general research orientation:

(a) empirical research; (b) theory construction

● main site of activity/addressee orientation

(a) practice-oriented (journalism, producing); (b) academia-oriented

● main focus within comics studies (aesthetics/stylistics; authors/creators; audience research; comics genres; fan culture; comics history; comics media [incl. industry]; intercultural relations; comics in society [incl. discourse analysis])

● [main] research topic

(a) American comics, BD, Europe (other than BD: Russian etc.), manga, gekiga, manhwa, manhua, India, South East Asia, Latin America etc.

(b) mainstream, alternative comics, Underground

(c) cartoon, [short] comic strip, graphic narrative

2-3. Findings

In respect of the above-mentioned first point, that is, publications by Japanese manga experts translated into English, the ground-breaking work of *The International Journal of Comic Art* (ed. by John Lent, 1999-) stands out. While this bi-annual journal publishes translations of Japanese articles occasionally, *Mechademia* (ed. by Frenchy Lunning, University of Minnesota Press, 2006-), the “Annual Forum for Manga, Anime and the Fan Arts,” concentrates on creations and activities that are more or less related to Japanese popular culture. But although more dedicated to manga than Western comics cultures, the issues of *Mechademia* (and the related conferences, for example in Seoul, Dec. 2012) are not necessarily directed at Comics Studies: manga ranks topically lower than anime, games and other technologically more advanced media, let alone non-media-specific fan cultures. In addition, the exploration of Japan-related media cultures has so far been conducted mainly from American, European and Japanese perspectives on the matter. As such, the case of *Mechademia* reveals tasks for future scholarship, namely, to balance out the distinctiveness and relativity of both “Japan” (vacillating between the “West” and Asia), and “manga” (oscillating between aesthetic particularities and transmedia capacities).

Attempts at transcultural scholarship are still the exception. In general, the study of comics branches out according to geopolitically and linguistically defined cultures, with English, French, and Japanese—or

American comics, bande dessinée and manga—occupying the largest share of interest. Suffice it to look at the new English-language journals which provide major publication sites for established as well as up-and-coming comics researchers: *European Comic Art* (ed. by Laurence Grove and Ann Miller, Liverpool UP, 2008-), *Studies in Comics* (2010-, Intellect), and the *Journal of Graphic Novels and Comics* (ed. by Joan Omrod et.al., Manchester Metropolitan University, 2010-). Mainly the latter includes essays on manga and other kinds of graphic narratives that deviate from the Western canon of comics, or graphic novels.

As a result of surveying the last decade, we noted that the need to legitimize comics as an academic topic has apparently receded. In addition, recent attempts at co-opting comics into critical scholarship differ from earlier sociological or historiographic approaches insofar as they put the ‘reflection paradigm’ behind them, considering the distinctiveness of comics, first and foremost in regard to aesthetic properties such as the interaction between words and images. However, media-cultural contexts, which appear to be crucial to Manga Studies, often go unnoticed (i.e. publication formats, generic frameworks, horizons of expectations, modes of reception according to literacy, that is, familiarity with conventions, etc.). Thus, single works are still occasionally short-circuited with society as a whole or respective discourses, because the particularities of comics are assumed to be universal, that is, transcultural.

The majority of theoretically sophisticated publications—that is, discussions by authors who make comics the purpose of their scholarly endeavors while employing them in an attempt to shake established notions and methodologies—have a background in literary studies. Compared to the situation in Japan, Media Studies and Social Science approaches seem to be the exception. However, there is a significant difference between the study of Western graphic narratives and manga. The latter attracts attention as a cultural, or social phenomenon, but it is only rarely subjected to narratological or aesthetic scrutiny. (Remarkably, in Japanese-language publications, too, such analyses are underrepresented.)

Many literary comics researchers rely on a rather narrow body of works, which is often limited in a twofold way: one the one hand, by cultural as geopolitical and linguistic confinement (for example, when a general narratology of graphic narratives is based solely on English-language productions), and on the other hand, by sub/cultural positions within a certain macro-culture (for example, when idiosyncratic self-contained ‘graphic novels’ are supposed to provide the standard for graphic narratives in general). Such twofold cultural specificity hampers the application of Western theoretical endeavors to manga, a participatory variant of graphic narratives that calls for revisiting evaluative criteria based on modern notions of authorship, work, and aesthetic sophistication. On top of that, there is a third dimension of cultural

particularity which tends to get obscured in the name of 'universals,' the dimension of gender. Japanese-language and Western research resemble each other insofar as general accounts of graphic narratives are usually not authored by female researchers, who attend mostly to the study of female comics genres, and female artists. Against this backdrop, the conclusion arises that the study of graphic narratives cannot be separated from 'culture.' However, as stated in regards to Mechademia, the real task is to thoroughly intertwine theoretical generalization with contextualization.

2-4. Tasks for the Future

During the next phase of the 'mapping project,' the cultural scope needs to be widened. This includes considering occasional publications on graphic narratives by scholars not primarily devoted to Comics/Manga Studies, especially within Media Studies, Cultural Studies, Sociology etc. Furthermore, it will be necessary to consolidate exchanges with the 'domestic team,' in regard to the applied categories, but also to relating currents in Comics/Manga Studies to more general differences in academic cultures to which certain particularities are to be traced back.

研究者／著者リスト

1. 国内におけるマンガ研究者・評論家リスト

著者名	ふりがな	ローマ字	性	出生年	所属/肩書き	著者のベースとなる学問
秋田 孝宏	あきた たかひろ	Takahiro Akita	男	1965	川崎市市民ミュージアム・臨時職員, 東京工芸大学, 日本工学院専門学校, 東京総合写真専門学校, 日本デザイナースクール / 非常勤講師	—
雨宮 俊彦	あめみや としひこ	Toshihiko Amemiya	男	1954	関西大学社会学部・教授	心理学 (感性・感情心理学)
家島 明彦	いへしま あきひこ	Akihiko Ieshima	男	1981	島根大学キャリアセンター・講師	心理学 (青年心理学)
石子 順造	いしこ じゅんぞう	Junzo Ishiko	男	1928-1977	評論家	美学
石田 佐恵子	いしだ さえこ	Saeko Ishida	女	1962	大阪市立大学大学院文学研究科・教授	社会学
泉 信行 =イズミノウユキ	いずみのぶゆき いずみのうゆき	Nobuyuki Izumi	男	1980	漫画研究者, ライター	—
伊藤 剛	いとう ごう	Go Ito	男	1967	マンガ評論家, 東京工芸大学マンガ学科・准教授	—
茨木 正治	いばらぎ まさはる	Masaharu Ibaragi	男	1958	東京情報大学大学院総合情報学研究所・教授	政治学, 社会学
岩下 朋世	いわした ほうせい	Housei Iwashita	男	?	相模女子大学芸学部メディア情報学科・講師	マンガ研究, ポピュラー文化研究, 表象文化論
岩宮 恵子	いわみや けいこ	Keiko Iwamiya	女	1960	島根大学教育学部・教授	心理学 (臨床心理学)
瓜生 吉則	うりゅう よしみつ	Yoshimitsu Uryu	男	?	立命館大学産業社会学部・准教授	社会学, メディア論
大城 房美	おおぎ ふさみ	Fusami Ogi	女	?	筑紫女学館大学文学部英語学科・教授	ジェンダー / 女性学, 比較文化 / 文学, MANGA/Comics, 英語, メディア文化表象
大塚 英志	おおつか えいじ	Eiji Otsuka	男	1958	まんが原作者, 批評家, 神戸芸術工科大学・教授	民俗学, 芸術工学
大西 祥平*	おおにし しょうへい	Shohei Onishi	男	1971	京都精華大学マンガ学部マンガプロデュース学科・講師, ライター, 漫画原作者	—
岡田 斗司夫	おかだ としお	Toshio Okada	男	1958	社会評論家, オタク文化評論家, 株式会社オタクキング代表取締役, 大阪芸術大学・客員教授	—

著者名	ふりがな	ローマ字	性	出生年	所屬／肩書き	著者のベースとなる学問
小田切 博	おだぎり ひろし	Hiroshi Odagiri	男	1968	フリーランス・ライター、アメリカンコミックス研究者	—
押山 美知子	おしやま みちこ	Michiko Oshiyama	女	?	専修大学人文科学研究所・特別研究員 (2007 年時点)	文学 (日本文学)
小野 耕世	おの こうせい	Kosei Ono	男	1939	映画・マンガ評論家	—
表 智之	おもて ともゆき	Tomoyuki Omote	男	1969	北九州市漫画ミュージアム学芸部門	思想史、マンガ史
梶井 純	かじい じゅん	Jun Kajii	男	1941	マンガ評論家	—
金澤 宏明	かなざわ ひろあき	Hiroaki Kanazawa	男	1974	明治大学・兼任講師、都留文科大、相模女子大、埼玉学園大、非 常勤講師	アメリカ対外関係史、国際関係論
金田 淳子	かねだ じゅんこ	Junko Kaneda	女	?	法政大学・非常勤講師	社会学、ジェンダー論
貴堂 嘉之	きどう よしゆき	Yoshiyuki Kidou	男	1966	一橋大学大学院社会学研究科 / 教授	アメリカ史、移民史
喜安 朗*	きやす あきら	Akira Kiyasu	男	1931	日本女子大、名誉教授	西洋史、フランス史
呉 智英	くれ ともふさ	Tomofusa Kure	男	1946	評論家、漫画評論家、京都精華大マンガ学部・客員教授	—
向後 千春	こうご ちはる	Chiharu Kogo	男	1958	早稲田大人間科学術院・教授	教育学、心理学 (認知心理学)
小山 昌宏	こやま まさひろ	Masahiro Koyama	男	1961	東京外国語大留学生日本語教育センター・兼任講師、自然科学研究 所 / 常任研究員	情報学
雑賀 忠宏	ざいか ただひろ	Tadahiro Saika	男	1980	神戸大大学院人文学研究科・学術推進研究員	社会学 (文化社会学)、文化研究
ササキハラ・ゴウ =佐々木 果	ささきばら ごう =ささき みのる	Gou Sasakihara (Minoru Sasaki)	男	1961	マンガ、アニメ評論家、マンガ編集者、学習院大学大学院人文学研究 科・非常勤講師	—
笹本 純	ささもと じゅん	Jun Sasamoto	男	1950	筑波大芸術専門学群・教授	芸術学
清水 勲	しみず いさお	Isao Shimizu	男	1939	漫画・諷刺画研究者	—

著者名	ふりがな	ローマ字	性	出生年	所属/肩書き	著者のベースとなる学問
ジャクリーヌ・ベルント	じゃくりーぬ・べるんと	Jaqueline Berndt	女	1963	京都精華大学マンガ学部/教授, 京都国際マンガミュージアム研究センター・副センター長	マンガの美学, 視覚芸術, 比較芸術論
スコット・マクラウド	すこつと・まくらうど	Scott McCloud	男	1960	マンガ理論家, マンガ評論家, マンガ家	メディア論
竹内オサム	たけうち おさむ	Osamu Takeuchi	男	1951	マンガ評論家, 同志社大学社会学部メディア学科・教授	文学 (児童文学)
竹熊健太郎	たけくまけんたろう	Kentaro Takekuma	男	1960	編集者 (『編集家』), ライター, 漫画原作者, 京都精華大学マンガプロデュース学科・教授, 多摩美術大学美術学部・非常勤講師	—
田中聡	たなかさとし	Satoshi Tanaka	男	1964	立命館大学文学部・教授	日本古代史, 日本史学説史
谷田博幸*	たにた ひろゆき	Tanita Hiroyuki	男	1954	滋賀大学・教授	美術史, 教育学
谷本奈穂	たにもと なほ	Naho Tanimoto	女	1970	関西大学大学院総合情報学研究所・教授	社会学 (文化社会学)
ティエリ・グルンステン	ていえり・ぐるんすてん	Thierry Groensteen	男	1957	マンガ研究者, マンガ理論家, マンガ評論家	記号学, 視覚文化
中澤潤	なかざわ じゅん	Jun Nakazawa	男	1951	千葉大学教育学部・教授	心理学 (幼児心理学, 発達心理学)
中島梓	なかじま あずさ	Azusa Nakajima	女	1953-2009	評論家	—
中野晴行	なかの はるゆき	Haruyuki Nakano	男	1954	ノンフィクション・ライター, まんが編集者	—
長岡義幸	ながおか よしゆき	Yoshiyuki Nagaoaka	男	1962	評論家	—
永山薫	ながやま かおる	Kaoru Nagayama	男	1954	マンガ評論家	—
夏目房之介	なつめ ふさのすけ	Fusanosuke Natsume	男	1950	マンガ評論家, 学習院大学大学院人文科学研究科・教授	—
長谷川潮	はせがわ うしお	Ushio Hasegawa	?	1936	児童文学評論家	文学 (児童文学)
二上洋一	ふたがみ ひろかず	Hirokazu Futagami	男	1937-2009	評論家, 児童文学研究者	—

著者名	ふりがな	ローマ字	性	出生年	所属／肩書き	著者のベースとなる学問
藤本由香里	ふじもと ゆかり	Yukari Fujimoto	女	1959	評論家、明治大学国際日本学部・准教授	ジェンダー論、セクシュアリティ論、フェミニズム
古永真一	ふるなが しんいち	Shinichi Furunaga	男	1967	早稲田大学ほか、非常勤講師	文学
フレデリック・L・シヨット	ふれでりっく・L・しよっと	Frederik L. Schodt	男	1950	作家、翻訳家、通訳	—
堀あきこ	ほり あきこ	Akiko Hori	女	1968	フリーランス、ライター	社会学、ジェンダー論
増田のぞみ	ますだ のぞみ	Nozomi Masuda	女	1974	甲南女子大学文学部メディア表現学科・講師	社会学、メディア文化論
松村昌家	まつむら まさいえ	Masie Matsumura	男	1929	英文学者、比較文学者	英文学
溝口彰子	みぞぐち あきこ	Akiko Mizoguchi	女	1962	法政大学、明治学院大学、多摩美術大学、共立女子大学・非常勤講師	ビジュアル&カルチュラル・スタディーズ
宮台真司	みやだい しんじ	Shunji Miyadai	男	1959	首都大学東京 / 教授	社会学
宮本 大人	みやもと ひろひと	Hirohito Miyamoto	男	1970	明治大学国際日本学部国際日本学科・准教授	漫画史
村上知彦	むらかみ ともひこ	Tomohiko Murakami	男	1951	マンガ評論家、神戸松蔭女子学院文学部・教授	—
守如子	もり なおこ	Naooko Mori	女	1972	関西大学社会学部社会学科マス・コミュニケーション学専攻・准教授	社会学
森川 嘉一郎	もりかわ かいちろう	Kaichiro Morikawa	男	1971	明治大学国際日本学部・准教授	意匠論、現代日本文化
安川 一	やすかわ はじめ	Hajime Yasukawa	男	1959	一橋大学大学院社会学研究科・教授	社会学、理論社会学（ミクロ社会学）、視覚社会学、コミュニケーション論
ヤマダトモコ	やまだ ともこ	Tomoko Yamada	女	?	マンガ研究者、マンガライター、明治大学米沢嘉博記念図書館 / スタッ フ、東京工芸大学・非常勤講師	—
山中千恵	やまなか ちえ	Chie Yamanaka	女	1972	仁愛大学人間学部コミュニケーション学科・准教授	社会学
吉村 和真	よしむら かずま	Kazuma Yoshimura	男	1971	京都精華大学マンガ学部 / 准教授、京都国際マンガミュージアム研究セ ンター・研究センター長	思想史、マンガ研究

著作名	ふりがな	ローマ字	性	出生年	所属/肩書き	著者のベースとなる学問
米沢 嘉博 = 阿島 俊	よねざわ よしひろ = あじま しゅん	Yoshihiro Yonezawa (Shun Ajima)	男	1953-2006	漫画評論家	—
四方田 犬彦	よもた いぬひこ	Inuhiko Yomota	男	1953	元明治学院大学芸術学科・教授	比較文学, 映画史

※用語の表記は基本的に、それぞれ公表中のプロフィールに従っている。
 ※ 3月の改訂時に追記した著者は、氏名末尾に「*」をつけている。

2. 日本語で読める代表的著作

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	『掲載誌名』巻(号)、収録単行本	出版者	掲載ページ(始-終)	視点・方法(キーワードで自由記述、タグ付け)	対象(キーワードで自由記述、タグ付け)
秋田 孝宏	「コマ」から「フィルム」へマンガとマンガ映画	「こま」から「ふいるむ」へまんがとまんがえいが	2005	—	—	NTT 出版	—	マンガ産業論、マンガ表現論、メディア論	物語マンガ、コミック・ストリップ、マンガ映画、アニメーション
雨宮 俊彦	マンガ表現の時空(1):レイヤー分解・少女マンガのコマ・マンガ表現の感性認知記号論(特集) 感性・認知・記憶	まんがひょうけいおとくう(1):れいやーふんかい・しやうじよまんがのこま・まんがひょうげんのかんせいにんちぎごうろん(くとくしゅう)かんせいにんち・きおく)	2002	雨宮俊彦・住山晋一・増田のぞみ共著	『関西大学社会学部紀要』33(2)	関西大学	1-191	マンガ表現論、感性認知記号論、レイヤー分解	少女マンガ、コマ
家島 明彦	心理学におけるマンガに関する研究の概観と展望	しんりがくにおけるまんがにかんするけんきゆうのかいかんとてんぼう	2007	—	『京都大学大学院教育学部研究紀要』53	京都大学大学院教育学部研究科	166-180	マンガ心理学、マンガの影響、ストーリーリーマン	心理学論文、マンガ読者
石子 順造	現代マンガの思想	げんだいまんがのしそう	1970	—	—	太平出版社	—	評論 マンガ表現論、現代社会論、作家論	劇画、成年マンガ、戦中マンガ
石子 順造	戦後マンガ史ノート	せんごまんがのしと	1975 → 1994	—	—	紀伊国屋書店	—	戦後マンガ史	昭和20～40年代のマンガ
石子 順造	コミック論—石子順造者作品集Ⅲ	こみっくろん—いしこじゅんぞうちよさくしゅうⅢ	1988	—	—	囀囀舎	—	サブカルチャー論、現代社会論、作家論	劇画、成年マンガ、少年マンガ、少女マンガ、性描写
石田 佐恵子	〈少女マンガ〉の文体とその方言性	くしやうじよまんがのぶんたいとそのほうげんせい	1992	香山リカ他著	コミックメディア:柔らかな情報装置としてのマンガ	NTT 出版	54-89	ジャンル論、表現論	少女マンガ、大島弓子、吉田秋生
石田 佐恵子	誰のためのマンガ社会学—マンガ読者論再考	だれのためのまんがしゃかいがく—まんがどくしやろんざいこう	2001	宮原浩二・萩野昌弘編	マンガの社会学	世界思想社	157-185	読者論、オーディエンス研究、マンガ社会学	読者、マンガ情報誌
イズミノウユキ	視線力学の基礎 読者の〈目〉が見え方まで—上巻・視点	しせんりきがくのきそ どくしやのくめ)がまんがにあたえるちから	2006	—	『ユリイカ』38(1)	青土社	204-225	メディア論、コマの分析、視線の分析	「魔法先生ネギま!」、「炎の転校生」
泉 信行	漫画をめぐる冒険—読み方から見え方まで—上巻・視点	まんがをめぐるぼうけん—よみかたからみえかたまで— じようかん・してん	2008	—	—	泉信行私家版	—	マンガ表現論、視点の分析、表象分析	「School Rumble」、「彼氏彼女の事情」
泉 信行	「キャラクター/キャラクターたち」『3月のライオン』—著者と読者たちの視点	「きゃらたち/きゃらくたーたち」『3がつのらいおん』—れいとちとどくしやたちのしてん	2008	—	『ユリイカ』40(7)	青土社	67-76	視点の分析	「3月のライオン」
泉 信行	漫画をめぐる冒険—読み方から見え方まで—下巻・The Book	まんがをめぐるぼうけん—よみかたからみえかたまで— げかん・The Book	2009	—	—	泉信行私家版	—	メディア論、コマの分析、視線の分析	「魔法先生ネギま!」、「ヒストリエ」、「逆境ナイン」などのストーリーマン
伊藤 剛	Pity, Sympathy, and People discussing Me	Pity, Sympathy, and People discussing Me	2003	東浩紀編著	網状言論F改—ポストモダン・オタク・セクシュアリティ	青土社	83-100	マンガ表現論、キャラクター論	マンガ表現、キャラクター
伊藤 剛	テツカ・イズ・デッド—ひらかれたマンガ表現論へ	てつか・いず・でっど—ひらかれたまんがひょうげんろんへ	2005	—	—	NTT 出版	—	マンガ表現論	マンガの表現構造
伊藤 剛	マンガは変わる—マンガ語りから「マンガ論」へ	まんがはかわる。まんががたりから「まんがろん」へ	2007	—	—	青土社	—	マンガ表現論、ジャンル論、作家論、現代文化論、キャラクター論	少年マンガ、少女マンガ、成年マンガ、やおい同人誌、美少女コミック、4コママンガ、アニメ

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	掲載誌名」巻(号)、収録 単行本	出版者	掲載ページ (始-終)	視点、方法 (キーワードで自由記述、タグ付け)	対象 (キーワードで自由記述、タグ付け)
茨木 正治	マンガのなかのメディア —コママンガの世界	まんがのなかのメディア —まんがのなかのせかい	2007	—	—	臨川書店	—	メディア史、コミュニケーション 論、シンボル研究、内容分析	新聞漫画、政治漫画
岩下 朋世	手塚治虫「リボンの騎士」にお ける「性別越境」の向義性	てづかおさむ「リボンのきし」に おける「せいべつえきさきよう」の りょうぎせい	2006	—	『マンガ研究』9	日本マンガ学会	6-23	言説の批評的検討、キャラクター 分析	「リボンの騎士」、少女マンガの批評言 説
岩下 朋世	「カナリヤ王子さま」から「リ ボンの騎士」へ、ストーリー 少女マンガの成立過程——	「かなりやおうじさま」から「リ ボンのきし」へ、ストーリー しょうじょまんがのせいりつか てい——	2010	—	『ナラティブ・メディア 研究』(2)	ナラティブ・メディア 研究会	1-21	雑誌の誌面分析、物語分析、作品の 比較分析	「リボンの騎士」、「少女サロネ」、カ ナリヤ王子さま」、少女マンガ
岩宮 恵子	異能性・異質性の自覚と思春期 体験—漫画「ヒカルの碁」から の考察	いのうせい・いっせいのじかく としゅんきたいげん—まんが 「ひかるのこ」からのこうさつ	2002	—	『島根大学教育学部心理 臨床・教育相談室紀要』 1	島根大学教育学部心理 臨床・教育相談室	25-32	臨床心理学、面接法	思春期体験、「ヒカルの碁」
瓜生 吉則	マンガを語ることの〈現在〉	まんがをかたるとの〈げんざい〉	2001	吉見俊哉編	メディア・スタディーズ	せりか書房	128-139	メディア論、メディア史	マンガ批評
瓜生 吉則	読者共同体の想像/創造—あ るいは、「ぼくらのマンガ」の 起源について	どくしゃどうどうたいのそうぞ う/そぞう—あるいは、「ぼ くらのまんが」のきげんについ て	2005	北田暁大・野上元・水溜 真由美編	カルチュラル・ポリテイ クス 1960/70	せりか書房	114-134	メディア論、メディア史	読者
瓜生 吉則	「少年マンガ」の発見	「しょうねんまんが」のはっけん	2009	岩崎俊・上野千鶴子・北 田暁大・小森陽一・成田 龍一 編著	戦後日本スタディーズ(2)	紀伊国屋書店	223-237	メディア論、メディア史、ジャンル 論	少年マンガ
瓜生 吉則	俺たちの空—本宮ひろ志と〈マ ンガ〉の境界—	おれたちのそら—もとみやひろ 志と〈まんが〉のりょうかいがい —	2010	北田暁大・東浩紀編	思想地図(5)	日本放送出版協会	275-297	メディア論、作品論	本宮ひろ志、「俺たちの空」
大塚 房美	少女まんがと「西洋」少女ま んがにおける「日本」の不在と 西洋的イメージの氾濫について	しょうじょまんがと「せいよう」 しょうじょまんがにおける「にほ ん」のふざいとせいようてき めーじのはんらんについて	2004	荒木正純・南隆太・吉原 ゆかり 編集代表	「翻訳」の圏域—文化・ 植民地・アイデンティ ティ—	イセブ	525-554	雑誌の誌面分析、表象分析、キャ クター分析、マンガ表現論	1960-70年代の少女マンガ
大塚 房美	〈越境する〉少女マンガとジェ ンダー	〈えつきようする〉しょうじょま んがとじえんだー	2010	大塚房美・一木順・木浜 秀彦編	マンガは越境する！	世界思想社	110-134	(女性)ジェンダー論、表象分析、 キャラクター分析、マンガ表現論、 表現史	主に日本の少女マンガ、受容者である 「少女」
大塚 英志	少女民俗学 世紀末の神話をつむ ぐ「巫女の末裔」	しょうじょみんぞくがくせいきま つのしんわをつむぐ「みこのまつ えい」	1989 → 1997	—	—	光文社	—	受容論、現代文化論、現代社会論	少女マンガ
大塚 英志	戦後まんがの表現空間—記号的 身体の呪縛	せんごまんがのひょうげんくうか ん—きごうてきしんたいのじゆば く	1994	—	—	法蔵館	—	作家論、ジャンル論、時評	手塚治虫、少女まんが、有書コミック 騒動
大塚 英志	定本物語消費論 (= 物語消費論 ——「ビジュアルマン」の神話学)	ていほんものがたりしょうじょろん (=ものがたりしょうじょろん— 「びじゅくりまん」のしんわがく)	—	—	—	角川書店 (= 新曜社)	—	消費社会論、記号消費論	物語
大塚 英志	アトムの命題—手塚治虫と戦 後まんがの主題	あとのめいだい—てづかおさ むとせんごまんがのしゆだい	2003	—	—	徳間書店	—	作家論、マンガ史	手塚治虫
大塚 英志・サ サキハラ・ゴウ	教養としての〈まんが・アニメ〉	きょうようとしての〈まんが・あ にめ〉	2001	大塚英志・ササキハラ・ ゴウ共著	—	講談社	—	作品論、作家論	手塚治虫、梶原一騎、萩原望都、吾妻 ひでお、岡崎京子、宮崎駿、高畑勲、出 崎統、富野由悠季、ガイナックス、石 ノ森章太郎

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	『掲載誌名』巻(号)、収録単行本	出版者	掲載ページ(始-終)	視点・方法(キーワードで自由記述、タグ付け)	対象(キーワードで自由記述、タグ付け)
大西 祥平	小池一夫伝説*	こいけかずおでんせつ	2011	—	—	洋泉社	—	評伝	小池一夫
岡田 斗司夫	オタク学入門——「東大オタク文化論ゼミ」公認テキスト	おたくがくがくにゅうもん——「どうたいおたくぶんからんせみ」こうにんてきすと	1996 → 2000	—	—	新潮社	—	オタク研究、作品論、歴史論	「宇宙戦艦ヤマト」,「機動戦士ガンダム」,「うる星やつら」,「クレヨンしんちゃん」,少年マンガ
岡田 斗司夫	オタクはすでに死んでいる	おたくはずでにしんてい	2008	—	—	新潮社	—	オタク研究、歴史論、世代論	機動戦士ガンダム、新世紀エヴァンゲリオン、少年マガジン
小田切 博	戦争はいかに「マンガ」を変え るか アメリカンコミックスの変 貌	せんそうはいかに「まんが」をか えるか あめりかんこみっくすのへ んぼう	2007	—	—	NTT 出版	—	産業論、受容論、作家論、現代社会 論	アメリカンコミックス
小田切 博	キャラクターとは何か	きゃらくたーとはなにか	2010	—	—	筑摩書房	—	キャラクター論、コンテンツ産業 論	キャラクター、コンテンツ産業、二次 創作
押山 美知子	少女マンガ ジェンダー表象論 ——〈男装の少女〉の道形とア イデンテイティ	しょうじょまんが じえんだー ひょうしょうろん——〈だんそう のしょうじょ〉のどうけいとあ いでんてい	2007	—	—	彩流社	—	(女性)ジェンダー論、表象分析、 キャラクター分析、マンガ表現論	「リボンの騎士」,「銀の花びら」,「ベ ルサイエのぼら」,1970年代以降の 少女マンガにおける〈男装の少女〉も の
小野 耕世	アメリカン・コミックス大全	あめりかん・こみっくすたいぜん	2005	—	—	晶文社	—	ジャンル論、作品論	アメリカンコミックス、スーパーヒー ロー・コミックス、新聞連載マンガ、 オルタナティブ・コミックス
小野 耕世	アジアのマンガ*	あじあのまんが	1993	—	—	大修館書店	—	海外マンガ、作家論、大衆文化論	海外マンガ家、インド、台湾、シンガ ポール、フィリピン、タイ、中国、マ レーシア、シリア、インドネシア
表 智之	マンガと現代思想	まんがとげんだいしろう	2007	吉樹和真・田中聡・表智 之共著	差別と向き合うマンガた ち	臨川書店	157-236	作品論、思想史	宮崎駿「風の谷のナウシカ」、高屋 奈月、「フルーツバスケット」、山口 雅之、高見広春、「バトル・ロワイ ヤル」、きうちかずひろ、「BE-BOP HIGH SCHOOL」、芳崎せいむ、「金魚屋 古書店出納帳」、西原理恵子、「毎日か あさん」、梶原一騎、矢口高雄、「おと こ道」、森薫、「エマ」、平田弘史、「血 だるま剣法」
表 智之	マンガとミュージアムが出会 うとき	まんがとみゅーじあむがであうと き	2009	表智之・金澤順・村田麻 里子共著	—	臨川書店	—	ミュージアロジー	美術館、博物館
梶井 純	トキワ荘の時代——寺田ヒロオ のまんが道	ときわそうのじだいい——てらだ ひろおのまんがみち	1993	—	—	筑摩書房	—	作家論	寺田ヒロオ、トキワ荘
金澤 宏明	史料としての合衆国の政治カー トウ——アメリカ対外関係 史研究と図像分析——	しりょうとしてのがっしゅうこく のせいじかーとうらん——あめりか たいがいかんけいしけんきゅうと ずざうぶんせき——	2009	—	『アメリカ史研究』(32)	アメリカ史学会	126-135	歴史学、アメリカ史、史料論	政治マンガ、カートゥーン
金澤 宏明	中米地峡運河建設問題と政治 カートゥーン表象	ちゆうべいいきまきょううんがけんせ つもんたいとせいじかーとうらん ひょうしょう	2010	—	『人文科学研究所紀要』 (67)	明治大学	59-85	アメリカ史、史料論、レイジズム	政治マンガ、カートゥーン

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	掲載誌名』巻(号),収録 単行本	出版者	掲載ページ (始-終)	視点、方法 (キーワードで自由記述、タグ付け)	対象 (キーワードで自由記述、タグ付け)
金田 淳子	マンガ同人誌——解釈共同体の ポリティクス	まんががどうじんしんし——かしいやく きょうどうたいのほりていくす	2007	佐藤健二・吉見俊哉編	『文化の社会学』 文化の社会学	有斐閣	163-190	ジャンル論、文化社会学	同人誌、やおい、腐女子
金田 淳子	やおい論、明日のためにその2。	やおいろん、あすのためにその2。	2007	—	『ユリイカ』39(16)	青土社	48-54	ジャンル論、研究史	やおい/ボーイズラブ研究
貴堂 嘉之	南北戦争・再建期の記憶とアメ リカ・ナショナルイズム研究(一) :「ハーバース・ウィークリー」 とトマス・ナスト風刺画リスト	なんぼくせんそう・さいけんきの きおくとあめりか・なしょなりず むけんきゆう (いち):『はーぼ ず・ういーくりー』とます・な すとふうしががりすと	2000	—	『千葉大学人文研究』人文 学部紀要』29	千葉大学	151-186	アメリカ史、記憶研究	政治マンガ、トマス・ナスト
貴堂 嘉之	アメリカ合衆国と中国人移民— —歴史のなかの「移民国家」ア メリカ——	あめりかががしゅうこくちゆう ごくじんいみん—れきしのなかの 「いみんこつか」あめりか—	2012	—	—	名古屋大学出版会	—	アメリカ史、移民問題、市民権、レ イニズム	政治マンガ
喜安 朗	ドーエ工風刺画の世界*	どーみえふうしうかのせかい	2002	喜安朗編	—	岩波書店	—	作家論、西洋史、歴史、フランスマ 文化論、社会事情	:フランスマ史、政治批評、社会風刺、風 刺画
呉 智英	現代マンガの全体像	げんだいまんがのぜんたいざう	1986 → 1990 =1997	—	—	情報センター出版局 →史冊出版 →双葉社	—	マンガ評論の批判的検討、近代的 啓蒙・教養・思想、マンガ表現論、 少年・成年マンガ史、作品論、作家 論	1980年代までのマンガ評論、1980 年代までの少年マンガ・成年マンガ、 手塚治虫・山上たつひこら、主に少年 マンガ・成年マンガの描き手
向後 千春	マンガによる表現が学習内容の 理解と保持に及ぼす効果	まんがによるひょうげんががく しゅうないようのりかいとほじに およぼすこうか	1998	向後智子・向後千春共著	『日本教育工学会誌』 22(2)	日本教育工学会	87-94	学習心理学、マンガ教材、実験	大学生、「美味しんぼ」
小山 昌宏	ジャパン・ポップに覆われた世 界——コミック、ジャパニメ の体制内化と世界戦略	じゃぱんぽっぷにおおわれたせか い——じえいこみつく・じゃぱに めのたいせいせいないかとせかいせん りやく	2002	—	『社会文化研究』(5)	社会文化学会	98-110	アニメ研究、マンガ研究、歴史研究	手塚治虫、有害コミック問題
小山 昌宏	アニメ「風の谷のナウシカ」— —物語の系譜、マンガとの相違 点	あにめかぜのたにのなうしか— ものがたりのけいふ、まんがとの そういてん	2006	竹内オサム・小山昌宏編 著	アニメへの変容——原作 とアニメの微妙な関係	現代書館	127-150	アニメ研究、マンガ研究	「風の谷のナウシカ」
小山 昌宏	戦後「日本マンガ」論争史	せんごにほんまんがろんそうし	2007	—	—	現代書館	—	歴史研究、論争史	石子順、石子順三、竹内オサム、伊藤 剛など研究者
雑賀 忠宏	マンガ生産の文化——社会的関 係としてのマンガが生産が孕む 「過剰さ」の意味	まんがせいざんのかくぶんか——しゃ かいてきかんけいとしてのもんが せいざんがはらむ「かじょうさ」 のいみ	2009	大野道郎・小川伸彦	文化の社会学 記憶・メ ディア・身体	文理閣	185-202	社会学、メディア生産	マンガ家、編集者
雑賀 忠宏	「マンガを描くこと」をマンガ 家たちはいかに描いたのか—— マンガが生産行為の真正性に関す る言説としての「マンガ家マン ガ」	「まんがをえがくこと」をまんが かたちはいかにえがいたのか—— まんがせいざんこういしんせい せいかんするげんせつとしての 「まんがかまんが」	2010	ジャクリース・ペルント	『国際マンガ研究』1) 世界 のコミックスとコミック スの世界——グローバル なマンガ研究の可能性を 開くために	京都精華大学国際マン ガ研究センター	81-90	社会学、テクスト研究	マンガ家マンガ、グラフィック・ノベ ル、自伝マンガ、「サルでも描けるマン ガ教室」、「燃えろペン」
ササキバラ・ゴ ウ	『美少女』の現代史「萌え」と キャラクター	くびしょうじょのげんだいし 「もえ」ときやらくたー	2004	—	—	講談社	—	作品論、オタク研究	吾妻ひでお、宮崎駿、高橋留美子、ラ ブコメ、パロディ、電野由悠季
佐々木 果 (= ササキバラ・ゴ ウ)	まんが史の基礎問題 ホガース、 テプフェールから手塚治虫へ	まんがしのきぞもんだい ほがー す、てふふえーるからてつかおさ むへ	2012	—	—	オフィスヘリア	—	マンガ史、マンガ表現論	ホガース、テプフェール、カリカチュ ア、ウインサー・マツケイ、手塚治虫

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	『掲載誌名』巻(号)、収録 単行本	出版者	掲載ページ (始-終)	視点、方法 (キーワードで自由記述、タグ付け)	対象 (キーワードで自由記述、タグ付け)
梶本 純	マンガの語りにおける視点とその決定因としての内語	まんがのあたりにおけるしてんとそのけっていいんととしてのないご	1996 → 2002	日本記号学会→ジャク リース・ベルント編	多文化主義の記号論 →マン美研——美 / 学的 な次元への接近	東海大学出版会 →醍醐書房	161-180 →???	物語論、記号論	内語、視点、物語
清水 敷	漫画の歴史	まんがのれきし	1991	—	—	岩波書店	—	漫画史、諷刺画史	漫画、諷刺画
清水 敷	大阪漫画史 -- 漫画文化発信都市 の300年	おおさかまんがし -- まんがぶんか はっしんとしの300ねん	1998	—	—	ニュートンプレス	—	漫画史、ジャンル史、都市文化論	大阪、大阪パック、清和新聞、大阪清 和新聞、漫画雑誌、赤本漫画、劇画、大 阪漫画
清水 敷	日本近代漫画の誕生	にほんきんだいまんがのたんじょ う	2001	—	—	山川出版社	—	漫画史	近代漫画
清水 敷	年表日本漫画史	ねんびょうにほんまんがし	2007	—	—	臨川書店	—	漫画史	古代、中世、江戸期、明治期、大正期、 昭和期、平成期
清水 敷	諷刺画研究	ふうしがけんきゅう	2010	日本諷刺画史学会	—	臨川書店	—	諷刺画史	諷刺画
清水 敷	ピゴー日本素描集*	びごーにほんそびょうしゅう	1986	清水敷編	—	岩波書店	—	作品論、作家論、日本文化論	ジョルジュ・フェルディナン・ピゴー、 Georges Ferdinand Bigot、諷刺画、ス ケッチ、挿絵、世相、大衆文化、社会諷 刺
清水 敷	続ピゴー日本素描集*	ぞくびごーにほんそびょうしゅう	1992	清水敷編	—	岩波書店	—	作品論、作家論、日本文化論	ジョルジュ・フェルディナン・ピゴー、 Georges Ferdinand Bigot、諷刺画、ス ケッチ、挿絵、世相、大衆文化、社会諷 刺
清水 敷	図説漫画の歴史*	ずせつまんがのれきし	1999	—	—	河出書房新社	—	マンガ史、メディア論、出版事情	日本マンガ史、鳥羽隆、ボンチ絵、漫 画、絵巻物、劇画、コミック、MANGA、 赤本、貸本
ジャクリース・ ベルント	マンガの国ニッポン—日本の 大衆文化・視覚文化の可能性—	まんがのくににっぽん—にほん のたいしゅうぶんか・しかくぶん かのかのうせい—	1994	—	—	花伝社	—	美学、マンガ表現論、大衆文化論、 視覚文化論	日本のマンガ
ジャクリース・ ベルント	展示されるマンガ—美術館に おけるマンガの「美学」(エス テティックス)	てんじされるまんが—びじゆつ かんにおけるまんがの「びがく」 (えすてていつくす)	2002	ジャクリース・ベルント 編	マン美研——マンガの美 / 学的な次元への接近	醍醐書房	159-191	美学、博物館学、言説史、比較文化 論	日本のマンガ
スコット・マク ラウド	マンガ学 マンガによるマンガの ためのマンガ理論	まんががく まんがによるまんがの ためのまんがりろん	1998	—	—	美術出版社	—	メディア論、マンガ表現論、記号論	マンガの表現全般
竹内 オサム	手塚治虫論	てづかおさむろん	1992	—	—	平凡社	—	マンガ表現論、コマの分析、視点の 分析、作家論、キャラクター論	手塚治虫の作品
竹内 オサム	戦後マンガ50年史	せんごまんが50ねんし	1995	—	—	筑摩書房	—	メディア論、メディア史	赤本マンガ、戦後の月刊誌、貸本マン ガ、少年・少女週刊誌、マニア誌、青 年誌、エロ劇画、〈有書〉コミック周 題など諸事件
竹内 オサム	漫画・まんが・マンガ	まんが・まんが・まんが	1998	—	—	青弓社	—	評論、作家論、作品論	少年マンガ、成年マンガ、少女マンガ

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	『掲載誌名』巻(号)、収録 単行本	出版者	掲載ページ (始-終)	視点・方法 (キーワードで自由記述、タグ付け)	対象 (キーワードで自由記述、タグ付け)
竹内 オサム	マンガ表現学入門	まんががひょうげんがかくにゆうもん	2005	—	—	筑摩書房	—	マンガ表現論、コマの分析、視点・視線の分析、表象分析、記号論、メディア史	手塚治虫、石ノ森章太郎、青年マンガ、少女マンガ、少年マンガ
竹内 オサム	本流！マンガ学—マンガ研究ハンドブック—	ほんりゅう！まんががく—まんがけんさつしゅうほんどぶっく—	2009	—	—	晃洋書房	—	マンガ評論と批評の検討、マンガ研究の資料集	マンガ評論と批評、マンガ研究の言説、資料目録
竹熊 健太郎	マンガ原稿料はなぜ安いのか？—竹熊漫談	まんがげんこうりゅうはなんであつやすすいのか？—たけくまんだん	2004	—	—	イースト・プレス	—	評論、産業論、編集者論	作者、編集者、市場
竹熊 健太郎	サルまん・サルでも描けるまんが教室上*	ざるまん さるでもかけるまんがきょうしつじょう	1990、1991、1992 → 1997 → 2006	相原コージ・竹熊健太郎 共著	—	小学館	—	ジャンル論、マンガ表現論、編集者論、読者論、メディア論	少年マンガ、青年マンガ、エロマンガ、少女マンガ、風刺画、マンガを描くためのテクニク (マンガのメタ批評)
竹熊 健太郎	サルまん・サルでも描けるまんが教室下*	ざるまん さるでもかけるまんがきょうしつげ	1990、1991、1992 → 1997 → 2006	相原コージ・竹熊健太郎 共著	—	小学館	—	ジャンル論、マンガ表現論、編集者論、読者論、メディア論	少年マンガ、青年マンガ、エロマンガ、少女マンガ、風刺画、マンガを描くためのテクニク (マンガのメタ批評)
田中 聡	マンガと歴史叙述	まんがとれきしじょじゅつ	2007	吉村和真・田中聡・表智之共著	差別と向き合うマンガたち	臨川書店	83-156	歴史叙述、表現論	歴史マンガ、学習マンガ
谷田 博幸	ヴィクトリア朝挿絵画家列伝—ディケンズと『パンチ』誌の周辺*	びくとりあちやうさうさしかかれつでん—でいけんずと『ばんち』のしゅうへん	1993	—	—	図書出版社	—	美術史、出版事情、大衆文化論	挿絵、『パンチ』、諷刺画、印刷工程
谷本 奈穂	少女マンガにおける敵の表象—装置としての戦争と美によるミラタリー・カルチャー	しょうじょまんがにおけるてきのひょうしょう—そうちとしてのせんそうとびによるみりたり・かるちゃー	2011	高井昌史編	「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャーメディア／ジェンダー／ツーリズム	人文書院	153-192	ポピュラー・カルチャー研究、ジャンル論、表象分析	少女マンガ、戦争マンガ、里中満智子、大岡まち子
ティエリ・グレンステン	線が顔になるとき—バンドデシネとグラフィックアート—	せんががおおになるとき—ばんどでしねとぐらふいつくあーと—	2008	—	—	人文書院	—	記号論、マンガのシステム (体系) 論、表現論、メディア論	バンド・デシネ
ティエリ・グレンステン	マンガのシステム、コマはなぜ物語になるのか	まんがのしずてむ こまはなぜものがたりになるのか	2009	—	—	青土社	—	記号論、マンガのシステム (体系) 論、メディア論	バンド・デシネ
中澤 潤	マンガ読解過程の分析—マンガ読解力と眼球運動	まんがどっかいがいのぶんせき—まんがどっかいりょくごかんきゅうらんど	2002	—	『マンガ研究』2	日本マンガ学会	39-49	認知心理学、発達心理学、眼球運動測定	マンガ読解力、眼球運動
中島 梓	コミュニケーション不全症候群	こみゆにけーしよんふぜんしんしやうこうぐん	1991	—	—	筑摩書房	—	評論、現代社会論	(男性)おたく、ダイエットをする少女、ヤオイ、ヤオイ受容者
中島 梓	新・やおい、ゲリラ宣言	しん・やおい、げりらせんげん	1997	—	新版・小説道場 4	光風社出版	—	評論、現代社会論	ヤオイ、ヤオイ受容者、二次創作、ヤオイマンガ、ヤオイ小説

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	『掲載誌名』巻(号)、収録 単行本	出版者	掲載ページ (始-終)	視点・方法 (キーワードで自由記述、タグ付け)	対象 (キーワードで自由記述、タグ付け)
中島 梓	タナトスの子供たち—過剰適応の生態学—	たなどすのこどもたち—かじょうてきおのせいいたいがく—	1998	—	—	筑摩書房	—	評論、現代社会論	ヤオイ、ヤオイ受容者、二次創作、ヤオイマンガ、ヤオイ小説
中野 晴行	マンガ産業論	まんがさんぎょうろん	2004	—	—	筑摩書房	—	マンガ産業論	マンガ市場、マンガ雑誌
中野 晴行	謎のマンガ家・酒井七馬伝—「新宝島」伝説の光と影	なぞのまんがが・さかいしちまでん—「しんたからじま」でんせつのはかりとかげ	2007	—	—	筑摩書房	—	メディア史、作家論、産業論	酒井七馬、手塚治虫、「新宝島」
中野 晴行	マンガ進化論—コンテンツビジネスはマンガから生まれる！	まんがしんかろん—コンテンツびじねすはまんがからうまれる！	2009	—	—	ブルース・インスターア クションズ	—	マンガ産業論、コンテンツ産業論	マンガ市場、マンガ雑誌、コミックマーケット、コンテンツ市場
中野 晴行	手塚治虫と踏地裏のマンガたち*	てつかおさむとろじららのまんがたち	1993	—	—	筑摩書房	—	マンガ史、表現論	手塚治虫、赤本まんが、貸本、劇画、少女まんが、レディーズコミック、酒井七馬、手塚治虫、「まんがマン」、「ロスワールド」、「ヤネウラ3ちゃん」、「田中遼平、田川紀久雄」、「影」、「鉄人28号」、水島新司、雑誌、少女まんが
中野 晴行	手塚治虫のタカラヅカ*	てつかおさむのたからづか	1994	—	—	筑摩書房	—	評伝	手塚治虫、宝塚歌劇団
長岡 義幸	マンガはなぜ規制されるのか「有害」をめぐる半世紀の攻防	まんがはなぜせいざいされるのか「ゆうがい」をめぐるはんせいきのこうぼう	2010	—	—	平凡社	—	評論、メディア研究	表現規制
永山 薫	エロマンガ・スタディーズ—「快楽装置」としての漫画入門	えろまんが・すたでい—「かいらくそうち」としてのまんがにゅうもん	2006	—	—	イースト・プレス	—	ジャンル論、ジェンダー論、セクシュアリティ論、エロティシズム論	エロマンガ
永山 薫	マンガ論争勃発—2007-2008	まんがろんそうぼう—2007-2008	2007	永山薫・屋間たかし編著	—	マイクロマガジン社	—	インタビュー	表現規制、著作権、マンガのグローバル化
永山 薫	マンガ論争勃発2	まんがろんそうぼう2	2009	永山薫・屋間たかし編著	—	マイクロマガジン社	—	インタビュー	表現規制、コンテンツ産業、著作権
夏目 房之介	手塚治虫はどこにいる	てつかおさむはどこにいる	1992 → 1995	—	—	筑摩書房	—	作家論、作品論	手塚治虫、「新宝島」、「ジャングル大帝」、「鉄腕アトム」、「新選組」、「火の鳥」、水木しげる、大友克洋
夏目 房之介	マンガはなぜ面白いのか—その表現と文法	まんがはなぜおもしろいのか—そのひょうげんとぶんぽう	1997	—	—	日本放送出版協会	—	マンガ表現論	マンガ表現
夏目 房之介	マンガ世界戦略—カモノネギ化するマンガ産業	まんがせかいせんりやく—かもねぎかするまんがさんぎょう	2001	—	—	小学館	—	マンガ産業論	
夏目 房之介	マンガ学への挑戦—進化する批評地図	まんががくへのちようせん—しんかするひびょうちず	2004	—	—	NTT 出版	—	マンガ表現論、言語史、メディア論	メディアとしてのマンガ、言語、マンガ表現
長谷川 潮	少女たちへのプロバガンダ—「少女倶楽部」とアジア太平洋	しょうじょたちへのぷろばがんだ—「しょうじょくらぶ」とあじあたいへいよう	2012	—	—	梨の木舎	—	プロバガンダ研究	『少女倶楽部』、政治マンガ

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	『掲載誌名』巻(号)、収録単行本	出版者	掲載ページ(始-終)	視点・方法(キーワードで自由記述、タグ付け)	対象(キーワードで自由記述、タグ付け)
二上 洋一	少女まんがの系譜	しょうじょまんがのけいふ	2005	—	—	べんざん書房	—	評論、マンガ史、ジャンル史	少女マンガ
藤本 由香里	私の居場所はどこにあるの？少女マンガが歌す心のかたち	わたしのいばしよはよどこにあるの？ しょうじょまんががうたすところのかたち	1998	—	—	学陽書房	—	マンガ表現の評論、ジェンダー論	少女マンガ、レディースコミック、成年マンガ
藤本 由香里	快楽電流——女の、欲望の、かたち	かいらくでんりゅう——おんなのかたち、よくぼうの、かたち	1999	—	—	河出書房新社	—	マンガ表現の評論、ジェンダー論、セクシュアリティ論	少女マンガ、レディースコミック、成年マンガ
藤本 由香里	少女まんが魂	しょうじょまんがたましい	2000	—	—	白泉社	—	作家、作品論、作者へのインタビュー	少女マンガ、レディースコミックの作者
藤本 由香里	少年愛 / やおい・BL 二〇〇七年現在の観点から	しょうねんあい / やおい・BL 2007ねんげんざいのしてんから	2007	—	『ユリイカ』39(16)	青土社	36-47	評論、読者論、ジェンダー論	少年愛からボーイズラブまで、マンガ読者
古永 真一	BD(ベアー・デー)——第九の芸術	BD (ベアー・デー) ——だいくのげいじゆつ	2010	—	—	未知谷	—	比較文化論、メディア論、産業論、作家論、メディア史	バンド・デジネ
フレデリック L. ショット	ニッポンマンガ論——日本マンガにはまったアメリカ人の熱血マンガ論——	にっぽんまんがろん——にほんまんがにはまったあめりかじんのおねつけつまんがろん——	1998	—	—	マール社	—	評論、現代社会論、作家・作品論	手塚治虫、マンガ雑誌
堀 あきこ	欲望のコード——マンガにみるセクシュアリティの男女差	よくぼうのコード——まんがにみるせくしゆありていのだんじよさ	2009	—	—	臨川書店	—	ジェンダー論、マンガ表現論	男性向けポルノコミック、レディースコミック、ティーンズラブ、ヤオイ
堀 あきこ	ヤオイはゲイ差別か？——マンガ表現と他者化	やおいはいげいさべつつか？——まんがひょうげんとたしやか	2010	好井裕明編著	セクシュアリティの多様性と排除	明石書店	21-37	ジェンダー論、ジャンル論	ヤオイ、ゲイコミック、男性向けエロマンガ
増田 のぞみ	マンガにおける荷重表現——ペー지의「めぐり効果」とマンガの「文法」をめぐって	まんがにおけるかじじゆひうひょうげん——ページの「めぐりこうか」とまんがの「ぶんぽう」をめぐって	2001	木村洋二・増田のぞみ共著	『関西大学社会学部紀要』32(2)	関西大学社会学部	205-251	ソシオン理論、「荷重」概念、記号論、比較分析	日本のストーリーマンガ (の表象)
増田 のぞみ	マンガ表現の時空 第二部 少女マンガにおけるコマ構成	まんがひょうげんのかうくう だいはふ しょうじょまんがにおけるこまこうせい	2002	—	『関西大学社会学部紀要』33(2)	関西大学社会学部	53-141	マンガ表現論、コマの分析、1990年代までの表現史	少女マンガ
増田 のぞみ	現代における「少女」イメージの諸類型——1990年代にみられる変化を中心に——	げんだいにおける「しょうじょ」いめい——しよるいけい——1990ねんだいにみられるへんかをちゆうしんに——	2003	—	『関西大学大学院人間科学——社会学・心理学研究科院生協議会 究——』58	関西大学大学院社会学部	37-51	キャラクターの分析、4類型	少女マンガ
増田 のぞみ	近代大阪における漫画出版——風刺雑誌・漫画雑誌が伝えるもの	きんだいおおさかにおけるまんがのれいはいふ——ふうしざっし・まんがざつつかつたええるもの	2010	吉川登編	近代大阪の出版	創元社	249-297	メディア史研究	明治・大正期の諷刺雑誌、漫画雑誌(『滑稽新聞』『大阪滑稽新聞』『大阪バック』)
松村 昌家	『パンチ』素描集——19世紀のロンドン	『ばんち』そびょうしゅう——じゆうきゆうせいさいきのろんどん	1994	—	—	岩波文庫	—	社会批評分析	政治マンガ、風刺週刊誌『パンチ』
溝口 彰子	ホモフォビックなホモ、愛ゆえのレイプ、そしてクィアなレスビアン	ほもふおびっくなほも、あいゆえのれいはいふ、そしてくゐなれすびあん	2000	伏見恵明編	『クィア・ジャパン』(2)	勁草書房	193-211	ジャンル論、クィア・スタディーズ、テクスト分析	ボーイズラブ

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	掲載誌名』巻(号)、収録 単行本	出版者	掲載ページ (始-終)	視点・方法 (キーワードで自由記述、タグ付け)	対象 (キーワードで自由記述、タグ付け)
溝口 彰子	それは、誰の、どんな、「リアル」？——ヤオイの言説空間を整理するところみ	それは、だれの、どんな、「リアル」？——やおいのけんせつくうかんをせりするところみ	2003	—	『イメージ&ジェンダー』(4)	イメージ&ジェンダー研究会	27-55	ジャンル論、ジャンル史、カルチュラル・スタディーズ	ボーイズラブ、やおい、JUNE、少年愛、少女マンガ
溝口 彰子	妄想力のポテンシャル——レズビアン・フェミニスト・ジャンクルとしてのヤオイ	もうそうりよくのぼてんしやーれずびあん・ふえみにすと・じやんととしてのやおい	2007	—	『ユリイカ』39(7)	青土社	56-62	ジャンル論、クイア・スタディーズ	ボーイズラブ
溝口 彰子	反映/投影論から生産的フォーラムとしてのジャンルへ——ヤオイ考察からの発言	はんえい/どうえいろんからせいさんてきふふおーらむとしてのじやんるへ——やおいこうさつからのいげん	2010	ジャクリクス・ベルント編	『国際マンガ研究』1) 世界のコミックスとコミック本の世界——グローバルなマンガ研究の可能性を開くために	京都精華大学国際マンガ研究センター	141-163	ジャンル論、クイア・スタディーズ	ヤオイ、ヤオイ愛好家
宮台 真司	サブカルチャー・神話解体——少女・音楽・マンガ・性の30年とコミュニケーションの現在	さぶかるちゃーしんわかいたいいーしよじよ・おんがく・まんが・せいのごまゆにけーしよんとげんざい	1993	宮台真司・石原英樹・大塚明子共著	—	ハルコ出版	—	オタク研究、少女マンガ研究、青少年マンガ研究、サブカルチャー研究	少女マンガ、異世界マンガ、「北斗の拳」、「機動警察パトレイバー」、「うる星やつら」、「ぼくの地球を守って」、「東京BABYLON」
宮本 大人	マンガと乗り物——新宝島とそれ以前	まんがどのりもの～しんたからじまとそれいぜん	1998	霜月たかな編	誕生！「手塚治虫」——マンガの神様を見てたバックグラウンド	朝日ソノラマ	67-98	マンガ表現論、マンガ史	『新宝島』、「コトモ南海記」、「汽車旅行」、「赤本マンガ」、「児童読物改善二闘スル指示要綱」
宮本 大人	昭和50年代のマンガ批評、その仕事と場所	しよわわ50ねんだいのまんがひびよう、そのしごととほしよ	2001	—	『言語文化研究』13(1)	立命館大学国際言語文化研究所	83-94	言説史	マンガ批評
宮本 大人	「漫画」概念の重層化過程——近世から近代における	「まんが」がいぬんのじゅうそうかかてい——きんせいからきんだいにおける	2003	—	『美術史』(154)	美術史学会	319-334	漫画史、美術史	語義の変遷
宮本 大人	漫画においてキャラクターが「立つ」とはどういうことか	まんがにおいてきゃらくたーが「たつ」とはどういうことか	2003	—	『日本児童文学』49(2)	日本児童文学者協会	46-52	キャラクター論	キャラクター、「正チャンの冒険」
村上 知彦	まんが解体新書——手塚治虫のいない日々のために	まんがいかいたいしんしよ——てづかねさむのいなひびのために	1998	—	—	青弓社	—	作家論、作品論、批評	手塚治虫、戦後まんが
守 如子	女はポルノを読む——女性の性欲とフェミニズム	おんなはぼほのをよむ——じよせいのせいよくとふえみにすむ	2010	—	—	青弓社	—	ジャンル論、表現論、読者論	レディースコミック、ボーイズラブ、読者
森川 嘉一郎	趣都の誕生 萌える都市アキハバラ	しゅどのたんじよう もえるとしあきはばら	2003 → 2006	—	—	幻冬舎→幻冬舎	—	意匠論、現代文化論、オタク論	オタク
安川 一	マンガの情景——ヴィジュアルの循環	まんがじようけい——ういじゅあるのじゅんかん	1993	香内三郎・山本武利・林利隆・田村敏生・真鍋一史・古賀豊・花田達朗・広瀬英彦・小玉美穂子・安川一・吉見俊哉著	メディアの現在形	新曜社	274-307	メディア研究、表現論、社会学、ジャンル論	表現規制、性の商品化、「有害」コミック運動
安川 一	マンガの語られ方——「ヴィジュアル」をめぐる困惑	まんがのかたられかた——ういじゅある”をめぐるこんわく	1994	林進編	メディアの現在	学文社	93-109	メディア研究	研究方法、作品論・作家論の批判的検討
ヤマダ トモコ	まんが用語 (24年組) は誰を指すのか?	まんがじようご (24ねんぐみ) はだれをさすのか?	1998	—	『COMIC BOX』(108)	ふゅーじょんふろだくと	58-63	評論、〈24年組〉言説の批判的検討	24年組、24年組への言説

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	『掲載誌名』巻(号),収録単行本	出版者	掲載ページ(始-終)	視点、方法(キーワードで自由記述,タグ付け)	対象(キーワードで自由記述,タグ付け)
ヤマダ トモコ	ブレ「やおい・BL」という視点から「お花畑」を準備した作品たち	ふれ「やおい・BL」という視点から「おはなばたけ」をはじめびしたさくひんたち	2007	—	『ユリイカ』39(7)	青土社	123-131	評論,作品一覽	1980年代までの少女(男性同性愛)マンガ
山中 千恵	マンガ表現形式の越境——韓国における紙媒体マンガを事例として	まんがびょうげんけいしきのえつきよう——かんこくにおけるもほうかいぞくばんまんがをじれいとして	2010	山田奨治編	コモンズと文化——文化は誰のものか	東京堂出版	46-80	マンガ表現論	韓国の漫画,純情漫画,キム・ヨンスク
山中 千恵	〈マンガと差別〉を考えるために	〈まんがとさべつ〉をかんがえるために	2011	荻野昌弘編	文化・メディアが生み出す排除と解放	明石書店	171-205	マンガ研究の方法,マンガ表現論,キャラクター論	マンガ研究
山中 千恵	読まれない「体験」・越境できかない「記憶」——韓国における『はだしのゲン』の受容をめぐって——*	よまれない「たいけん」・えつきようできかない「まおく」——かんこくにおける『はだしのげん』のじゆようをめぐって——	2006	吉村和真・福岡良明共編著	「はだしのゲン」がいた風景——マンガ・戦争・記憶	桜出版社	211-245	ポピュラーカルチャー研究,受容論,メディア論,海外(韓国)への越境と受容	「はだしのゲン」(韓国版),韓国での出版市場
山中 千恵	『ドラゴンボール』と出会った韓国——暴力的で感情的な〈他者〉としてのマンガ*	『どらごんぼーる』とであつたかんこく——ぼうりよくてきでせんじようてきな〈たしや〉としてのマンガ	2008	伊藤公雄編	マンガのなかの〈他者〉	臨川書店	96-131	社会学,文化論,大衆文化の受容,海外(韓国)の展開,読者論	「ドラゴンボール」(韓国版)
吉村 和真	〈似顔絵〉の成立とまんが——顔を見ているのは誰か	〈にがおえ〉のせいりつとまんが——かおをみているのはだれか	2002	ジャクリース・ベルント編	マン美研——マンガの美/学的な次元への接近	醍醐書房	93-131	マンガ表現論,美学,キャラクター論	顔絵,風刺漫画『団圓珍聞』『冒険ダゴン吉』,「ぼくんち」,「江戸むらさき特急」
吉村 和真	「はだしのゲン」がいた風景——マンガ・戦争・記憶	「はだしのげん」がいたふうけい——まんが・せんそう・きおく	2006	吉村和真・福岡良明共編著	—	桜出版社	—	マンガ表現論,作品論	「はだしのゲン」
吉村 和真	差別と向き合うマンガたち(ビジュアル文化シリーズ)	さべつとむきあうまんがたち(びじゅあるぶんかしりーず)	2007	吉村和真・表智之・田中聡共著	—	臨川書店	—	マンガ表現論,差別論,ポピュラーカルチャー研究,歴史学	少年マンガ,少女マンガ,成年マンガ,エッセイマンガなど
吉村 和真	歴史表象としての視覚的「日本人」像	れきしひょうしょうしよとしてのしかくてき「にほんじん」ぞう	2008	伊藤公雄編	マンガのなかの「他者」	臨川書店	62-95	歴史学,表象文化論,近代的自我認識,「国民」「人種」概念	明治期の風刺漫画
米沢 嘉博	戦後少女マンガ史	せんごしよじょうじよまんがし	1980 → 2007	—	—	新評社 → 筑摩書房	—	ジャンル論,ジャンル史	少女マンガ
米沢 嘉博	戦後SFマンガ史	せんごSFまんがし	1980 → 2008	—	—	新評社 → 筑摩書房	—	ジャンル論,ジャンル史	SFマンガ
米沢 嘉博	戦後ギャグマンガ史	せんごぎゃくまんがし	—	—	—	新評社 → 筑摩書房	—	ジャンル論,ジャンル史	ギャグマンガ
米沢 嘉博 (監修)	マンガと著作権——ハロディと引用と同人誌と	まんがとちやくけん——はろでいとじんしよとうじんしよ	2001	—	—	コミケット	—	シンポジウム報告集	同人誌,著作権
米沢 嘉博	戦後エロマンガ史	せんごえろまんがし	2010	—	—	青林工藝舎	—	ジャンル論,ジャンル史	エロマンガ

著者	タイトル	たいとる	発表年	編著者・共著者	『掲載誌名』巻(号)、収録 単行本	出版者	掲載ページ (始-終)	視点・方法 (キーワードで自由記述、タグ付け)	対象 (キーワードで自由記述、タグ付け)
米沢 嘉博	マンガ批評宣言*	まんがびひひょうせんげん	1987	米沢嘉博編	—	亜紀書房	—	評論、批評、キャラクター論、作家論、読者論	カリカチュア、「サイボーグ009」、「のたり松太郎」、「じやりん子チエ」、「ゴルゴ13」、「マカロニほうれん荘」、「めぞん一刻」、「気分はもう戦争」、「がきデカ」、手塚治虫作品、白土三平作品、大島弓子作品
阿島 俊	漫画同人誌エトセトラ'82～'98——状況論とレビューで読むおたく史	まんがどうじんしんしえとせとら'82～'98——じょうきようろんとれびゅう—でよわたくし	2004	—	—	久保書店	—	ジャンル論、ジャンル史	同人誌、オタク、やおい
四方田 犬彦	漫画原論	まんがげんろん	1980 → 2007	—	—	筑摩書房 →筑摩書房	—	マンガ表現論、記号論	マンガの表現構造
四方田 犬彦	白土三平論	しらとさんべいろん	2004	—	—	作品社	—	作家論	白土三平

※用語の表記は基本的に、それぞれ公表中のプロフィールに従っている。
※ 3月の改訂時に追記した著者は、氏名末尾に「*」をつけている。

3. 国外におけるマンガ／コミック研究者・評論家リスト

MAPPING Comics/Manga Studies outside of Japan/the Japanese language

	name	affiliation	field of expertise	focus within comics studies	research topic: geopolitically	mainstream or alternative comics	format	general orientation	main site of activity	main publications
1	Alaniz, José (USA) PhD	Univ. of Washington	literature, Russia/Eastern Europe	authors, comics history	comics, Russia/Eastern Europe	alternative, comics	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	2010. <i>Komiks: Comic Art in Post-Soviet Russia</i> , University Press of Mississippi.
2	Baetens, Jan (Belgium) PhD	Prof., Univ. Leuven	narratology, semiotics	aesthetics	comics, American, European	alternative, mainstream	graphic narrative	theory	academia-orientated	2001. Ed. <i>The Graphic Novel</i> , Leuven University Press. 1993. With Pascal Lefèvre, <i>Pour une lecture moderne de la bande dessinée</i> , Bruxelles, Stitching Sherpa-CBDD
3	Bauwens-Sugimoto, Jessica, (Japan) PhD	Kyoto Seika University IMRC	sociology	fan culture, society, genre	manga	mainstream	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	Forthcoming. With Nora Renka. "Fanboys and "Nanuto" Epics: Exploring New Ground in Fanfiction Studies," Berndt, Jaqueline and Bettina Kummerling-Meibauer (eds) <i>Manga's Cultural Crossroads</i> , New York/London, Routledge. "Subverting masculinity, misogyny, and reproductive technology in SEX PISTOLS," <i>IMAGE&NARRATIVE. Visual Language of Manga</i> , Vol. 12, 1-18. 日本語業績あり
4	Beaty, Bart (Canada) PhD	Univ. of Calgary	media studies, Francophone culture	aesthetics, authors, history	comics, BD, American, European	alternative	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	2012. <i>Comics versus Art</i> , University of Toronto Press. 2011. "Introduction," <i>IN FOCUS: Comics Studies — Fifty Years After Film Studies</i> , <i>Cinema Journal</i> (SCMS), spring, 50:3, 106-110.
5	Berndt, Jaqueline (Japan) PhD	Kyoto Seika Univ.	media studies, Japanese studies, CS	aesthetics, interculture	manga, comics	alternative, mainstream	graphic narrative	theory empir.	academia-orientated	2007. <i>Un/popular Culture: Transforming the European Comic Book in the 1990s</i> , Toronto University Press. Forthcoming. With Bettina Kummerling-Meibauer, eds. <i>Manga's Cultural Crossroads</i> , New York/London, Routledge. 2012. Ed. <i>Manhwa. Manga. Manhwa. East Asian Comics Studies</i> , Leipzig, Leipzig University Press.
6	Bouissou, Jean-Marie (France) PhD	Science Po	polittology, history	history, interculture	manga	mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2011. Ed. <i>Intercultural Crossovers. Transcultural Flows: Manga/Comics</i> , Kyoto Seika University imrc. 日本語業績あり
7	Brianza, Casey	University of Cambridge	sociology	interculture	manga, comics	mainstream	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated and practice-orientated	2011. With Marco Pellitteri and G. Di Fratta. <i>Il manga. Storia e universi del fumetto giapponese</i> , Tunu. Forthcoming. "Remembering the Future: Cartooning Alternative Life Courses in Up and Future Lovers," <i>The Journal of Popular Culture</i> . 2010. "Producing Comics Culture: A Sociological Approach to the Study of Comics," <i>Journal of Graphic Novels and Comics</i> 1 (2): 105-119. 2009. "Books, Not Comics: Publishing Fields, Globalization, and Japanese Manga in the United States," <i>Publishing Research Quarterly</i> 25 (2): 101-117.

	name	affiliation	field of expertise	focus within comics studies	research topic: geopolitically	mainstream or alternative comics	format	general orientation	main site of activity	main publications
8	Brophy, Philip (Australia)	critic, artist	film studies, media studies	authors (Tezuka), history	manga	mainstream	graphic narrative	empir. theory	practice-orientated	2007. <i>Tezuka the Marvel of Manga</i> . National Gallery of Victoria.
9	Chute, Hillary L. (USA) PhD	Univ. of Chicago	English literature, gender studies, psychoanal.	authors, aesthetics	comics, American, European	alternative	graphic narrative	theory empir.	academia-orientated	2010. <i>Graphic Women: Life Narrative and Contemporary Comics</i> . New York, Columbia University Press. 2008. "Are Comics Literature? Reading Graphic Narrative," <i>PMLA</i> , 123. 452-465.
10	Cohn, Neil PhD	University of California	linguistics, semiotics	aesthetics, interculture	manga	mainstream	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	2011. "A different kind of cultural frame: An analysis of panels in American comics and Japanese manga." In <i>Image&Narrative</i> 12/1: 120-134. 2010. Ed. <i>Manga: An Anthology of Global and Cultural Perspectives</i> . New York. Continuum International.
11	Duus, Peter PhD	Stanford University	history (Japanese)	history	cartoon	mainstream	cartoon	theory	academia-orientated	2001. "Presidential Address: Weapons of the Weak, Weapons of the Strong. The Development of the Japanese Political Cartoon," <i>The Journal of Asian Studies</i> , 60. 4 (November): 965-997.
12	Frahm, Ole (Germany) PhD	University of Hamburg	history, popular culture studies	aesthetics, media st., authors, comics hist.	comics, American, European	alternative, mainstream	graphic narrative	empir. theory	practice-orientated	2010. "Every Window Tells a Story: Remarks on the Urbanity in Early Comic Strips." Jörn Ahrens & Arno Meieling, eds. <i>Comics and the City: Urban Space in Print, Picture and Sequence</i> . New York. Continuum. 32-44 2010. <i>Die Sprache des Comics [The Language of the Comics]</i> . Hamburg. Philo Fine Arts. 2000. "Weird Signs: Comics as Means of Parody." In <i>Comics & Culture: Analytical and Theoretical Approaches to Comics</i> . Anne Magnussen and Hans-Christian Christiansen eds, Copenhagen. Museum Tusulanum Press. 177-191.
13	Fujimoto Yukari (Japan)	Meiji Univ., critic	gender	aesthetics, genre, history, media	manga	mainstream	graphic narrative	empir.	practice-orientated	2011. "Historical shjo manga: on women's alleged dislike." (transl. Jaqueline Berndt), <i>JJOCA</i> , Fall, special issue on women's manga. 87-102. 2004. "Transgender: Female Hermaphrodites and Male Androgynes." (transl. Linda Flores and Kazumi Nagaike), Shailyn Orbaugh ed. <i>U.S.-Japan Women's Journal</i> , English Supplement. 24: 76-117.

	name	affiliation	field of expertise	focus within comics studies	research topic: geopolitically	mainstream or alternative comics	format	general orientation	main site of activity	Main publications
14	Gardner, Jared (USA) PhD	Ohio State University	English literature, narratology, film studies, popular culture studies	aesthetics, authors	comics, American	alternative	graphic narrative	theory empir.	academia-orientated	2012. <i>The Rise and Fall of Early American Magazine Culture</i> . Champaign, Illinois: University of Illinois Press. 2011. <i>Projections: Comics and the History of 21st-Century Storytelling</i> . Palo Alto, California: Stanford University Press. 2010. "Same Difference: Graphic Alterity in the Work of Gene Luan Yang, Adrian Tomine, and Derek Kim", in Frederick Luis Aldama, ed. <i>Multicultural Comics: From Zap! To Blue Beetle</i> 132-146.
15	Groensteen, Thierry (France) PhD	free writer and editor	semiotics	aesthetics, authors, history	comics, BD, American, European, manga	alternative	graphic narrative, strips, cartoon	empir. theory	practice-orientated	2010b. <i>Parodies. La bande dessinée au second degré</i> . Paris: Flammarion 2010a. "Challenges to international comics studies in the context of globalization," Jaqueline Berndt ed. <i>Comics Worlds and the World of Comics</i> . Kyoto Seika University IMRC. 15-26 1999. <i>Système de la bande dessinée</i> . Paris Presses Universitaires de France (Engl. transl. 2007, Jap. Transl. 2009).
16	Grove, Laurence (UK) PhD	Univ. of Glasgow	French Literature, art history	aesthetics, semiotics, history	BD	alternative, mainstream	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	2010. <i>Comics in French: the bande dessinée in context</i> . Oxford/New York: Berghahn Books 2005. <i>The Francophone Bande Dessinée</i> . Amsterdam/New York: Rodopi. 2005. <i>Text-image mosaics in French culture: emblems and comic strips</i> . Farnham. Ashgate
17	Hatfield, Charles (USA) PhD	California State University	English literature, narratology	authors aesthetics	comics, American	alternative	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	2005. <i>Alternative Comics: An Emerging Literature</i> . Jackson, Mississippi: University Press of Mississippi
18	Holmberg, Ryan (USA) PhD	free writer	art history, Japanese studies	aesthetics, authors, history	manga, gekiga	alternative, mainstream	graphic narrative	empir.	practice-orientated	2011b. <i>Garo Manga: The First Decade, 1964-1973</i> (exh. cat., The Center for Book Arts, New York). 2009. "Hear no, speak no: Sasaki Maki manga and nansensu, circa 1970," <i>Japan Forum</i> , 21 (1): 115-141. 2008. "Let us go: An interview with Hiroki Ōtsuka," <i>UOCA</i> , 10 (1): 200-217.
19	Itō Gō (Japan)	Tokyo Kogei Univ., critic	semiotics, visual culture	aesthetics, genre, media, interculture	manga	mainstream	graphic narrative	empir. theory	practice-orientated	2011a. "Particularities of boys' manga in the early 21st century: How <i>MARUTO</i> differs from <i>DRAGON BALL</i> ," Jaqueline Berndt ed. <i>Comics Worlds and the World of Comics</i> . Kyoto Seika University IMRC. 9-16. 2011a. "Tezuka is Dead: Manga in Transformation and its Dysfunctional Discourse," (transl. and introduction by Mimi Nakamura) <i>Mechademia 6: User Enhanced</i> . University of Minnesota Press. 69-83. 2007. "Manga History Viewed through Proto-Characteristics," Philip Brophy ed. <i>Tezuka. The Marvel of Manga</i> . National Gallery of Victoria. 107-113.

	name	affiliation	field of expertise	focus within comics studies	research topic: geopolitically	mainstream or alternative comics	format	general orientation	main site of activity	Main publications
20	Ito Yu (Japan)	Kyoto Seika University IMRC	ethnography, history		manga, BD	alternative, mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2006. <i>Barefoot Gen</i> in Japan: An Attempt at Media History", Jaqueline Berndt and Steffi Richter, eds. <i>Reading Manga. Local and Global Perceptions of Japanese Comics</i> . Leipzig University Press. 21-38.
21	Kammenberg, Gene	Independent		aesthetics	comics, American	alternative, mainstream		empir. theory	academia-orientated	2001. "Graphic Text, Graphic Context: Interpreting Custom Fonts and Hands in Contemporary Comics," Paul C. Gutjahr & Megan L. Benton, eds. <i>Illuminating Letters: Typography and Literary Interpretation</i> . Amherst. University of Massachusetts Press. 165-182. 2001. "The Comics of Chris Ware: Text, Image, and Visual Narrative Strategies," Robin Varum and Christina Gibbons eds. <i>The Language of Comics: Word and Image</i> . Jackson. University of Mississippi Press. 174-200.
22	Kern, Adam L. (USA) PHD	Univ. of Wisconsin-Madison; Assoc. Prof.	literature, Japanese studies, visual culture	aesthetics, history	manga	mainstream	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	2008. <i>A Comics Studies Reader</i> . Jackson. University Press of Mississippi. 2006. <i>Manga from the Floating World: Comicbook Culture and Kiyoshi of Edo Japan</i> . Cambridge Massachusetts. Harvard University Asia Center. 日本語業績あり
23	Kim, Hyojin	University of Seoul	cultural anthropology, Japanese studies, popular cultural studies, gender	fan culture, society	manhwa, manga	mainstream	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	2011. "Crossing Double Borders: Korean Female Amateur Comics Artists in the Globalization of Japanese Dojin Culture," Ogi, Fusami, Cheng Tju Lim, Jaqueline Berndt, eds. <i>IJOCA</i> 13 (2) Fall 2011. <i>Women's Manga beyond Japan: Contemporary Comics as Cultural Crossroads in Asia</i> . 116-133.
24	Köhn, Stephan (Germany)	Leipzig Univ.	literature, Japanese studies, popular culture studies	history, interculture, genre	manga, gekiga	mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2005. <i>Traditionen visuellen Erzählens in Japan – eine paradigmatische Untersuchung der Entwicklungslinien vom Faltschirmbild zum narrativen Manga (Kulturwissenschaftliche Japanstudien 2)</i> . Wiesbaden. Harrassowitz 2005. 日本語業績あり
25	LaMarre, Thomas (Canada) PHD	McGill Univ.	media studies, Japanese studies,	aesthetics	manga	mainstream	graphic narrative	theory	academia-orientated	2010. "Manga Bomb: Between the lines of Barefoot Gen", Jaqueline Berndt, ed. <i>Comics Worlds and the World of Comics</i> . Kyoto Seika University IMRC. 263-307 (reprinted as "Believe in Comics: Forms of Expression in Barefoot Gen," <i>Mangalopia: Essays on manga and anime in the modern world</i> , edited by Timothy Perper and Martha Comog. 191-207. Englewood, Colorado. Libraries Unlimited 2011) 日本語業績あり

	name	affiliation	field of expertise	focus within comics studies	research topic: geopolitically	mainstream or alternative comics	format	general orientation	main site of activity	Main publications
26	Lefevre, Pascal (Belgium) PhD	Leuven Univ.	media studies, narratology	aesthetics, authors, history	comics, European, American, manga, gekiga	alternative, mainstream	graphic narrative, strips	empir. theory	academia- and practice-orientated	2011. "Wise en scène and Framing. Visual Storytelling in Lone Wolf and Cub," Randy Duncan & Matthew J. Smith, eds. <i>Critical Approaches to Comics: Theories and Methods</i> edition. 71-83 2010. "Researching Comics on a Global Scale," Jaqueline Berndt ed. <i>Comics Worlds and the World of Comics</i> . Kyoto Seika University IMRC 81-90. 日本語業績あり
27	Lent, John A. (USA) PhD	Temple Univ.	media studies	history	comics, manga, manhwa	alternative, mainstream	graphic narrative, cartoon, strips	empir.	practice-orientated	2004. <i>Ed. Comic art in Africa, Asia, Australia, and Latin America through 2000: an international bibliography</i> (Bibliographies and indexes in popular culture, no. 11). Westport C.: Praeger. 2001. Ed. <i>Illustrating Asia: comics, humor magazines, and picture books</i> (ConsumAsian book series). University of Hawaii Press. 1999. Ed. <i>Themes and Issues in Asian Cartooning: Cute, Cheap Mad, and Sexy</i> . Bowling Green. Bowling Green State University Popular Press.
28	Lim Cheng T'ju (Singapore)	critic	history	authors, history	comics, Southeast Asia	alternative	graphic narrative, cartoon, strips	empir.	practice-orientated	2011. Co-ed with Fusami Ogi and Jaqueline Berndt "Women's Manga beyond Japan Contemporary Comics as Cultural Crossroads in Asia," <i>IJOCA</i> 13 (2): 3-199. 2004. "Chop Suey – Cartoons about the Japanese Occupation and. National Education in Singapore," <i>IJOCA</i> 6 (2): 415-430.
29	Magnussen, Anne (Denmark)	cultural anthropology, Spanish, Latin America studies, gender	cultural anthropology, Spanish, Latin America studies, gender	history	comics, Latin America, Spain	alternative, mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2003. Spanish Comics and Family, <i>IJOCA</i> 5 (2): 66-84. 2000. Co-ed with Hans-Christian Christiansen <i>Comics & Culture: Analytical and Theoretical Approaches to Comics</i> . Copenhagen. Museum Tusulanum Press.
30	Mainardi, Patricia (USA) PhD	City University of New York	art history, France	history, aesthetics	BD	alternative		empir. theory	academia-orientated	2011. "From Popular Prints to Comics," <i>19th Century Art Worldwide</i> . Vol. 10 (1), np. 2007. "The Invention of Comics," <i>19th Century Art Worldwide</i> . Vol. 6 (1)
31	McLelland, Mark, (Australia) PhD	University of Wollongong	gender studies, Japanese studies	fan culture, society	manga, BL	mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2011. "Thought policing or the protection of youth? Debate in Japan over the 'non-existent youth bill,'" <i>IJOCA</i> 13 (1): 348-367. 2009. "Japanese Transnational Fandoms and Female Consumers," guest-ed. of <i>Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific</i> . np.

	name	affiliation	field of expertise	focus within comics studies	research topic: geopolitically	mainstream or alternative comics	format	general orientation	main site of activity	Main publications
32	Merino, Ana (Spain/USA) PhD	Univ. of Iowa, artist, poet	literature, Spanish, gender studies	aesthetics, authors	comics, Latin America, Spain	alternative	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2004. ed. "Spanish Comics: A Symposium," <i>IJCCA</i> , 5 (2) 3-153.
33	Miller, Ann(UK) PhD	Univ. of Leicester	French literature, cultural studies	aesthetics, history	BD	alternative	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	2007. <i>Reading Bande Dessinée: Critical Approaches to French-language Comic Strip</i> , Bristol/Chicago, intellect.
34	Miodrag, Hannah (UK)	Univ. of Leicester	narratology, linguistics	aesthetics, authors	comics, American, British	alternative	graphic narrative, strips	empir. theory	academia-orientated	2011. "Narrative, language, and comics-as-literature," <i>Studies in Comics</i> 2 (2): 263-279 2010. "Fragmented Text: The Spatial Arrangement of Words in Comics," <i>IJCCA</i> , Fall, 309-327.
35	Miyamoto Hirohito (Japan) PhD	Meiji Univ.	history	history, cultural representation, media	manga	mainstream	graphic narrative	empir. theory	practice-orientated	2011. "How Characters Stand Out" (transl. Thomas LaMare), <i>Mezademia</i> , University of Minnesota Press, vol. 6, 84-92. 2002. "The Formation of an Impure Genre. On the Origins of Manga," (transl. Jennifer Prough). <i>Review of Japanese Culture and Society</i> , Special Issue: <i>Meiji Literature and Artwork</i> , ed. by the Center for Inter-Cultural Studies and Education, Jōsei University, Tōkyō, vol. XIV (December): 39-48.
36	Mizoguchi Akiko (Japan) PhD	Tama Art University	literature, gender, cultural studies	fan culture	manga	alternative, mainstream	graphic narrative	empir. theory	practice-orientated	2010. "Theorizing the comics/manga genre as a productive forum: Yaoi and beyond," Jaqueline Berndt, ed., <i>Comics Worlds and the World of Comics</i> , Kyoto Seika University IMRC, 143-168. 2003. "Male-Male Romance by and for Women in Japan: A History and the Subgenres of Yaoi Fictions," <i>U.S.-Japan Women's Journal</i> , 25, 49-75.
37	Nagaike Kazumi (Japan) PhD	Oita Univ.	literature, Japanese studies, gender, cultural studies	genre, fan culture, intercultural	manga	mainstream	graphic narrative	theory	academia-orientated	2011. With Kaori Yoshida, "Becoming and Performing the Self and the Other: Fetishism, Fantasy and Sexuality of Cosplay in Japanese Girls'/Women's Manga Comics," <i>Asian Pacific World: The Journal of the International Association of Asian Pacific Studies</i> , vol. 2, 22-43. 2010. "The Sexual and Textual Politics of Japanese Lesbian Manga: Reading Romantic and Erotic Yuri Narratives," <i>Electronic Journal of Contemporary Japanese Studies</i> . 2009. "Elegant Caucasians, Amorous Arabs, and Invisible Others: Signs and Images of Foreigners in Japanese BL Manga," <i>Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific</i> , no. 20, April 2009, np.

	name	affiliation	field of expertise	focus within comics studies	research topic: geopolitically	mainstream or alternative comics	format	general orientation	main site of activity	Main publications
38	Natsume Fusanosuke (Japan)	Gakushuin Univ.	artist, critic	aesthetics, history, intercultural	manga	mainstream	graphic narrative	empir. theory	practice-orientated	2010. "Pictotext and panels: commonalities and differences in manga, comics and BD." Jaqueline Berndt ed., <i>Comics Worlds and the World of Comics</i> . Kyoto Seika University IMRC. 37-52. 2008. "Manga: <i>Komatopia</i> ." (transl. by Margherita Long, introduction by Hajime Nakatani) <i>Mechademia 3: Limits of the Human</i> . University of Minnesota Press. 65-74.
39	Ögi Fusami (Japan) PhD	Chikujji Jogakuin Univ.	literature, gender	genre, audience, intercultural	manga, American comics	mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2011. Co-ed with Jaqueline Berndt and Lim Cheng Tju. "Women's Manga beyond Japan Contemporary Comics as Cultural Crossroads in Asia." <i>JOCA</i> 13. 2. Fall: 3-199. 2001. "Beyond <i>Shojo</i> . Blending Gender: Subverting the Homogendered World in <i>Shojo Manga</i> (Japanese Comics for Girls)." <i>JOCA</i> , fall 2001: 151-161.
40	Omote Tomoyuki (Japan)	KitaKyushu Manga Museum	literature	history	alternative	mainstream	graphic narrative	empir.	Academia-orientated	Forthcoming. "'Naruto' as a Typical Weekly Magazine Manga." Jaqueline Berndt and Bettina Kuemmerling-Meibauer, eds. <i>Manga's Cultural Crossroads</i> . New York/London. Routledge. 161-169.
41	Onoda Power, Natsu (US)	Georgetown University, artist	Theatre and performance studies	aesthetics, authors	manga (Tezuka)	mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2009. <i>God of Comics. Osamu Tezuka and the Creation of Post-World War II Manga</i> . Jackson. University Press of Mississippi.
42	Orbaugh, Sharalyn	University of British Columbia	Far-Eastern languages	history, aesthetics	manga, kamishibai	mainstream	graphic narrative	theory	academia-orientated	2010. "Girls Reading Harry Potter, Girls Writing Desire: Amateur Manga and Shojo Reading Practices." Tomoko Aoyama and Barbara Hartley, eds. <i>Girl Reading Girl in Japan</i> . New York/London. Routledge. 174-186. 2012b. "Kamishibai and the Art of the Interval." <i>Mechademia 7</i> . University of Minnesota Press. 78-100. 2012a. "How The Pendulum Swings: Kamishibai and Censorship under the Allied Occupation." Tomi Suzuki, Hirokazu Toeda, Hikari Hori and Kazushige Munakata, eds. <i>Censorship, Media and Literary Culture in Japan: From Edo to Postwar</i> . Tokyo. Shin'yōsha. 161-174.
43	Ōtsuka Eji (Japan)	writer, critic	literature, narratology			mainstream	graphic narrative	empir. theory	practice-orientated	2010. "World and Variation: The Reproduction and Consumption of Narrative", (transl. and introduction by Marc Steinberg). <i>Mechademia 5: Fanthropologies</i> . University of Minnesota Press. 98-117. 2008. "Disarming Atomi: Tezuka Osamu's Manga at War and Peace", (transl. Thomas LaMarre). <i>Mechademia 3: Limits of the Human</i> . University of Minnesota Press. 111-126.

name	affiliation	field of expertise	focus within comics studies	research topic: geopolitically	mainstream or alternative comics	format	general orientation	main site of activity	Main publications
44	Park In-ha (Korea)	critic, popular culture studies	history, authors	manhwa, manga	mainstream	graphic narrative	empir.	practice-orientated	
45	Pellitteri, Marco	sociology	fan culture, reception	manga, comics, BD	mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2011. With Bouissou, Jean-Marie and G. Di Fratita. // <i>manga. Storia e universi del fumetto giapponese</i> . Tunua . .
46	Prough, Jennifer, PhD	Japanese studies, cultural anthropology, gender	audience, media, genre	manga	mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2011. <i>Straight from the Heart: Gender, Intimacy, and the Cultural Production of Shōjo Manga</i> . Honolulu. University of Hawai'i Press.
47	Ribbens, Kees (Netherlands) PhD	history, popular culture studies	history, society	comics (Engl., NL, Spanish, BD)	mainstream	graphic narrative, cartoon, strips	empir.	academia-orientated	2010. "War comics beyond the battlefield: Anne Frank's transnational representation in sequential art," Jaqueline Berndt, ed., <i>Comics Worlds and the World of Comics: Towards Scholarship on a Global Scale</i> . Kyoto Setka University IMRC. 217-233.
48	Sabin, Roger (UK) PhD	cultural studies, popular culture studies, history	history, society, media	comics (Engl., BD)	mainstream alternative	graphic narrative, cartoon, strips	empir.	practice-orientated	2006. "Barafoot Gen in the US and UK: Activist Comic, Graphic Novel, Manga," Jaqueline Berndt, and Steffi Richter, eds. <i>Reading Manga: Local and Global Perceptions of Japanese Mangá</i> . Leipzig University Press. 39-58. 2001. <i>Comics, Comix and Graphic Novels</i> . Phaidon Press. 日本語業績あり
49	Saito Tamaki (Japan) PhD	psychology			mainstream	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	2011. <i>Beautiful Fighting Girl</i> (transl. J. Keith Vincent and Dawn Lawson). Minneapolis: University of Minnesota Press.
50	Santiago Iglesias, José Andres (Spain) PhD	visual culture, media studies	aesthetics, history	manga	mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated practice-orientated	"Generación manga: Auge global del imaginario manga-anime y su repercusión en España," <i>Puertas a la lectura</i> . Nº 24 "Lectura y manga". Edita: Servicio de Publicaciones Universidad de Extremadura.
51	Schodt, Frederik L. (USA)	Japanese studies, history	aesthetics, authors, history	manga	mainstream alternative	graphic narrative strips	empir.	practice-orientated	2013. Forthcoming. "The View from North America: Manga as Late-Twentieth-Century Japonisme?" Jaqueline Berndt and Bettina Kuemmerling-Melbauer, eds. <i>Manga's Cultural Crossroads</i> . New York/London: Routledge. 19-26. 2007. <i>The Astro Boy Essays: Osamu Tezuka, Mighty Atom, and the Manga/Anime Revolution</i> . Berkeley, Stone Bridge Press 1996. <i>Dreamland Japan. Writings on Modern Manga</i> . Berkeley, California, Stone Bridge Press

	name	affiliation	field of expertise	focus within comics studies	research topic: geopolitically	mainstream or alternative comics	format	general orientation	main site of activity	Main publications
52	Shimizuru Isao (Japan)	cartoonist	history	history	cartoons	mainstream	cartoon, strips	empir.	practice-orientated	2001. "Red Comic Books: the origins of modern Japanese Manga". In Lent, John A, ed. <i>Illustrating Asia: Comics, humor, magazines, and picture books</i> (ConsumAsian book series), University of Hawaii Press, pp.137-150.
53	Stein, Daniel (Germany)PhD	Univ. Goettingen	literature (English), narratology, popular culture studies	aesthetics, authors, intercultural	comics (American)	alternative mainstream	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	Forthcoming. "Of Transcreations and Transnational Adaptations: Investigating Manga Versions of Spider-Man." <i>Transnational Perspectives on Graphic Narratives: Comics at the Crossroads</i> . Shane Denson, Christina Meyer, and Daniel Stein eds. London: Bloomsbury. Forthcoming. With Jan-Noel Thon. <i>From Comic Strips to Graphic Novels: Contributions to the Theory and History of Graphic Narrative</i> . Berlin. De Gruyter. Forthcoming. With Shane Denson and Christina Meyer, eds. <i>Transnational Perspectives on Graphic Narratives: Comics at the Crossroads</i> . London. Bloomsbury.
54	Stewart, Ronald. (Japan)PhD	Prefect. Univ. of Hiroshima	Japanese studies, cultural studies, history	history, authors, society	manga	mainstream alternative	cartoon strips	empir.	academia- and practice-orientated	Forthcoming. "Manga as schism: Kitazawa Rakuten's resistance to "old-fashion." Japan. Berndt, Jaqueline and Bettina Kümmerling-Melbauer. <i>Manga's Cultural Crossroads</i> . New York/London. Routledge.
55	Sugawa-Shimada, Akiko. (Japan) PhD		gender, popular culture studies			mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2011. "Rebel with causes and laughter for relief: 'essay manga' of Tenen Hosokawa and Rieko Saibara, and Japanese female readership." <i>Journal of Graphic Novels and Comics</i> 2 (2): 169-185.
56	Suzuki, CJ (US)	Baruch Coll., City Univ. of New York	literature, Japanese studies	authors, intercultural, genre	manga, gekiga	alternative	graphic narrative	empir.	academia-orientated	Forthcoming. "Tatsumi Yoshihiro and gekiga as an intercultural phenomenon in the 1960s and in the early 21st century." Berndt, Jaqueline, and Bettina Kümmerling-Melbauer, eds. <i>Manga's Cultural Crossroads</i> . New York/London. Routledge. 2011. "Envisioning Alternative Communities through a Popular Medium: Speculative Imagination in Hagio Moto's Girls' Comics." <i>IJOCA</i> . 13 (2): 57-74.
57	Strömberg, Fredrik	comics journalist			comics, manga	mainstream, alternative	graphic narrative, cartoon, strips	empir.	practice-orientated	
58	Witek, Joseph (USA) PhD	Stetson Univ.	literature (English), history	history, narratology	comics (American)	alternative mainstream	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	2008. "American Comics Criticism and the Problem of Dual Address." <i>IJOCA</i> 10 (1): 218-225. 1989. <i>Comic Books as History</i> . Mississippi University Press.

	name	affiliation	field of expertise	focus within comics studies	research topic: geopolitically	mainstream or alternative comics	format	general orientation	main site of activity	Main publications
59	Welker, James (Japan) PhD	Kanagawa University	queer studies, gender	gender, translation, fan culture	manga	mainstream, alternative	graphic narrative	theory	academia-orientated	2006. "Beautiful, Borrowed, and Bent: Boys' Love as Girls' Love in Shōjo Manga," <i>Signs: Journal of Women in Culture & Society</i> , 31: 3 (spring): 841-870.
60	Wong, Wendy Siuyi (Hong Kong/Australia) PhD	Swinburne Univ. of Technology, artist	visual culture	history, authors	manhwa (Hong Kong etc.), manga	mainstream	graphic narrative	empir.	academia-orientated	2002. <i>Hong Kong Comics</i> . New York: Princeton Architectural Press.
61	Yamanaka Chie (Japan), PhD	Jin'ai Univ.	sociology, media studies, popular culture studies	society, intercultural, audience	manhwa, manga	mainstream	graphic narrative	empir. theory	academia-orientated	Forthcoming. "Manhwa in Korea: (Re-)Nationalizing Comics Culture," Berndt, Jaqueline and Bettina Kuenmerling-Melbauer eds. <i>Manga's Cultural Crossroads</i> . New York/London: Routledge.

アニメーション研究のためのブックガイド／報告書

第1章 実施報告書

研究チーム:キム・ジュニアン(日本国際交流基金日本研究フェローシップ)

土居伸彰(日本学術振興会特別研究員)

監修:小出正志(東京造形大学教授/日本アニメーション学会会長)

1-1. 背景・目的

アニメーションが社会的な関心を集め、多くの大学でアニメーションを研究する／学ぶ／教える機会が増えつつあるなか、一体どんな文献を元に研究を行うべきなのかという情報は、現状において共有されていないように思われる。共有されていたとしても、日本の「アニメ」など衆目が集まりやすく日本語でアクセス可能な書籍の多い特定の分野に偏りがちであることは疑いえないし、数多くある文献の何が信頼に足るもので、何がそうではないのか、そういったことへの共通理解もなかなか成立していない状況がある。

一方、アニメーション研究の「専門家」とも言える人たちの状況についてはどうだろうか。国際アニメーション学会は1987年、日本アニメーション学会は1998年に誕生した。両団体が名称に掲げる「アニメーション学 Animation Studies」というものは、他の研究領域に比べれば歴史は浅いものの、着実に土台を固めつつある。Animation: An Interdisciplinary Journalをはじめとした国際的な学術誌の水準はかなりのものとなり、英語を中心に優れた研究書の数も増えている。日本においても、まだ総数は少ないながらも、「アニメーション学」の領域を専門とする研究者が台頭しつつある。

国内外におけるアニメーション学の発展と、研究／教育の現場での手がかりの無さ。この両極端な状況のなか、今、必要とされているのは、「アニメーション学」の基礎文献および方法論についての全体像を、広く共有することであるといえるのではないか。

今年度のマンガ・アニメーション研究マッピングプロジェクトにおけるアニメーション班は、このような問題意識のもと、アニメーション研究を志す初学者(学部生・院生レベル)およびその指導教官・教員にとって有益な「ブックガイド」を作成することで、現在の「アニメーション学」の成果をリストというかたちで可視化し、広く共有することを目的とする。「ブックガイド」は、アニメーション研究に専従しないがアニメーションについて教えたり書いたりする機会のある研究者や教育者、ジャーナリストなどにとっても有益なものとなることもまた目指す。

「ブックガイド」作成のより大きな目的は以下の二点である。将来の「アニメーション学」の裾野を広げ、底上げをすること。そして、アニメーションについて考えるにあたっての一般的なリテラシーを向上させること。

1-2. 「ブックガイド」作成の過程

「ブックガイド」は「イントロダクション(正式名称:アニメーション研究のためのイントロダクション)」と「アドバンスト(正式名称:さらなる一步を踏み出すためのブックガイド)」の二つのリストで構成される。

「ブックガイド」は、以下のような過程を経て作成された。なお、今年度の「ブックガイド」が対象とするのは、日本でアニメーション研究に携わるうえで重要度が高いと考えられる、日本語および英語の書籍のみである。

1、アニメーションに関する日本語・英語の文献の包括的リストの作成を研究補助者に依頼。計1400程度の文献の書誌情報を収集した。

2、研究チームのメンバーであるキム・ジュニアンと土居伸彰がリストをチェックし、その中からアニメーション研究をするにあたっての基礎的な文献としてふさわしいものをピックアップし、2つのリストの仮バージョンを作成した。リスト(1)は「イントロダクション」で、専門が何であれアニメーション研究に携わる者であれば必読と思われるものを選び、リスト(2)「アドバンスト」は、有益性について疑いの余地はないものの「イントロダクション」に比べると、テーマ、アプローチ、内容などにおいて専門性が高く、もしくは特定の方向性を有していると思われるものをピックアップした。

両方のリストについて、選定した本をいくつかの項目に分類した。

この段階での各リスト内の項目は以下の通り。

「イントロダクション」:「概論」「歴史」「技法・様式」「評論」「批評・理論」「事典」「ジャーナル」

「アドバンスト」:「アニメーション前史・初期アニメーション」「実験的」「作家研究」「日本アニメーション研究」「ANIME研究」「アニメーション評論・文化論」「批評・理論」「学際的研究」「各国史」「ヘゲモニーと他者性」「宮崎駿・スタジオジブリ研究」「発言集・インタビュー」「自伝・伝記」「資料集」「作家によるアニメーション論」「ディズニー脱構築のために」「産業論／コンテンツ・ビジネス」「ポスト・デジタル」「アニメーション言説史のために」

(最終的にいくつかの項目名については変更があったが、協力者へのチェック依頼時にいかなる項目に分かれていたのかを記録するため、ここに記しておく。最終的な項目分けについては、リスト本体を参照のこと。)

なお、選定にあたっての基本的なルールは以下の通り。

(1) 文献は日本語および英語に限る。ただし、日本語圏および英語圏以外で出版された文献であっても、その一部に日本語および英語の記述がありその部分が有益だと判断されればリスト内に含むことができる。

(2) 一般流通する(したことがある)書籍に限る。雑誌、ムック、展覧会図録、映画祭カタログなどは基本的には今年度の対象からは外すが、当該のトピックについて研究を行う上で非常に有益であると認められる場合には、リストに含めてもよい。現時点での入手の困難さについては、選定にあたってあまり重要視しない。

3、「イントロダクション」と「アドバンスト」両方の仮のリストについて、計7名の協力者に、以下の4点のチェックを依頼した。

- (1)リストに推薦したい本
- (2)リストから外した方がよい本
- (3)「イントロダクション」「アドバンスト」の項目の名称および書籍の振り分け方の妥当性についての意見
- (4)その他、リスト全般についての意見や感想

7名の協力者は、研究チームの責任のもと、日本アニメーション学会の学会員のなかから様々な領域を専門とする方々を選定した。協力者の依頼に際しては、研究チームの二人がそこまで強く状況を把握できていない分野をカバーできる研究者を優先的に考えた。また、現状、アニメーション研究に携わるにあたっては、非学術的なアプローチで書かれた様々な文献の重要度が高いことを考慮に入れ、学界に関わっていない在野の方々（評論や執筆の活動に長年従事されてきた方々）の意見も積極的に取り入れることも考えた。

4、協力者から寄せられた意見を元に、研究チームで再度リストを検討。新たな文献の追加および既に選ばれていた文献の削除、「イントロダクション」から「アドバンスト」への文献の移動などの作業を行った。

また、研究チーム内でリストを最終的に検討していくなかで、項目の名称、分類の仕方、各項目への文献の振り分けについて、リストの利用者の便宜を図るという意味で改良の余地があるのではないかという意見があり、いくつかの項目について項目名の変更と組み替えを行い、書籍の振り分けもやり直した。

このような作業を経て、最終的なリストを確定した。

なお、今年度の「ブックガイド」のリストを決定・配布するにあたり、協力者からの意見については、そのすべてが反映されたわけではなく、最終的に確定されたリストについての一切の決定は研究チームにおいて行われたことをここで明記しておきたい。つまり、リストに関する一切の責任は研究チームが負う。

ただし、協力者からの意見はそれぞれが大変貴重なものであり、リストの再考に際して大きな示唆を与えてくれるものであったこと、そして、来年度以降の展開を考えるにあたって非常に有益であったことは強調しておきたい。

協力者および研究補助者は以下の通り。(五十音順、敬称略、所属は2013年3月時点のもの)

【協力者】

木村智哉(早稲田大学研究助手)、権藤俊司(東京工芸大学准教授)、清水知子(筑波大学講師)、霜月たかなか(フリーライター)、須川亜紀子(関西外国語大学講師)、藤津亮太(アニメ評論家)、米村みゆき(専修大学准教授)

【研究補助者】

松山ひとみ(アムステルダム大学大学院)

1-3. 今後の課題

今回の「ブックガイド」作成は、これからアニメーション研究を始めようとする学部生・院生およびその指導教官、研究者以外でもアニメーションについての文献を必要とする教育者やジャーナリストなどに対して、アニメーション研究者が「基本的」と考えている文献についての知識・情報を共有することを可能にするという意味で、大変に意義のあるものとなった。

しかし、リスト作成の過程においては、いくつかの問題も散見された。それについては来年度以降の課題としたい。具体的には、

(1)アニメーション研究のマッピングの可視化と共有のためには、今回の「ブックガイド」の対象から漏れてしまった日本語および英語以外の書籍、日本語および英語を含めた雑誌・論文・雑誌記事・ウェブサイト等についてもカバーする必要がある。

(2)今回のマッピングはさらに洗練させることが可能である。特に「アドバンスト」のいくつかの項目については、さらに多くの協力者の助力が必要となってくる。海外の研究者によるリストの精査も、今年度は予算および日程の都合で叶わなかったが、来年度以降は行っていくべきである。

(3)アニメーションに直接言及してはいないものの、アニメーション研究者の多くが参照している書籍・論文などのピックアップも重要となってくる。

(4)映画学やマンガ研究など、隣接する領域における有益な研究成果を取り込んでいくことが今後は必要になってくる。とりわけ、今年度のリストでは、狭義の意味でのアニメーションを中心的に取り上げるに留まっており、たとえば、美術や実験映画の領域で用いられるアニメーション表現や、実写映画の特殊効果などについては、不十分なかたちでしか言及することができなかった。

(5)マンガ研究とのすりあわせについては、最終的な目標である三次元マッピング作成に向け、さらなる協力体制を築きあげることが必要である。

来年度以降は、上記の課題を解決することによって、研究者および教育の実践者の脳内マッピングを初学者に向けて可視化するだけに留まらず、マッピングを共有することが、アニメーション研究および関連領域の研究者の刺激となり、新たな研究の動向を生み出すようなものとなることを目指していきたい。

第2章 アニメーション研究のためのブックガイド

2-1. アニメーション研究へのイントロダクション

「これからアニメーションを学ぶ(研究する)皆さんへ」

小出 正志(東京造形大学デザイン学科教授/日本アニメーション学会会長)

国際アニメーション学会が設立されて四半世紀、わが国でも日本アニメーション学会は今年創立15周年を迎える。創作系ではあるが日本の大学で本格的にアニメーションを学ぶことができるようになって10年、研究系でも専門学科こそないが、多くの大学や大学院でアニメーションの研究を志す人が増えてきた。アニメーションを学ぶことも研究することもあたりまえになってきたが、これまでこのような文献目録は個人による比較的規模の小さいものが散見されるだけで、より規模の大きい本格的なものは皆無といってもさしつかえないだろう。その意味では画期的で、文字通りアニメーション研究の新しい時代を開くものになると大いに期待される。

もちろんその端緒は開かれたばかりで、1月の暫定版に続くこの改訂版のブックガイドも未だ十分なものとはいえない。しかし国の文化振興施策の一つとして行われ、そこに学会も関わり、多くの有為な人材が参加する公的かつ組織的なプロジェクトとして開かれていることの意味は大きい。今後の検証、さらなる発展と充実が保証されたものとなったことは、アニメーション研究をより開かれたものとする原動力となることは言を待たない。

これまでアニメーション研究を始めるにあたり、手探りで文献や資料を探すところから始める必要がある状態であったものが、このブックガイドにより一定の蓄積のもとで研究を始めることができるようになることはとても大きなことである。とば口のところで迷子になることを防ぐことができるだろうし、文献探索の時間を節約し、研究の本題の部分により多くの時間や労力を割くことができることはアニメーション研究の発展にも大いに役立つだろう。

このブックガイドは「アニメーション研究へのイントロダクション」(以下イントロダクション)と「さらなる一步を踏み込むためのブックガイド」(以下アドバンス)の二部で構成されている。一般の文献目録のような書誌情報に加え、研究チームによる文献解題・テーマ解題が添えられていることは初学者とその指導者、あるいは他分野の研究者にとって貴重な情報となるにちがいない。

イントロダクションではそれらの人々が最初に手にするとよいと思われる文献を、アニメーション研究を包括的に概観する①「概論」、同じくその歴史を包括的に概観する②「歴史」、研究の重要なアプローチの一つである③「技法・様式」、作家・作品研究に関わる④「評論」、研究の根幹を成す⑤「批評・理論」、研究を進める上でハ

ンドブック的な役割を果たす⑥「事典」、この分野におけるジャーナルを紹介する⑦「アニメーションを取り扱う学術誌」の7つのカテゴリーに分けて文献が紹介されている。

アドバンストはより研究を深める場合、あるいは研究のトピックを探る場合などに有用と考えられる文献を、個別史や作家作品研究からジェンダー論や産業論、資料集に至るまで広範に渡り、①「歴史(各国史を中心に)」、②「アニメーション前史/初期アニメーション」、③「エクスペリメンタル/アヴァンギャルド」、④「ポスト・デジタル」、⑤「インディペンデント/オルタナティブ/短編作家研究」、⑥「アメリカン・アニメーション研究」、⑦「日本アニメーション研究」、⑧「アニメーション評論・文化論」、⑨「批評・理論」、⑩「ヘゲモニーと他者性」、⑪「産業論/コンテンツ・ビジネス」、⑫「アニメーション言説史のために(入門書・教本)」、⑬「資料集・データ集・事典・白書(複数の領域にまたがるもの)」という13カテゴリーから成っている。

このブックガイドを地図と羅針盤としてアニメーション研究の航海に旅立っていただき、アニメーション研究の発展の一翼を担っていただければ幸いである。

2013年3月

概論

津堅信之『アニメーション学入門』平凡社、2005年。

アニメーションを研究すること——そのスタンダードが見えにくい状況において、その第一歩として一通りの基礎知識をさらっておくのに最適の入門書。アニメーションの定義、歴史、手法の解説、様々な国・地域において様々な形態で作られるアニメーションの紹介、アニメーション研究自体についての記述などの章分けで、アニメーションを研究するための基本的な情報が的確におさえられている。(D)¹

Paul Wells, *Understanding animation*, Routledge, 1998.

ポール・ウェルズ氏は、アニメーションに関する様々なアプローチでの学術的な色合いの強いライトエッセイを残している。本書はアニメーション研究の概説書のようなもので、津堅信之氏の『アニメーション学入門』の類書にも思えるが、こちらはどちらかといえば理論的・批評的アプローチの色が強いものになっている。テレビドラマなどの脚本家としてのキャリアもあるウェルズ氏らしく、アニメーションにおける物語の語り方の分析にも多くの分量が割かれている。ディズニー、カートゥーン、抽象、ギャグ、人種表象といった頻出するテーマ設定からは、英語圏においてアニメーションがいかなるものとして受け止められてきたのかというアニメーション受容史を読み取ることも可能だろう。(D)

Maureen Furniss, *Art in Motion: Animation Aesthetics*, John Libbey Publishing, 2008.

「アニメーションを研究するとは?」という問いに丁寧な答えようとする入門書的な一冊。スタジオにおける制作の諸段階(様々な手法、演出、音などへの言及)から、フル/リミテッド・アニメーションをめぐる議論、産業論

¹ 各書籍やカテゴリーへの解説文執筆者の表記:キム・ジュニアン(K)、土居伸彰(D)

や観客論などの受容論、アニメーションにおける表象の問題など、様々な側面からアニメーションに対して学術的なアプローチが試みられている。(D)

Jayne Pilling (ed.), *A Reader in Animation Studies*, John Libbey, 1997.

1988年設立のSociety for Animation Studiesの年次大会で発表された発表原稿のなかから、優秀かつ視点のユニークさがあるものを選んで掲載した論文集。アニメーション研究Animation Studiesというものが今以上に確立していなかった状況下で、アニメーションを学術的に研究するとはどういうことかという示すための入門書として想定して作られた本で、「新しい技術」「テキストと文脈(個々の作品の分析)」「コンテンポラリー・カートゥーンとカルチュラル・スタディーズ」「理論的アプローチ」「歴史(再考)」という5つの章に分けられ、幅広い対象範囲とアプローチでのアニメーションの研究例を読むことができる。(D)

Charles Solomon (ed.), *The Art of the Animated Image: An Anthology*, American Film Institute, 1998.

1987年6月12～14日にロサンゼルスのアメリカン・フィルム・インスティテュートで開催されたウォルター・ランツ・カンファレンスの報告集。チャールズ・ソロモン、ドナルド・クラフトン、ジョン・ケーンメーカー、セシル・スターといったアメリカの著名な研究者たちが、スチュアート・ブラクトン、ウィンザー・マッケイ、ウォルター・ランツ、マルチプレーンカメラ、ノーマン・マクラレン、美術文脈のアニメーション、女性アニメーション作家、テレビ、コンピュータといった題材で幅広く論考を提供している。この一冊を押さえておくことで、アメリカの研究者から眺められたアニメーションの光景を一望することが可能になる。1988年の同カンファレンス第二回目も *Storytelling in Animation: The Art of the Animated Image Volume.2* (Charles Solomon (ed), The American Film Institute, 1988)として刊行され、こちらはキャロライン・リーフのインタビューなどが掲載されている。(D)

Jayne Pilling (ed.), *Animating the Unconscious: Desire, Sexuality, and Animation*, Wallflower Press, 2012.

2004年2月10～12日にイギリス・ロンドンのナショナル・フィルム・シアターで行われたシンポジウムを原点とした本で、作家のパーソナルな経験が作品に反映されやすい短編作品にもつばら焦点を当て、セクシュアリティと欲望という観点から作品分析を行うオムニバス本。編著者のジェイン・ピリングは1996年よりイギリス国内のアニメーションを対象にしたBritish Animation Awards(BAA)を主宰し、DVDのリリースも積極的に行っているが、この本は、BAAがリリースしたDesire & Sexuality: Animating the Unconsciousという三巻もののDVDとセットで参照されることにより、短編アニメーション作品に対する新たな視野を獲得することを可能にしてくれる。(D)

Suzanne Buchan (ed.), *Animated "Worlds"*, Indiana University Press/John Libbey, 2006.

「アニメートされた世界たち」という題名が示しているように、アニメーションという映像生成の技術によってどのような複数の世界が創り出され、人々はそれらをどのように経験するのか、という問いを前提に、アニメーションを研究の対象として成立させるために必要とされる科学的言語の模索を試みる研究書。これまで言語による記述が行われてこなかった対象の科学的記述という側面から、主な共通のアプローチとしては現象学な傾向

が目立つが、具体的には本書に参加している著者たちは様々なテーマ及びアプローチを取り上げている。彼らは理論的なレファレンスを整え自らの研究を文脈化できる研究者として、アニメーションに対する従来の概念にこだわらないスタンスからアニメーション研究のあり方と方法論などを提示している。(K)

歴史

山口且訓・渡辺泰『日本アニメーション映画史』有文社、1977年。

20世紀初期まで遡る日本のアニメーション史。厳密には、日本アニメーションだけではなく、日本で公開された海外の作品も含めたアニメーション史をまとめ上げた力作。主にジャーナリズム的なアプローチが取られ、今日は観ることさえ難しい戦前の作品に関する記述および資料は非常に豊富である。さらにジャンルを問わず、商業長編アニメーションからアートハウス・アニメーションまで幅広く紹介されている。ただし出版時期が1970年代後半という関係で、その内容も同時期までにとどまっているが、逆に1970年代という早い時期に本書のようなアニメーション歴史書が執筆・出版されたのは注目に値する。(K)

レナード・マルティン『マウス・アンド・マジック——アメリカアニメーション全史 上下』権藤俊司監訳、楽工社、2010年。(Leonard Maltin, *Of Mice and Magic: A History of American Animated Cartoons*, Plume/Penguin, 1987.)

アメリカのアニメーション史を、20世紀後半までのスタジオを中心に記述した著作。著者はマスメディアを主な舞台に映画評論家として活動するだけに、基本的にはジャーナリズム的なアプローチによる内容が多く、手描きのセル・アニメーション技術に基づいた「カートゥーン」と呼ばれるジャンルがメインになっている。出版時期の関係で1990年代デジタル化以後の状況は紹介されていないが(邦訳では監訳者による概観の紹介はあり)、単なる歴史記述を超え、アニメーションの美学的理論を進展させるに有意義な洞察力と解釈が散見される故に、アメリカにおけるアニメーション・スタジオの歴史と産業、そして美学的成果を理解するには貴重な一冊である。(K)

Giannalberto Bendazzi, *Cartoons: One Hundred Years of Cinema Animation*, Indiana University Press, 1994.

世界のアニメーション史を包括的に扱う本として現在に至るまで類書の見つけにくい著作。アニメーションの世界史を可視化した成果は大きく、国際的にあまり広く紹介されていない諸国のアニメーション史を網羅している点でアニメーション研究においては貴重な文献である。ただし、あくまでも欧米を中心に記述されていることには注意が要される。なお、紹介されている作品及び作家のリストは極めて膨大で、確かに本書の最大の長所ではあるが、その反面、歴史記述における批評的・理論的アプローチの側面からはいくつかの課題を残している。(K)

Donald Crafton, *Before Mickey: The Animated Film, 1898-1928*. University of Chicago Press, 1993.

シネマトグラフ誕生以降からミッキー・マウスが登場する前の1920年代末までという時代設定のもと、アメリカを中心とした初期アニメーション史を扱う研究書。セルロイド以前／以外のアニメーション手法、制作現場における労働の状況、産業化への過程や、これらを取り巻く社会文化的文脈と意味合いなどが、精緻に調査、記述、分析、解釈されている。ここで著者が実践している研究上のアプローチとそれによる成果は、本書における時代や作品の範囲を超えた理論化の可能性を多く秘めている。(K)

John A. Lent, *Animation in Asia and the Pacific*, Indiana University Press, 2001.

欧米中心の世界アニメーションの歴史記述に対する一つのオルタナティブとしてのお勧めの一冊。アジア太平洋地域のアニメーション事情がジャーナリズム的なアプローチで記述されており、全体的には歴史書というより報告書に近い。アニメーション史における欧米中心の世界観を広げるための入門書。(K)

技法・様式

フランク・トーマス、オーリー・ジョンストン『ディズニー・アニメーション 生命を吹き込む魔法』スタジオジブリ訳、徳間書店スタジオジブリ事業本部、2002年。(Frank Thomas, Ollie Johnston, *The Illusion of Life: Disney Animation*, Hyperion, 1995)

ディズニー・スタジオで長年活動した二人のアニメーターによるアニメーション制作現場の詳細な記録。ウォルト・ディズニーをはじめ同スタジオのアニメーターたちが何を追求し、どのような実践・実験を行ったか、つまりアニメーションという映像の生産メカニズムの様々な側面を理解するに最適の文献。「ディズニーにおけるセル・アニメーション」という文脈に限られており、セルロイドそのものもデジタル化によって使われなくなったが、彼らのアニメーションに対する考え方や、今でも続いている手描きアニメーションの伝統への影響力を考えると、依然として参考すべき余地が多い。(K)

リチャード・ウィリアムス『増補 アニメーターズ・サバイバルキット』郷司陽子訳、グラフィック社、2011年。(Richard Williams, *The Animator's Survival Kit--Revised Edition: A Manual of Methods, Principles and Formulas for Classical, Computer, Games, Stop Motion and Internet*, Faber & Faber, 2012)

『ロジャー・ラビット』(1988年)は、実写とアニメーションの融合という手法の選択、そしてアメリカン・カートゥーン文化の精髓が詰まった作品としてアニメーション研究の舞台でも幾度となく取り上げられている。そのアニメーション・パートの監督であるリチャード・ウィリアムスが著したドローイング・アニメーションの教本で、同種の本としてはクラシカルなポジションに位置づけられている。フランク・トーマス、オーリー・ジョンストン『ディズニー・アニメーション 生命を吹き込む魔法』とともに読まれることで、アメリカの商業アニメーションとその派生的表現の根本的な原則を知ることができる。(D)

大口孝之『コンピュータ・グラフィックスの歴史 3DCGというイマジネーション』フィルムアート社、2009年。

コンピュータ・グラフィックスの歴史をまとめた本。取り上げるのはピクサーをはじめとする3DCGアニメーション映画に留まらず、軍事技術でのアニメーション利用やホイットニー兄弟らの美術的実践といった黎明期についての記述から、実写映画におけるVFXとしての利用、CG産業の発展といった、コンピュータ・アニメーションに関する様々な観点がカバーされており、基本的な観点と歴史を理解するのに最適な本。(D)

Robert Russet and Cecile Starr, *Experimental Animation: Origins of A New Art*, Da Capo Press, 1988.

本書は主に、セル・アニメーションとは異なる手法で映像を実験した欧米のアニメーターたちを20世紀初期から後半にかけて紹介しており、アヴァンギャルド・アニメーションの歴史書としても位置付けることができる。様々なアニメーターたちのインタビューを含め、手法と作品に関する詳細が記述、評価されている。アニメーションの幅広いスペクトラムと、アニメーションに対する実践側の異なる考え方が理解できる著作。(K)

Michael Frierson, *Clay Animation: American Highlights 1908 to the Present*, Twayne Publishers, 1994.

アメリカを中心にクレイ(粘土)アニメーションという分野を専門的に取り上げている類稀な研究書。クレイの人形アニメーションだけではなく、クレイ・ペインティングによるアニメーションも含め、様々な手法と作家・作品が詳しく紹介されている。本書は単なる教本ではなく、批評的・美学的分析も試みられており、この手法をより広い文脈の中でどのように配置し得るかを示してくれる優れたモデルにもなっている。(K)

William Moritz, *Optical Poetry: The Life and Work of Oskar Fischinger*, Indiana University Press, 2004.

ドイツ生まれの抽象アニメーション作家オスカー・フィッシンガー氏(1900-67)の伝記。著者のウィリアム・モーリッツ氏は、非具象・抽象・ノンナラティブアニメーションという一分野の価値を積極的に擁護しつづけてきた研究者で、フィッシンガー氏の作品はモーリッツ氏のアニメーション観において最も重要視してきた作家である。本書ではフィッシンガー氏の人生と作品をめぐる物語が詳細に記される。フィッシンガー氏による文章やモーリッツ氏によるフィッシンガー作品全作解説も含め、作家研究のメソッドを学ぶために、そして、抽象アニメーションという見過ごされがちな領域における研究の優れた例として、チェックしておくべき本。(D)

評論

森卓也『定本 アニメーションのギャグ世界』アスペクト、2009年。

森卓也氏は1960年に映画評論家としてデビューし、アニメーションについて継続的に言及を続けてきた。取り上げる範囲も、映画、テレビ、上映会で観たレアな短編など幅広く、その著作は、1960年代以降のアニメーションをめぐる状況の証言としても読むことができる。本書は、氏の『ミステリ・マガジン』での連載から、アニメーションに関するものをまとめた『アニメーションのギャグ世界』(奇想天外社、1978年)に書きおろしを加えて復刻し

たもの。タイトルから分かる通り、笑いの側面に注目しており、取り上げているものはアメリカのカートゥーンが多いが、復刻にあたっての追加原稿では2000年代の国内外のアニメーション長編も取り上げられている。入手が容易であることから本書をピックアップしたが、『アニメーション入門』など同著者の他の著書・原稿についても、一通り押さえておきたい。(D)

昼間行雄、権藤俊司編『ユーロ・アニメーション：光と影のディープ・ファンタジー』フィルムアート社、2002年。

ヨーロッパ製アニメーションの達成を一望するのに最適な入門書。カナダが対象として含まれているところからもわかるとおり、国営スタジオにおいて作られた(短編を中心とした)アニメーションの達成が数多く紹介されている。1960年以降のアニメーション専門映画祭とASIFA(国際アニメーション協会)というアニメーションを通じた国際的ネットワークがいかなる作家・作品を重要視して語り継いできたのかが色濃く反映されたセレクションとなっている。(D)

上野俊哉『紅のメタルスーツ：アニメという戦場』紀伊國屋書店、1998年。

押井守監督の作品を中心にする評論書。主なアプローチは社会学、特にカルチュラル・スタディーズ。1990年代日本のアニメーションが欧米で広く話題になってきたことに対する応答としての性格を帯びている。様々な文脈と充実したレファレンスの上でなされる分析・解釈は特定の作品に限らず、多くの理論的ヒントとインスピレーションを含んでいる。書中の一部は英語でも発表されている。(K)

Chris Robinson, *The Animation Pimp*, AWN Press, 2007.

アニメーションの情報サイトAnimaiton World Network上で連載された同名のコラムを一冊の書籍にまとめたもの。著者のクリス・ロビンソン氏は北米最大級のアニメーション専門映画祭であるオタワ国際アニメーション映画祭のアーティスティック・ディレクターである。この本が採用する「ゴンゾー・スタイル」(対象へと直接的に切り込んでいくスタイル)は、アニメーション文化を支えるうえで大きな役割を果たしているものの、外から見ているとなかなかわかりにくい映画祭の空気感や仕組みを、鮮明に、ユーモアを交えて、ときに辛辣に描きだす。同じ著者の評論集*Unsung Heroes of Animation*(John Libbey, 2006)や*Animators Unearthed: A Guide to the Best of Contemporary Animation*(Continuum, 2010)とあわせて読まれることで、短編および映画祭文化全般についての基本的な情報を把握することができる。アニメーション研究がなかなかフォローしきれない分野であることを考えると、とても貴重な本である。(D)

批評・理論

今村太平『漫画映画論』岩波書店、2005年。

1911年生まれ映画評論家今村太平氏による、漫画映画の理論書。1941年に初版が発行されて以来、様々なかたちで改訂版・増補版が出版されているが、本書は2005年に徳間書店から出版されたもの。音楽や

絵画など隣接する芸術との比較や技術発展史などを絡めながら、1930年代以降、「新たな」映画として注目を集めることになったディズニーを中心とした「漫画映画」の可能性を考察する。この本の出版状況を、スタジオジブリによる、「漫画映画」という旗印のもとでのアニメーション史の再発掘・再評価という文脈から読んでみても面白い。(D)

大塚英志・大澤信亮『「ジャパニメーション」はなぜ敗れるか』角川oneテーマ21、2005年。

本書は日本のアニメーション及びマンガを戦前まで遡る視座から取り上げるうえで、そのスタイルにおける起源の問題を提起する第1部と、ビジネスとしての虚実を確かめる第2部になっている。イコノロジー(図像解釈学)と実証主義両方のアプローチで展開する辛辣な指摘は後に『アトム の命題—手塚治虫と戦後まんがの主題』(大塚英志著、徳間書店、2003年)にも共通しているので、こちらも共にお勧め。(K)

トーマス・ラマル『アニメ・マシーン グローバル・メディアとしての日本アニメーション』藤木秀朗、大崎晴美訳、名古屋大学出版会、2013年。(Thomas LaMarre, *The Anime Machine: A Media Theory of Animation*, University of Minnesota Press, 2009.)

本書は、日本の商業アニメーション(「アニメ」)が日本文化論をはじめとした「外在的な」要因との関係で特異性が語られてきた状況において、「アニメ」はいかに運動を生み出してきたのかという「内在的な」要因に目を向けることで、逆説的に既存の言説をも包括するかたちでの広大な視野を手に入れている。「アニメ」における運動創造の特質を複数のレイヤーをコンポジティングすることであると定義することで、運動の創出という観点からは劣ったものとみなされがちだった「アニメ」を再評価し、ポスト・デジタル期における映像表現全体を語るための土台としても提示した野心的な著作。アニメーション学としての正当な手続きが取られながらもこの本の射程は広大で、哲学や現代思想などの文献も援用することで、「アニメ」を通じたモダニティの問題にまで言及されている。(D)

Sergei Eisenstein, *Eisenstein on Disney*. Seagull Books, 1986.

ソ連を代表する映画監督として有名なセルゲイ・エイゼンシュテイン氏は、芸術理論家としても大きな功績を残したが、ディズニー・スタジオのアニメーションは、氏の理論のなかでもかなり重要視されていた。この本において氏は、アニミズム的思考や洞窟壁画をはじめとした原始美術、文学やオペラ、諷刺画など実に多彩なレフェレンスを用いながら、ディズニー作品の魅力人類史的な文脈のなかに位置づける。「原形質性」——あらゆる形態へと変化する力——をはじめとする魅力的な概念は、これからその可能性が再発見されうるポテンシャルをもっている。エイゼンシュテイン氏のディズニー論はEsther Leslie, *Hollywood Flatlands: Animation, Critical Theory and the Avant-Garde* (Verso, 2004)やAnne Nesbet, *Savage Junctures: Sergei Eisenstein and the Shape of Thinking* (I.B. Tauris & Co Ltd, 2003)といった本でも大きなスペースを割いて取り上げられ、前者では20世紀前半の文化史、後者ではソビエト文化史においてディズニーが残したインパクトを再考するためにも貴重な材料となっている。(なお、日本語の抄訳が2013年3月発行予定の『表象』07号に掲載されている。)(D)

Eric Smoodin, *Animating Culture: Hollywood Cartoons from the Sound Era*, Rutgers University Press, 1993.

トーキー映画誕生後の時代にあたる1930年代から1950年代までのアメリカにおけるカートゥーン・アニメーションを主に取り上げる本書は、当時ハリウッド映画産業内部の検閲、スタジオ同士の競争、映画館というメディア空間と中産層、戦中制作された軍事教育用プロパガンダ・アニメーションのイデオロギー戦略、戦後にまで続くディズニーの米政府への協力などを浮き彫りにする。歴史的、社会的、政治的文脈の中にアニメーションを位置づける本書はアメリカ文化論でもある。(K)

Norman M. Klein, *Seven Minutes: The Life and Death of the American Animated Cartoon*, Verso, 1993.

大衆文化の歴史と批評を専門にする著者は、本書で20世紀前半アメリカのカートゥーン・アニメーションに焦点を当てながら、その技術的、美学的変容を社会・経済・政治という文脈の中で分析する。このような探究から本書は、実写映画、新聞、イラストレーション、さらにディズニーランドのようなエンタテインメント建築まで議論を展開し、それらとアニメーションとの関連性を見出そうとする。(K)

Lev Manovich, *The Language of New Media*, The MIT Press, 2002.

デジタル時代のメディア研究書として国際的に大きな反響を招いた著作。本書の最大の成果は、デジタル以降の映画はアニメーションの一部になり、さらにシネマトグラフ以前の映像も実はアニメーションだったという提案を通して映像の存在論的反転をもたらしたことである。実写映画はもちろんアニメーションに対する著者の理解は非常に深く、長年フレーム・バイ・フレームという撮影手法に縛られていたアニメーションの新しい理論化の方向性を提示している。(K)

Esther Leslie, *Hollywood Flatlands: Animation, Critical Theory and the Avant-Garde*, Verso, 2004.

テオドール・アドルノ、ヴァルター・ベンヤミンらを専門にする著者は、ディズニーなどハリウッドのアニメーションとヨーロッパの抽象アニメーションにおける形式およびイデオロギーを本格的な美学理論の上で分析し解釈を試みる。その中でもアヴァンギャルドとディズニー、そしてファシズムを結び付ける分析は衝撃的で、日本における大塚英志の研究にも通じるところが多い。本書において真剣なスタンスを貫く著者は、大衆文化を軽薄に取り上げる学界の傾向にも対抗している。(K)

Scott Bukatman, *The Poetics of Slumberland: Animated Spirits and the Animating Spirit*, University of California Press, 2012.

ウィンザー・マッケイの代表作『夢の国のリトル・ニモ』に焦点を当て、コミックスとアニメーションにおける美学的エネルギーを探究する本書は、バシュラールによる空間及び夢想の詩学、さらにイメージの憑依効果に関するデヴィッド・フリードバーグの研究成果などに拠りながら、かつてエイゼンシュテインによって提案された「原形質的plasmatic」という概念の意味合いを明らかにしようと試みる。著者の視野は広く、「アニメートされた行動」という共通の要素を通じて映画、ミュージカル、スラップスティック・コメディに拡大し議論を展開する。(K)

Lois Rostow Kuznets, *When Toys Come Alive: Narrative of Animation, Metamorphosis, and Development*, Yale University, 1994.

比較文学を専門にする著者の、文学におけるアニメーション論。命を吹き込まれる人形の物語を研究対象にする本書は、映像としてのアニメーション以前から文学的な想像として描かれてきたアニメーションを、新批評、精神分析、フェミニスト理論、ネオ・マルクス主義、構造主義などのアプローチで分析、解釈する。人形をアニメートすることに関する著者の眼差しは、最後のチャプターでSF映画の中に登場するロボット、サイボーグにまでいたる。映像におけるアニメーションという実践の文化的な意味合い、そして人形アニメーションの美学を研究するには最適の著作。(K)

事典

横田正夫、小出正志、池田宏『アニメーションの事典』朝倉書店、2012年。

本書は、書名が「事典」になっているが、アニメーションに関わる様々な分野を、それらを取り扱う様々なアプローチから、それぞれの専門家が執筆した報告書、評論、論文などを掲載している論集である。技術、教育、作家、産業、社会、心理、文化、歴史など、その文脈は非常に幅広く、読者にとっては特定の文脈におけるアニメーション研究のガイドになると期待される。第III部の資料編では用語、人名、文献などに関する貴重な資料も掲載されている。(K)

スティーヴン・キャヴァリア『世界アニメーション歴史事典』中田由美子、山川純子訳、ゆまに書房、2012年。
(Stephen Cavalier, *The World History of Animation*, University of California Press, 2011)

アニメーションの歴史の概略と、歴史的に重要視されるべき作品の評論の二本立て。Giannalberto Bendazzi, *Cartoons: One Hundred Years of Cinema Animation* (Indiana University Press, 1984)の新版の刊行が待たれ、日本においてはそもそもの初版の邦訳も出ない状況において、邦訳が出ているというそれだけの理由で、日本のアニメーション研究の初学者にとっては必須文献となるだろう。著者はイギリスのアニメーション作家であり、研究プロパーではなく、個々のトピックについての記述は学術的・批評的視点からすると目新しさに欠ける。ただし、取り上げる作品のセレクションは幅広いので、この本をスタートとして、特定のトピックについての調査・研究を深めていくという使い方は可能だろう。(D)

アニメーションを取り扱う学術誌

『アニメーション研究』 (http://www.jsas.net/index_JJAS.html)

本誌は、1998年設立された日本アニメーション学会の機関誌である。学会設立と共に通常毎年1回の頻度で

発行されてきた本誌は一般的な原著論文以外にも資料・解説・展望というカテゴリーの下で多様な形のアニメーション研究を促している。随時投稿可、査読プロセス有。(K)

Animation: An Interdisciplinary Journal (<http://anm.sagepub.com/>)

2006年創刊された本誌は、ジャーナル専門の出版社であるセージ・パブリケーションズ社から年3回プリント版とオンライン版両方で発行されている。掲載論文は、Scopusをはじめ10ヶ所以上の抄録・引用データベースに登載される。Intersticeというカテゴリーではインタビューなど、ある程度軽い文章も掲載される。時にはゲスト編集者を迎えての特集号が企画されることもある。随時投稿可、査読プロセス有。(K)

Animation Journal (<http://www.animationjournal.com/>)

アニメーションを専門とする査読付学術誌としては世界初のジャーナルで、1991年にアメリカのアニメーション研究者モーリーン・ファーンズ氏を編集長として創刊された。取り上げられる対象には北アメリカへの偏りが見られるが、ロトスコープの特許やノーマン・マクラレンのアニメーションの定義の原文など、資料的価値の高い記事もしばしば掲載され、Animation: An Interdisciplinary Journalの創刊以前には、アニメーション研究の中心的な場であったといえる。年1回の発行で、バックナンバーは公式サイトから購入可。随時投稿可、査読プロセス有。(D)

Animation Studies (オンラインジャーナル、:<http://journal.animationstudies.org/>)

Society for Animation Studiesが出版するオンライン上の査読付学術誌。2006年創刊。論文は年間を通じて不定期にアップロードされ、それぞれの巻は一年ごとにまとめられる。すべての論文はHTML上もしくはPDFファイルとして無料でダウンロード可能。論文は年間を通じて投稿可だが、投稿資格はSociety for Animation Studiesの学会員に限られ、年次大会での発表との関連も推奨されている。英語以外での投稿も可能。(D)

Mechademia (<http://mechademia.org/>)

2006年から、日本の漫画、アニメーション、ゲームなど、ポップ・カルチャーを主な対象に米ミネソタ大学出版部から年1回発行される本誌は、研究者による論文だけではなく映像作家、アーティストなどによるものも受け入れている。なお、毎号ごとに特定のテーマを設け、それに関連する論文の投稿を呼びかけ掲載する体制になっている。査読プロセス有。同様の名称の下で学会大会も開催されている。なお、第10号を最後に完結する予定となっている。(K)

2-2. 更なる一歩を踏み込むためのブックガイド

注：大項目(四角で囲まれたもの)のなかで、特定のトピックについて文献が多い場合、これまでのアニメーション研究において取り組む者の多かった「トレンド」であったという意味で別途小項目を設定し、後ろに(T)を付けた。「トレンド」に関連する書籍については、(たとえば「発言集・インタビュー」など)別の小項目にあてはまる場合でも「トレンド」として一箇所にまとめることとした。

歴史(各国史を中心に)

この項では、各国史を中心としたアニメーション史関連の文献を集めた。日本におけるアニメーションをめぐる言説においては、とりわけ海外の作品・作家が、製作された文脈を顧みられることなく語られる機会が多い。そんななか、これらの文献は、それらの作品・作家を立体的に把握するためのコンテキストを与えてくれる。各国のアニメーション史をまとめた成果は現状では地域的な偏りがあるが、近年、スロベニアやチェコなどで現地のシネマテーク等アーカイブ組織のバックアップのもと新たな成果が生まれつつあり、現在発展しつつある分野であるといえる。(D)

井上徹『ロシア・アニメ：アヴァンギャルドからノルシュテインまで』東洋書店、2005年。

小野耕世『中国のアニメーション：中国美術電影発展史』平凡社、1987年。

越村勲『クロアチアのアニメーション——人々の歴史と心の映し絵』彩流社、2010年。

伴野孝司、望月信夫『世界アニメーション映画史』ぱるぷ、1986年。

ロバート・ヒエロニムス『イエロー・サブマリン航海記 ビートルズ・アニメーション全記録』ブルース・インターアクションズ、2006年。(Robert R. Hieronimus, *Inside the Yellow Submarine: The Making of the Beatles Animated Classic*, Krause Publications, 2002.)

路川敬編『イタリアアニメーションの世界』プチグラパブリッシング、2005年。

António Gaio, *History of Portuguese Animation Cinema*, Institute of Cinema, Audiovisual and Multimedia, 2002.

Christian Gasser, *Animation.ch: Vision and Versatility in Contemporary Swiss Animated Film*, Benteli, 2012.

Denis Gifford, *British Animated Films, 1895-1985*, McFarland, 1987.

Ronald Holloway, *Z is for Zagreb*, Tantivy, 1972.

Bruce L. Holman, *Puppet Animation in the Cinema: History and Technique*, A.S. Barnes, 1975.

Clare Kitson, *British Animation: the Channel 4 Factor*, Parliament Hill Publishing / Indiana University Press, 2008.

Karen Mazurkewich, *Cartoon Capers: the History of Canadian Animators*, McArthur & Co. 1999.

Richard Neupert, *French Animation History*, Wiley-Blackwell, 2011.

Nenad Pata, *A Life of Animated Fantasy*, Zagreb Film, 1984.

Igor Prassel, *Filmography of Slovenian Animated film 1952-2012*, Slovenska kinoteka, 2012.

Chris Robinson, *Estonian Animation: Between Genius and Utter Illiteracy*. John Libbey Publishing, 2007.

Charles Solomon, *Enchanted Drawings: The History of Animation*, Random House Value Publishing, 1994.

Ralph Stephenson, *The Animated Film*, Tantivy Press, 1973.

アニメーション前史／初期アニメーション

1930年代頃ディズニーを中心にアメリカでカートゥーン・ジャンルのアニメーションが産業化されるにつれ、技術的標準化と美学的定着が遂げられるのだが、それ以前の初期アニメーションに向けられる研究は、デジタル以降の時代において映像の起源を問い直し、初期の様々な草の根レベルの映像実験および実践を照らし出すことで、今後の新しい映像の可能性を見出すという重要な意味を持つ。最近このような傾向は、デジタル化による実写映画の存在論的危機に触発された映画研究、メディア研究において相対的に著しく見られる。(K)

岩本憲児『幻燈の世紀：映画前夜の視覚文化史』森話社、2002年。

C.W. ツェーラム『映画の考古学』フィルムアート社、1977年。(C. W. Ceram, *Archaeology of the Cinema*, Harcourt Brace and World, 1965.)

森山朋絵編『映像体験ミュージアム——イマジネーションの未来へ』工作舎、2006年。

John Canemaker, *Winsor McCay: His Life and Art*, Harry N. Abrams, 2005.

John Canemaker, *Felix: The Twisted Tale of the World's Most Famous Cat*, Pantheon Books, 1991.

Donald Crafton, *Emile Cohl, Caricature, and Film*, Princeton University Press, 1990.

Denis Gifford, *American Animated Films: The Silent Era, 1897-1929*, McFarland, 1990.

Tjitte Vries, "They Thought It Was A Marvel" *Arthur Melbourne-Cooper (1874-1961), Pioneer of Puppet Animation*, Amsterdam University Press, 2009.

Marian Trimble, *J. Stuart Blackton : A Personal Biography by His Daughter*, Scarecrow Press, 1985.

エクスペリメンタル／アヴァンギャルド

アニメーションと実験映画のつながりは深い。戦前ではフランスやドイツを中心としたアヴァンギャルド映画の文脈で、戦後では日本やアメリカの個人作家たちによる実験映画や美術の文脈との深い関わりのなかでのアニメーション制作という実践に励んでいた人々も多い。現代では、美術の領域においてアニメーションを用いる

作家も散見される。現状ではアニメーションと実験映画という両者をつなぐ包括的かつ決定的な研究書は存在していないので、この分野を研究するためには、雑誌における論文・記事についても参照する必要があるというのが現状だろう。(D)

『アニメ進化論——日本の実験アニメの現在』O美術館、1988年。

伊奈新祐編『メディアアートの世界 実験映像1960-2007』国書刊行会、2008年。

イメージフォーラム編『日本実験映像40年史』キリンプラザ大阪、1994年。

ジョン・ウィットニー『デジタル・ハーモニー』産業図書、1984年。(John Whitney, *Digital Harmony: On the Complementarity of Music and Visual Art*, McGraw-Hill Inc., 1981.)

「草月アートセンターの記録」刊行委員会『輝け60年代 草月アートセンターの全記録』フィルムアート社、2002年。

Stephen C. Foster (ed.), *Hans Richter: Activism, Modernism, and Avant-garde*, The MIT Press, 1998.

Roger Horrocks, *Art That Moves: The Work of Len Lye*, Auckland University Press, 2010.

Len Lye, *Figures of Motion: Len Lye, Selected Writings*, Auckland University Press/Oxford University Press, 1985.

Louise O'Konor, *Viking Eggeling 1880-1925. Artist and Film-maker, Life and Work*, Almqvist & Wiksell, 1971.

ポスト・デジタル

デジタル時代の到来は従来の実写映画における指標性の神話を脅かし、ようやく映像そのものの存在論が真剣に問い直されることになった。しかしCGとアニメーションを混同し、アニメーションが勝利したとして受け止めるわけにはいかない。マーク・ランガー氏らが指摘するように、実はアニメーションはあまりにも長い間自らを実写と区別することでしか考察されなかった側面があるからである。デジタルは実写映画だけではなくアニメーションの再定義も要請している。最近ではそういった観点からの研究が増えてきており、注目に値する。(K)

Judith Kriger, *Animated Realism: A Behind-the-Scenes Look at the Animated Documentary Genre*, Focal Press, 2012.

Robert Russett, *Hyperanimation: Digital Images and Virtual Worlds*, John Libbey, 2009.

Aylish Wood, *Digital Encounters*, Routledge, 2012.

Paul Wells, *Re-imagining Animation: The Changing Face of the Moving Image*, Ava Publishing, 2008.

インディペンデント／オルタナティブ／短編作家研究

この項では、アニメーション産業においては周辺的な位置に属し、「アニメーション作家」という枠組みで語られることの多い作家たちを取り上げる研究本を集めた。日本におけるこれまでの受容の状況を反映するかのぞ

とく、チェコやロシア(とりわけノルシュテイン)についての出版件数が多いのが見てとれる。資料集的な趣の強い日本での出版状況と比べると、海外では、学術的アプローチによる「作家研究」本が多いのも特徴である。また、アニメーションと隣接する領域である特撮の分野では、レイ・ハリーハウゼンについての(による)本も多く、少し文脈は異なるものの、この項において特別に小項目を設けた。(D)

チェコ(T)

『アニメーターズ<1>カレル・ゼマン』オムロ、2003年。

『ズデネック・ミレルの世界—チェコ・カートゥーン・アニメの巨星』エスクアイアマガジンジャパン、2004年。

『チェコアニメ新世代』エスクアイアマガジンジャパン、2002年。

マリエ・ベネショヴァー『ブジェチスラフ・ポヤル』アットアームズ、2008年。

『チェコアニメの巨匠たち』エスクアイアマガジンジャパン、2003年。

Jaroslav Bocek, *Jirí Trnka: Artist and Puppet Master*, 1965.

シュヴァンクマイエル(T)

赤塚若樹『シュヴァンクマイエルとチェコ・アート』未知谷、2008年。

『オールアバウト シュヴァンクマイエル』エスクアイアマガジンジャパン、2006年。

ヤン・シュヴァンクマイエル『シュヴァンクマイエルの世界』赤塚若樹訳、国書刊行会、1999年。

ヤン・シュヴァンクマイエル『シュヴァンクマイエルの博物館』国書刊行会、2001年。

ヤン・シュヴァンクマイエル & エヴァ・シュヴァンクマイエロヴァー『GAUDIA 造形と映像の魔術師 シュヴァンクマイエル—幻想の古都プラハから』求龍堂、2005年。

『ヤン・シュヴァンクマイエル創作術』ACCESS、2011年。

Peter Hames(ed.), *The Cinema of Jan Svankmajer: Dark Alchemy*, London: Wallflower Press, 2008.

ユーリー・ノルシュテイン(T)

クレア・キッソン『『話の話』の話——アニメーターの旅 ユーリー・ノルシュテイン』未知谷、2003年。(Clare Kitson, *Yuri Norstein and Tale of Tales: An Animator's Journey*, John Libbey, 2005.)

児島宏子『アニメの詩人ノルシュテイン——音・響き・ことば』東洋書店、2006年。

高畑勲『話の話』アニメージュ文庫、1984年。

ユーリー・ノルシュテイン『フラワーニャと私』児島宏子訳、徳間書店、2003年。

ユーリー・ノルシュテイン『ユーリー・ノルシュテインの仕事』ふゅーじょんぷろだくと、2004年。

日本(T)

『I.TOON CAFE—伊藤有壱アニメーションの世界』プチグラパブリッシング、2006年。

岩井俊雄『岩井俊雄の仕事と周辺』六耀社、2000年。

- 『川本喜八郎 人形——この命あるもの』平凡社、2007年。
 『川本喜八郎 アニメーション&パペット・マスター』角川書店、1994年。
 久里洋二『ボクのつぶやき自伝 @yojikuri』新潮社、2012年。
 杉山潔『岡本忠成作品集』角川書店、1994年。
 古川タク『ザ・タクン・ユーモア——古川タクのアニメーションとグラフィック・ノンセンス』みのり書房、1979年。
 古川タク『イラストレーター(仕事 発見シリーズ)』実業之日本社、1992年。
 持永只仁『アニメーション日中交流記:持永只仁自伝』東方書店、2006年。
 柳原良平『アンクルトリス交友録』旺文社文庫、1983年。
 『ヤママラアニメーション図鑑 山村浩二ワークスブック改訂版』演劇ぶっく社、2004年。

特撮／レイ・ハリーハウゼン(T)

- Studio28編『モンスターメイカーズ ハリウッド怪獣特撮史』洋泉社、2000年。
 ダーツ編『コンプリート・レイ・ハリーハウゼン』白夜書房、1993年。
 レイ・ハリーハウゼン、トニー・ダルトン『レイ・ハリーハウゼン大全』河出書房新社、2009年。(Ray Harryhausen, Tony Dalton, *The Art of Ray Harryhausen*, Billboard Books, 2006.)
 Ray Harryhausen, *Film Fantasy Scrapbook*, A.S. Barnes, 1972.
 Ray Harryhausen, Tony Dalton, *Ray Harryhausen : An Animated Life*, Billboard Books, 2004.
 Ray Harryhausen, Tony Dalton, *The Art of Ray Harryhausen*, Billboard Books, 2006.
 Ray Harryhausen, Tony Dalton, *A Century of Stop-Motion Animation, From Melies to Aardman*, Watson-Guptill, 2008.

【研究書】

- Gianalberto Bendazzi, *Alexeieff: Itinerary of A Master*, Dreamland, 2001.
 Suzanne Buchan, *The Quay Brothers: Into a Metaphysical Playroom*, Minnesota University Press, 2010.
 Dan Cameron, *William Kentridge*, Phaidon, 1999.
 Noell K. Wolfgram Evans, *Animators of Film and Television*, McFarland, 2011.
 Vivien Halas and Paul Wells, *Halas & Batchelor Cartoons: An Animated History*, Southbank Publishing, 2006.
 Olivier Cotte, *David Ehrlich: Citizen of the World*, Dreamland, 2002.
 Olivier Cotte, *Georges Schwizgebel*, Heuwinkel, 2004.
 Philippe Moins and Jan Temmerman, *Raoul Servais: Itineraire d'un peintre cineaste: A Painter Filmmaker's Journey*, Vzw Stichting Raoul Servais Foundation, 1999.
 Priit Pärn, Eesti Kunstimuuseum, 2007.
 Johan Swinnen and Luc Deneulin, *Raoul Servais: The Wizard of Ostend*, Academic and Scientific Publishers, 2008.
 V. T. Richard, *Norman McLaren Manipulator of Movement - The National Film Board Years, 1947-1967*,

Ontario Film Institute / Associated University Presses, 1982.

【発言集・インタビュー】

小野耕世『世界のアニメーション作家たち』人文書院、2006年。

オリビエ・コット『コマ撮りアニメーションの秘密—オスカー獲得13作品の制作現場と舞台裏』グラフィック社、2008年。(Olivier Cotte, *Les Oscars du film d'animation: Secrets de fabrication de 13 courts-métrages récompensés à Hollywood*, Éditions Eyrolles, 2006.)

【自伝・伝記】

クリス・ロビンソン『ライアン・ラーキン やせっぽちのバラード』土居伸彰訳、太郎次郎社エディタス、2009年。

(Chris Robinson, *The Ballad of a Thin Man: In Search of Ryan Larkin*, Course Technology PTR, 2008.)

Terence Dobson, *The Film Work of Norman McLaren*, John Libbey, 2006.

Bill Plympton, David B. Levy, *Independently Animated, Bill Plympton: The Life and Art of the King of Indie Animation*, Universe Pub, 2011.

Jon M. Gibson and Chris McDonnell, *Unfiltered: The Complete Ralph Bakshi*, Universe, 2008.

【実践側からのアニメーション論】

山村浩二『アニメーションの世界へようこそ』岩波ジュニア新書、2006。

Ülo Pikkov, *ANIMASOPHY - Theoretical Writings On The Animated Film*, Eesti Kunstiakadeemia, 2010.

Barry Purves, *Stop Motion: Passion, Process and Performance*, Focal, 2008.

Lotte Reiniger, *Shadow Puppets, Shadow Theatres, and Shadow Films*, Plays, inc. 1975.

アメリカン・アニメーション研究

アメリカのアニメーション研究の中心となるのは何といってもディズニーだが、近年では、ディズニーの達成を新たな角度で批判的に再考する研究書が多くなってきている。その他にも、フライシャーやワーナー、UPA、新しいところではピクサーなど、アメリカの商業アニメーション史におけるメルクマールの存在(主にスタジオ)についての研究書は、基本的なところは揃っている。また、日本ではあまり顧みられることがないアメリカのテレビ・アニメーションを対象としたものも多い。(D)

ディズニー脱構築のために(T)

小野耕世『Donald Duckの世界像 ディズニーにみるアメリカの夢』中公新書、1983年。

マーク・エリオット『闇の王子ディズニー、上下』草思社、1994年。(Marc Eliot, *Walt Disney: Hollywood's Dark*

Prince, Andre Deutsch Ltd, 2003.)

ニール・ガブラー『創造の狂気 ウォルト・ディズニー』中谷和男訳、ダイヤモンド社、2007年。(Neil Gabler, *Walt Disney: The Triumph of the American Imagination*, 2007.)

ジョン・ケインメーカー『メアリー・ブレア ある芸術家の燦きと、その作品』那波かおり訳、岩波書店、2010年。(John Canemaker, *The Art and Flair of Mary Blair*, Disney Editions, 2003.)

デイブ・スミス『Disney A to Z/The Official Encyclopedia オフィシャル百科事典』ぴあ、2008年。(David Smith, *Disney A to Z: The Updated Official Encyclopedia*, Disney Editions, 1998.)

J・P・テロッテ『ディズニーを支えた技術』堀千恵子訳、日経BP、2009年。(J. P. Telotte, *The Mouse Machine: Disney and Technology*, University of Illinois Press, 2008.)

ボブ・トマス『ウォルト・ディズニー』玉木悦子、能登路雅子訳、講談社、1995年。(Bob Thomas, *Walt Disney*, Disney Book Group, 1994.)

アリエル・ドルフマン & アルマント・マトウラル『ドナルドダックを読む』山崎カヲル訳、晶文社、1984年。(Ariel Dorfman and Armand Mattelart, *Para leer al Pato Donald*, Siglo XX, 1972.)

クリストファー・フィンチ『ディズニーの芸術』前田千恵子訳、講談社、2001年。(Christopher Finch, *The Art of Walt Disney: From Mickey Mouse to the Magic Kingdoms and Beyond*, New Edition, Abrams, 2011.)

デイヴィッド・A・プライス『メイキング・オブ・ピクサー——創造力をつくった人々』櫻井祐子訳、早川書房、2009年。(David A. Price, *The Pixar Touch*, Vintage, 2009.)

カルステン・ラクヴァ『ミッキー・マウス：ディズニーとドイツ』柴田陽弘、真岩啓子訳、現代思潮新社、2002年。

Robin R.Allan, *Walt Disney and Europe: European Influences on the Animated Feature Films of Walt Disney*. John Libbey Publishing, 1999.

Michael Barrier, *The Animated Man: A Life of Walt Disney*, University of California Press, 2007.

Elizabeth Bell, *From Mouse to Mermaid: the Politics of Film, Gender, and Culture*, Indiana University Press, 1995.

A. Bowdoin and Van Riper (ed.), *Learning from Mickey, Donald and Walt: Essays on Disney's Educational Films*, McFarland, 2011.

Eleanor Byrne, *Deconstructing Disney*, Pluto Press, 1999.

Johnson Cheu (ed), *Diversity in Disney Films: Critical Essays on Race, Ethnicity, Gender, Sexuality and Disability*, Mcfarland & Co Inc Pub, 2013.

Amy M. Davis, *Good Girls and Wicked Witches: Women in Disney's Feature Animation*, Indiana UP, 2006.

Henry A. Giroux, *The Mouse that Roared: Disney and the End of Innocence*, Rowman & Littlefield, 1999.

Bruno Givreau (ed.), *Once Upon a Time Walt Disney: The Sources of Inspiration for the Disney Studios*, Prestel Publishing, 2006.

Sean Griffin, *Tinker Belles and Evil Queens : the Walt Disney Company from the Inside Out*, New York

University Press, 2000.

J. B. Kaufman, *South of the Border With Disney: Walt Disney and the Good Neighbor Program, 1941-1948*, Disney Editions, 2009.

Jim Korkis, *Who's Afraid of the Song of the South? And Other Forbidden Disney Stories*, Theme Park Press, 2012.

Leonard Maltin, *The Disney Films*, 4th ed., Disney Editions, 2000.

Russell Merritt and J. B. Kaufman, *Walt in Wonderland: The Silent Films of Walt Disney*, The Johns Hopkins University Press, 2000.

Russell Merritt and J. B. Kaufman, *Walt Disney's Silly Symphonies: A Companion to the Classic Cartoon Series*, La cineteca del Friuli, 2006.

Chris Pallant, *Demystifying Disney: A History of Disney Feature Animation*, Continuum, 2011.

Don Peri, *Working with Walt: Interviews with Disney Artists*, University Press of Mississippi, 2008.

Don Peri, *Working with Disney: Interviews with Animators, Producers, and Artists*, University Press of Mississippi, 2011.

Eric Smoodin, *Disney Discourse: Producing the Magic Kingdom*, Routledge, 1994.

Annalee R. Ward, *Mouse Morality: The Rhetoric of Disney Animated Film*, University of Texas Press, 2002.

Richard Schickel, *The Disney Version*, Simon and Schuster, 1968.

Timothy S. Susanin, *Walt Before Mickey: Disney's Early Years, 1919-1928*, University Press of Mississippi, 2011.

Steven Watts, *The Magic Kingdom: Walt Disney and the American Way of Life*, University of Missouri, 1997.

Paul Wells, *Animation and America*, Rutgers University Press, 2002.

David Whitley, *The Idea of Nature in Disney Animation*, Ashgate Publishing, 2007.

【概論・歴史】

Amid Amidi, *Cartoon Modern: Style and Design in 1950s Animation*, Chronicle Books, 2006.

Michael Barrier, *Hollywood Cartoons: American Animation in Its Golden Age*, Oxford University Press, 2003.

John Canemaker (ed.), *Storytelling in Animation: An Anthology*, American Film Institute, 1988.

Daniel Goldmark, Yuval Taylor, *The Cartoon Music Book*, A Cappella Books, 2002.

Daniel Goldmark, *Tunes for 'Toons: Music and the Hollywood Cartoon*, University of California Press, 2005.

Danny Peary, Gerald Peary (ed.), *The American Animated Cartoon: A Critical Anthology*, E. P. Dutton, 1980.

【作家・スタジオ研究】

Adam Abraham, *When Magoo Flew: The Rise and Fall of Animation Studio UPA*, Wesleyan University Press, 2012.

Jerry Beck (ed.), *The 100 Greatest LOONEY TUNES Cartoons*, Insight Editions, 2010.

Lesley Cabarga, *The Fleischer Story*, Da Capo, 1988.

John Cawley, *The Animated Films of Don Bluth*, Image Publishing, 1991.

Fred Grandinetti, *Popeye: An Illustrated History of E.C. Segar's Character in Print, Radio, Television, and Film Appearances, 1929-1993*, McFarland, 1994.

Hugh Kenner, *Chuck Jones: A Flurry of Drawings. Portraits of American Genius*, University of California Press, 1994.

Karen Paik, *To Infinity and Beyond!: The Story of Pixar Animation Studios*, Chronicle Books, 2007.

【テレビ・アニメーション研究】

Mark Arnold, *Created and Produced by Total Television Productions: The Story of Underdog, Tennessee Tuxedo and the Rest*, BearManor Media, 2009.

Timothy Burke and Kevin Burke, *Saturday Morning Fever*, St. Martin's Griffin, 1999.

Heather Hendershot (ed.), *Nickelodeon Nation: The History, Politics, and Economics of America's Only TV Channel for Kids*, New York University Press, 2004.

Keith Scott, *The Moose that Roared: The Story of Jay Ward, Bill Scott, a Flying Squirrel, and a Talking Moose*, St. Martin's Press, 2000.

Carol A. Stabile, Mark Harrison (ed.), *Prime Time Animation*, Routledge, 2003.

【発言集・インタビュー】

Maureen Furniss (ed.), *Chuck Jones: Conversations*, University Press of Mississippi, 2005.

【自伝・伝記】

リチャード・フライシャー『マックス・フライシャー アニメーションの天才的変革者』田栗美奈子訳、作品社、2009年。(Richard Fleischer, *Out of the Inkwell: Max Fleischer and the Animation Revolution*, University Press of Kentucky, 2005.)

Joe Adamson, *Tex Avery: King of Cartoons*, Da Capo, 1975.

Joseph Barbera, *My Life in Toons: From Flatbush to Bedrock in Under A Century*, Turner Publishing, 1994.

Mel Blanc and Philip Bashe, *That's Not All Folks*, Warner Books, 1988.

Bill Hanna and Tom Ito, *A Cast of Friends*, Da Capo Press, 2000.

Leslie Iwerks and John Kenworthy, *The Hand Behind the Mouse*, Disney Editions, 2001.

Chuck Jones, *Chuck Amuck: The Life and Times of an Animated Cartoonist*, Farrar, Straus and Giroux, 1994.

Chuck Jones, *Chuck Reducks: Drawings from the Fun Side of Life*, Warner Books, 1996.

Iwao Takamoto, *Iwao Takamoto: My Life with a Thousand Characters*, The University Press of Mississippi, 2009.

Robert McKimson Jr., *"I Say, I Say...Son!": A Tribute to Legendary Animators Bob, Chuck, and Tom McKimson*, Santa Monica Press, 2012.

Eugene Walz, Stephen Thorson, *Cartoon Charlie : the Life and Art of Animation Pioneer Charles Thorson*, Great Plains Publications, 1998.

【実践側からのアニメーション論】

ジョセフ・ジランド『特殊効果アニメーションの世界 エレメンタルマジック』株式会社Bスプラウト訳、ボーンデジタル、2010年。(Joseph Gilland, *Elemental Magic: The Art of Special Effects Animation*, Focal Press, 2009.)

日本アニメーション研究

ここにおける日本アニメーションとは日本の商業アニメーションを意味する。その研究については、日本国内では学問としてよりジャーナリズムとしての傾向がこれまで多かったと指摘されている。一方、海外では欧米を中心に1990年後半から急に学術的な言説の対象として取り上げられはじめ、「anime」という異国趣味の言葉やパースペクティブを乱用するテクノ・オリエンタリズムの傾向が見られる。なお、日本国内と海外両方の間の研究交流は未だに十分とは言えず、同研究主題に関わる今後の課題と思われる。(K)

手塚治虫／虫プロ(T)

うしおそうじ『手塚治虫とボク』草思社、2007年。

大塚英志『アトム の 命題 手塚治虫と戦後まんがの主題』角川文庫、2009年。

津堅信之『アニメ作家としての手塚治虫：その軌跡と本質』NTT出版、2007年。

手塚プロダクション『手塚治虫劇場 手塚治虫のアニメーションフィルモグラフィ』手塚プロダクション、1991年。

豊田有恒『日本SFアニメ創世記—虫プロ、そしてTBS漫画ルーム』阪急コミュニケーションズ、2000年。

山本暎一『虫プロ興亡記—安仁明太の青春』新潮社、1989年。

富野由悠季／ガンダム(T)

『ガンダム者——ガンダムを創った男たち』講談社、2002年。

小牧雅伸『機動戦士ガンダムの時代1981・2・22 アニメ新世紀宣言』武田ランダムハウスジャパン、2009年。

富野由悠季『ガンダムの現場から：富野由悠季発言集』キネマ旬報社、2000年

富野由悠季『だから僕は……—ガンダムへの道』角川文庫、2002年。

富野由悠季『「ガンダム」の家族論』ワニブックス、2011年。

富野由悠季『映像の原則』キネマ旬報社、2011年。

『富野語録——富野由悠季インタビュー集』ラポート、1999年。

『富野由悠季全仕事—1964-1999』キネマ旬報社、1999年。

押井守(T)

押井守『METHODS ～押井守『パトレイバー 2』演出ノート』角川書店、1994年。

押井守・竹内敦志『押井守・映像機械論[メカフィリア]』大日本絵画、2004年。

押井守『イノセンス創作ノート：人形・建築・身体の旅＋対談』徳間書店、2004年。

押井守『これが僕の回答である 1995-2004』インフォバーン、2004年。

押井守『すべての映画はアニメになる[押井守発言集]』徳間書店、2004年。

押井守『アニメはいかに夢を見るか：『スカイ・クロラ』制作現場から』岩波書店、2008年。

久保美鈴、野崎透編『METHODS 押井守「パトレイバー2」演出ノート』角川書店、1994年。

野田真外『前略、押井守様。』フットワーク出版、1998年。

Brian Ruh, *Stray Dog of Anime: The Films of Mamoru Oshii*, Palgrave Macmillan, 2004.

宮崎駿／スタジオジブリ／「漫画映画」研究(T)

宮崎駿『出発点 1979～1996』徳間書店、1997年。

高畑勲『映画を作りながら考えたこと』徳間書店、1999年。

高畑勲『映画を作りながら考えたこと<2>1991 - 1999』徳間書店、1999年。

宮崎駿『風の帰る場所：ナウシカから千尋までの軌跡』ロッキング・オン、2002年。

宮崎駿『折り返し点 1997～2008』岩波書店、2008年。

大塚康生『作画汗まみれ 増補改訂版』徳間書店、2001年。

大塚康生『リトル・ニモの野望』徳間書店、2004年。

大塚康生・森遊机『大塚康生インタビュー アニメーション縦横無尽』実業之日本社、2006年。

高畑勲『「ホルス」の映像表現』徳間書店、1983年。

高畑勲『木を植えた男を読む』徳間書店、1990年。

高畑勲『十二世紀のアニメーション論——国宝絵巻物に見る映画的・アニメ的なるもの』徳間書店、1999年。

高畑勲『漫画映画の志—「やぶにらみの暴君」と「王と鳥」』岩波書店、2007年。

鈴木敏夫『ジブリの哲学——変わるものと変わらないもの』岩波書店、2011年。

稲葉振一郎『ナウシカ解説—ユートピアの臨界』窓社、1996年。

梶山寿子『鈴木敏夫のジブリ・マジック』日本経済新聞出版社、2009年。

叶精二『宮崎駿全書』フィルムアート社、2006年。

切通理作『宮崎駿の<世界>』筑摩書房、2001年。

柴口育子『アニメーションの色職人』徳間書店、1997年。

中村健吾『『もののけ姫』から『ホーショケキョとなりの山田くん』へ』徳間書店、1999年。

スタジオジブリ編集責任『ナウシカの「新聞広告」って見たことがありますか。』徳間書店、2002年。

『スタジオジブリ作品関連資料集』全五巻、徳間書店、1996～97年。

長谷正人『映画というテクノロジー経験』青弓社、2010年。

松野本和弘編『日本漫画映画の全貌』東京都現代美術館、2004年。

米村みゆき編『ジブリの森へ 高畑勲・宮崎駿を読む 増補版』森話社、2008年。

『ユリイカ 8月臨時増刊 宮崎駿の世界』青土社、1998年。

『キネ旬ムック フィルムメーカーズ⑥ 宮崎駿』キネマ旬報社、1999年。

『アニメーションを展示する——三鷹の森ジブリ美術館企画展示「千と千尋の神隠し」』徳間書店スタジオジブリ事業本部、2002年。

受容史研究(T)

東浩紀『動物化するポストモダン オタクからみた日本社会』講談社現代新書、2002年。

大塚英志『「おたく」の精神史 一九八〇年代論』講談社、2004年。

岡田斗司夫『オタク学入門』新潮文庫、2008年。

岡田斗司夫『東大オタク学講座』講談社文庫、2008年。

ササキバラゴウ『「戦時下」のおたく』角川書店、2005年。

ササキバラゴウ『「美少女」の現代史：「萌え」とキャラクター』講談社、2004年。

鳴海丈『「萌え」の起源：時代小説家が読み解くマンガ・アニメの本質』PHP研究所、2009年。

吉本たいまつ『おたくの起源』NTT出版、2009年。

ANIME研究(T)

アン・アリスン『菊とポケモン——グローバル化する日本の文化力』実川元子訳、新潮社、2010年。(Anne Allison, *Millennial Monsters: Japanese Toys and the Global Imagination*, University of California Press, 2006.)

清谷信一『ル・オタク：フランスおたく物語』講談社、2009年。

草薙聰志『アメリカで日本のアニメは、どう見られてきたか?』徳間書店、2003年。

ローランド・ケルツ『ジャパナメリカ』永田医訳、武田ランダムハウスジャパン、2007年。(Roland Kelts, *Japanamerica: How Japanese Pop Culture Has Invaded the U.S.*, Palgrave Macmillan, 2007.)

スーザン・ネイピア『現代日本のアニメ——『AKIRA』から『千と千尋の神隠し』まで』神山京子訳、中公叢書、2002年。(Susan J. Napier, *Anime from Akira to Princess Mononoke*. Palgrave, 2001.)

『ユリイカ 特集 ジャパニメーション!』青土社、1996年。

フレッド・ラッド、ハーヴェー・デネロフ『アニメが「ANIME」になるまで：鉄腕アトム、アメリカに行く』久美薫訳、NTT出版、2010年。(Fred Ladd, Harvey Deneroff, *Astro Boy and Anime Come to the Americas: An Insider's View of the Birth of a Pop Culture Phenomenon*, Mcfarland & Co Inc Pub, 2008.)

Christopher Bolton, *Robot Ghosts and Wired Dreams: Japanese Science Fiction from Origins to Anime*, University of Minnesota Press, 2007.

Steven T. Brown, *Cinema Anime*, New York: Palgrave Macmillan, 2006.

Susan J. Napier, *From Impressionism to Anime: Japan as Fantasy and Fan Cult in the Mind of the West*, Palgrave Macmillan, 2007.

Fred Patten, *Watching Anime, Reading Manga: 25 Years of Essays and Reviews*, Stone Bridge Press, 2004.

Mark I. West (ed.), *The Japanification of Children's Popular Culture: From Godzilla to Miyazaki*, The Scarecrow Press, 2009.

【概論・歴史】

赤星政尚ほか『不滅のスーパーロボット大全—マジンガーZからトランスフォーマー、ガンダムWまで徹底大研究』二見書房、1998年。

秋田孝宏『「コマ」から「フィルム」へ—マンガとマンガ映画—』NTT出版、2005年。

尾形英夫『あの旗を撃て!—『アニメージュ』血風録』オークラ出版、2004年。

叶精二『日本のアニメーションを築いた人々』若草書房、2004年。

北野太乙『日本アニメ史学研究序説』八幡書展、1998年。

黒沢清ほか編『日本映画は生きている 第6巻 アニメは越境する』岩波書店、2010年。

幸森軍也『ゼロの肖像「トキワ荘」から生まれたアニメ会社の物語』講談社、2012年。

小山昌宏、須川亜紀子編著『アニメ研究入門—アニメを究める9つのツボ』現代書館、2013年。

竹内オサム・小山昌宏編『アニメへの変容 原作とアニメとの微妙な関係』現代書館、2006年。

津堅信之『日本アニメーションの力：85年の歴史を貫く2つの軸』NTT出版、2004年。

津堅信之『テレビアニメ夜明け前：知られざる関西圏アニメーション興亡史』ナカニシヤ出版、2012年。

津堅信之、高橋光輝『アニメ学』NTT出版、2011年。

電子学園総合研究所編『アニメの未来を知る—ポスト・ジャパニメーション キーワードは「世界観+デジタル」』テンブックス、1998年。

畠山兆子、松山雅子『物語の放送形態論—仕掛けられたアニメーション番組』世界思想社、2006年。

御園まこと(監修)『図説テレビアニメ全書』原書房、1999年。

【作家研究】

大山くまお、林信行編『アニメーション監督 出崎統の世界』河出書房新社、2012年。

河森正治『河森正治 ビジョンクリエイターの視点』キネマ旬報社、2013年。

『今敏アニメ全仕事』ジービー、2011年。

Andrew Osmond, *Satoshi Kon: The Illusionist*, Stone Bridge Press, 2009.

【発言集・インタビュー】

新井淳『オトナアニメCOLLECTION いまだから語れる80年代アニメ秘話～スーパーロボットの時代～』洋泉社、2012年。

石川光久『現場力革命』ベストセラーズ、2008年。

大泉実成編『スキゾ・エヴァンゲリオン』太田出版、1997年。

小黑祐一郎『この人に話を聞きたい アニメプロフェッショナルの仕事 1998-2001』飛鳥新社、2006年。

小黑祐一郎『アニメクリエイター・インタビューズ：この人に話を聞きたい：2001-2002』講談社、2011年。

オトナアニメ編集部編『オトナアニメCOLLECTION いまだから語れる70年代アニメ秘話～テレビマンガの時代～』洋泉社、2012年。

オトナアニメ編集部編『オトナアニメCOLLECTION いまだから語れる80年代アニメ秘話～美少女アニメの萌芽～』洋泉社、2012年。

今敏『KON'S TONE「千年女優」への道』晶文社、2002年。

杉井ギサブロー『アニメと生命と放浪と：「アトム」「タッチ」「銀河鉄道の夜」を流れる表現の系譜』ワニブックス、2012年。

『すごい！ アニメの音づくりの現場』雷鳥社、2007年。

辻真先『『鉄腕アトム』から『電脳コイル』へ：アニメとはなにか』松籟社、2009年。

竹熊健太郎編『パラノ・エヴァンゲリオン』太田出版、1997年。

浜野保樹編『アニメーション監督 原恵一』晶文社、2005年。

原口正宏、他『タツノコプロインサイダーズ』講談社、2002年。

堀田純司『ガイナックス・インタビューズ』講談社、2005年。

森下孝三『東映アニメーション40ガチンコ奮闘史：アニメ『ドラゴンボールZ』『聖闘士星矢』『トランスフォーマー』を手がけた男』一迅社、2010年。

安彦良和、羽仁未央『アニメ・マンガ・戦争：安彦良和对談集』角川書店、2005年。

山崎敬之『テレビアニメ魂』講談社現代新書、2005年。

【自伝・伝記】

小牧雅伸『アニメックの頃…編集長(ま)奮闘記』NTT出版、2009年。

笹川ひろし『ぶたもおだてりゃ木にのぼる』ワニブックス、2000年。

津堅信之『日本初のアニメーション作家北山清太郎』臨川書店、2007年。

辻真先『TVアニメ青春記』実業之日本社、1996年。

森やすじ『アニメーターの自伝：もぐらの歌』徳間書店、1984年。

山本早苗『漫画映画と共に：故山本早苗氏自筆自伝より』自費出版、1982年。

雪室俊一『テクマクマヤコン ぼくのアニメ青春録』バジリコ、2005年。

【実践側からのアニメーション論】

湖川友謙『アニメーション作画法—デッサン・空間パースの基本と実技』創芸社、1996年。

小林七郎『アニメーション美術—背景の基礎から応用まで』創芸社、1986年。

大地丙太郎『これが「演出」なのだっ：天才アニメ監督のノウハウ』講談社、2009年。

辻真先『ぼくたちのアニメ史』岩波ジュニア新書、2008年。

【資料集・データ集】

アニメージュ編集部編『TVアニメ25年史』徳間書店、1988年。

アニメージュ編集部編『劇場アニメ70年史』徳間書店、1989年。

アニメージュ編集部編『ROMAN ALBUM EXTRA BEST OFアニメージュ アニメ20年史』徳間書店、1998年。

アニメージュ増刊編集部『「BEST OF アニメージュ」』徳間書店、1998年。

『Animage アニメポケットデータ2000』徳間書店、2000年。

『アニメーション研究資料 vol.1 東映動画の成立と発達』日本アニメーション学会、2002年。

外画動画吹き替え放送50周年記念事業実行委員会『吹き替え文化50年』外画動画吹き替え放送50周年記念事業実行委員会、2006年。

『軌跡—Production I.G 1988 - 2002』角川書店、2002年。

『サンライズアニメ2001』辰巳書店、2001年。

ジ・アニメ特別編集『声優名鑑 アニメーションから洋画まで…』近代映画社、1985年。

『声優事典』キネマ旬報社、1994年。

『東京ムービーアニメ大全史』辰巳書店、1999年。

東映動画・徳間書店児童少年編集部『東映動画 長編アニメ大全集 上巻・下巻』徳間書店、1978年。

東映アニメーション50年史編纂チーム『東映アニメーション50年史』東映アニメーション、2006年。

『鋼の錬金術師 嘆きの丘の聖なる星 原画集』スクウェア・エニックス、2012年。

『魔女っ子大全集〈東映動画篇〉』バンダイ、1993年。

松田咲實『声優白書』オークラ出版、2000年。

松野木和弘『東映動画アーカイブス—につぼんアニメの原点』ワールドフォトプレス、2009年。

皆河有伽『日本動画興亡史 小説手塚学校1～テレビアニメ誕生～』講談社、2009年。

リスト制作委員会編『ロマンアルバム Animage アニメポケットデータ2000』徳間書店、2000年。

アニメーション評論・文化論

アニメーション評論は、アニメーションに対する新たなパースペクティブを授けてくれるという意味で、アニメーション研究においてもおさえておくべき項目である。また、ここでは数は少ないながらも、文化論的な文脈でアニメーションが語られた文献もまた集めた。アニメーション研究・評論のプロパーではない人々がいかにしてアニメーションを発見し、語ったのか……それもまた、アニメーションに対する見方を広げてくれるものだからだ。(D)

- 五十嵐太郎編『エヴァンゲリオン快樂原則』第三書館、1997年。
- 池田憲章編『アニメ大好き! ヤマトからガンダムへ』徳間書店、1982年。
- 大塚英志、ササキバラゴウ『教養としてのくまんが・アニメ』講談社現代新書、2001年。
- おかだえみこ『歴史をつくったアニメ・キャラクターたち——ディズニー、手塚からジブリ、ピクサーへ』キネマ旬報社、2006年。
- おかだえみこ『人形(パペット)アニメーションの魅力——ただひとつの運命』河出書房新社、2003年。
- 小野耕世『バットマンになりたい——小野耕世のコミックス世界』晶文社、1974年。
- 小谷真理『聖母エヴァンゲリオン』マガジンハウス、1997年。
- 五味洋子『アニメーションの宝箱』ふゅーじょんぷろだくと、2004年。
- 斎藤環『戦闘美少女の精神分析』ちくま文庫、2006年。
- 杉本五郎『映画をあつめて』平凡社、1990年。
- 高橋透『サイボーグ・フィロソフィー:『攻殻機動隊』『スカイ・クロラ』をめぐって』NTT出版、2008年。
- 瀧口修造『コレクション 瀧口修造 6 映像論』みすず書房、1990年。
- 筒井康隆『ベティ・ブープ伝 女優としての象徴 象徴としての女優』中央公論文庫、1988年。
- 寺田寅彦『寺田寅彦全集』第8巻、岩波書店、1997年。
- 花田清輝『新編映画的思考』講談社文芸文庫、1992年。
- 氷川竜介『20年目のザンボット3』太田出版、1997年。
- 氷川竜介『アニメ新世紀 王道秘伝書』徳間書店、2000年。
- 氷川竜介『フィルムとしてのガンダム』太田出版、2002年。
- 藤津亮太『アニメ「評論家」宣言』扶桑社、2003年。
- 藤津亮太『チャンネルはいつもアニメ——ゼロ年代アニメ時評』NTT出版、2010年。
- 森卓也『アニメーション入門』美術出版社、1966年。
- 横田正夫『日韓アニメーションの心理分析: 出会い・交わり・閉じこもり』臨川書店、2009年。
- 吉本隆明『吉本隆明全マンガ論: 表現としてのマンガ・アニメ』小学館クリエイティブ、2009年。
- Chris Robinson, *Unsung Heroes of Animation*, John Libbey, 2006.
- Chris Robinson, *Animation Unearthed*, Continuum, 2010.

批評・理論

この項では批評的・哲学的視座からアニメーションにアプローチした著作を集めた。アニメーションのそのものに内在する性質について掘り下げていくというよりも、特定の理論的枠組みを援用していくかたちでのアプローチが目立つが、それによってアニメーションの新たな側面が発見されたり、もしくはアニメーション外とのつながりが措定されるという成果を見出すことができるだろう。また、いくつかの著作においては、映画論の一部と

してアニメーションが取り上げられており、現状においてアニメーションが取り上げられる文脈がよく分かるといえる。(D)

大塚英志『物語消費論改』アスキー新書、2012年。

加藤幹郎編著『アニメーションの映画学』臨川書店、2009年。

スタンリー・カヴェル『眼に映る世界 映画の存在論についての考察』石原陽一郎訳、法政大学出版会、2012年。(Stanley Cavell, *The World Viewed: Reflections on the Ontology of Film, Enlarged Edition*, Harvard University Press, 1979.)

斎藤環『フレーム憑き: 視ることと症候』青土社、2004年。

ジル・ドゥルーズ『シネマ1 運動イメージ』財津理、齋藤範訳、法政大学出版局、2008年。(Gilles Deleuze, *Cinéma 1 - L'image-mouvement*, Éditions de Minuit, 1983.)

ジル・ドゥルーズ『シネマ2 時間イメージ』宇野邦一、江澤健一郎、岡村民夫、石原陽一郎、大原理志訳、法政大学出版局、2006年。(Gilles Deleuze, *Cinéma 2 - L'image temps*, Éditions de Minuit, 1985.)

ジョン・バージャー『見るということ』笠原美智子訳、ちくま学芸文庫、2005年。(John Berger, *About Looking*, Bloomsbury Publishing, 2009.)

Alan Cholodenko, *The Illusion of Life : Essays on Animation*, Power Publications in association with the Australian Film Commission, 1991.

Alan Cholodenko, *The Illusion of Life 2 : More Essays on Animation*, University of Illinois Press, 2007.

Donald Crafton, *Shadow of A Mouse: Performance, Belief, and World-Making in Animation*, University of California Press, 2012.

Rebecca Coyle (ed.), *Drawn to Sound: Animation Film Music and Sonicity*, Equinox Publishing, 2010.

Siegfried Kracauer, *Siegfried Kracauer's American Writings: Essays on Film and Popular Culture*, 2012.

Daniel Goldmark, Charlie Keil (ed.), *Funny Pictures: Animation and Comedy in Studio-Era Hollywood*, University of California Press, 2011.

Robin L. Murray and Joseph K. Heumann, *That's All Folks?: Ecocritical Readings of American Animated Features*, University of Nebraska Press, 2011.

Victoria Nelson, *The Secret Life of Puppets*, Harvard University Press, 2001.

J. P. Telotte, *Animating Space: From Mickey to Wall-E*, The University Press of Kentucky, 2010.

Paul Wells, *The Animated Bestiary: Animals, Cartoons, and Culture*, Rutgers University Press, 2008.

ヘゲモニーと他者性

2000年代からアニメーションを取り巻くジェンダー、人種、権力との関係に関する研究が急増している。アニメーションを社会政治的文脈の中に配置し別の見方から語るような傾向は、実写映画など他の分野では既に進んでいるものである。もちろんこれは、ジェンダー研究、ポストコロニアル研究、多文化主義とアイデンティティ政治学など、必ずしも映像に関わるとはいえないレベルの研究、言説、実践からの影響でもある。一方、ディズニーランド・パリが「文化的なチェルノブイリ」として看做されていたように、一部の知識人によって敬遠されがちだったディズニーを西洋美術史に関連づける研究の動きは、また別の意味でアニメーションを取り巻く文化政治学に対し変化をもたらしつつある。(K)

斎藤美奈子『紅一点論：アニメ・特撮・伝記のヒロイン像』筑摩書房、2001年。

村瀬ひろみ『フェミニズム・サブカルチャー批評宣言』春秋社、2000年。

吉田純子『身体で読むファンタジー：フランケンシュタインからもののけ姫まで』人文書院、2004年。

セバスチャン・ロファ『アニメとプロパガンダ：第二次大戦期の映画と政治』原正人、古永真一、中島万紀子訳、法政大学出版局、2011年。(Sébastien Roffat, *Propagandes animées : le dessin animé politique entre 1933 et 1945*, Bazaar & Co. 2011.)

若桑みどり『お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』筑摩書房、2003年。

Karl F. Cohen, *Forbidden Animation: Censored Cartoons And Blacklisted Animators in America*, McFarland, 2004.

Charles da Costa, *Framing Invisibility: Racial Stereotyping and Selective Positioning in Contemporary British Animation*, LAP LAMBERT Academic Publishing, 2012.

M. Messenger Davis. *'Dear BBC': Children, Television Storytelling and the Public Sphere*. Cambridge University Press, 1997.

Rolf Giesen, J. P. Storm, *Animation Under the Swastika: A History of Trickfilm in Nazi Germany, 1933-1945*, McFarland, 2012.

Peter B. High. *The Imperial Screen: Japanese Film Culture in the Fifteen Years' War, 1931-1945*, University of Wisconsin Press, 2003.

David MacFadyen, *Yellow Crocodiles and Blue Oranges: Russian Animated Film since World War Two*, McGill-Queen's University Press, 2005.

Daniel J. Leab, *Orwell Subverted: The CIA and the Filming of Animal Farm*, Pennsylvania State University Press, 2007.

Christopher P. Lehman, *American Animated Cartoons of the Vietnam Era: A Study of Social Commentary in Films and Television Programs, 1961-1973*, McFarland, 2006.

- Christopher P. Lehman, *The Colored Cartoon: Black Presentation in American Animated Short Films, 1907-1954*, University of Massachusetts Press, 2009.
- D.P. Martinez. *Worlds of Japanese Popular Culture: Gender, Shifting Boundaries and Global Cultures*, Cambridge University Press, 1998.
- Jayne Pilling, *Women and Animation*, BFI Publishing, 1992.
- Laura Pontieri, *Soviet Animation and the Thaw of the 1960s: Not Only for Children*, John Libbey, 2012.
- Marian Quigley, *Women Do Animate: Interviews with 10 Australian Women Animators*, Insight Publications, 2005.
- Henry T.Sampson, *That's Enough Folks: Black Images in Animated Cartoons, 1900-60*. Scarecrow Press, 1998.
- Tom Sito, *Drawing the Line: The Untold Story of the Animation Unions from Bosko to Bart Simpson*, University Press of Kentucky, 2006.
- Michael S Shull, *Doing Their Bit : Wartime American Animated Short Films, 1939-1945*, McFarland,1987.

産業論／コンテンツ・ビジネス

アニメーション産業論の文献は、現状、学術研究というよりもジャーナリスティックな観点から書かれたものが多い。日本におけるコンテンツ・ビジネスのあり方の多様性・注目度に比例するかのよう、日本における文献の豊富さが目につく。今後はこれらの成果を学術的な分野へと応用していくことが求められていくだろう。(D)

- 安藤健二『パチンコがアニメだらけになった理由』洋泉社、2011年。
- 遠藤誉『中国動漫新人類 日本のアニメと漫画が中国を動かす』日経BPセンター、2008年。
- 『ガンプラ開発戦記 誕生から大ブームまで』アスキー新書、2010年。
- キネマ旬報映画総合研究所『“日常系アニメ”ヒットの法則』キネマ旬報、2011年。
- 霜月たかな『コミックマーケット創世記』朝日新書、2008年。
- 齊藤守彦『アニメ映画ヒットの法則』ナレッジフォア、2012年。
- 谷川建司他著『コンテンツ化する東アジア：大衆文化／メディア／アイデンティティ』青弓社、2012年。
- 谷口功『図解入門業界研究 アニメ業界の動向とカラクリがよ〜くわかる本』秀和システム、2010年。
- 古田尚輝『『鉄腕アトム』の時代——映画産業の攻防』世界思想社、2009年。
- 増田弘道『アニメビジネスがわかる』NTT出版、2007年。
- 増田弘道『もっとわかるアニメビジネス』NTT出版、2011年。
- まつもとあつし『コンテンツビジネス・デジタルシフト』NTT出版、2012年。

Walter M. Brasch, *Cartoon Monickers: An Insight into the Animation Industry*, Bowling Green University

Popular Press, 1983.

Stefan Kanfer, *Serious Business: The Art and Commerce of Animation in America from Betty Boop to Toy Story*, Da Capo Press, 2000.

Marc Steinberg, *Anime's Media Mix: Franchising Toys and Characters in Japan*, University of Minnesota Press, 2012.

アニメーション言説史のために(入門書・教本)

アニメーションに関する語り方は当然時代と共に変化したり、異なる文脈の中では通用しなかったりする。それらを一つの研究対象として取り上げ、今日的な有効性を問うと同時に、理論化への可能性を探ることは、アニメーション研究に関する研究、つまりアニメーションのメタ研究として重要な意味を持つ。以上の趣旨からいくつかの著作をここで紹介する。(K)

『アートアニメーションの素晴らしき世界』エスクアイアマガジンジャパン、2002年。

アニメ6人の会『アニメーションの本—動く絵を描く基礎知識と作画の実際』合同出版、1978年。

神村幸子『アニメーションの基礎知識大百科』グラフィック社、2009年。

S・ギンズブルグ『動画映画論 映画芸術の方法と認識』川岸貞一郎訳、理論社、1960年。

小型映画編集部『アニメと特撮』玄光社、1970年。

『講座アニメーション』2、3、4、6巻、美術出版社、1982-1987年。

『12人の作家によるアニメーションフィルムの作り方』主婦と生活社、1980年。

月岡貞夫『新技法シリーズ アニメーション 用具と材料・技法の実際・歴史』美術出版社、1972年。

ジョン・ハラス、ロジャー・マンベル『アニメーション—理論・実際・応用—』伊藤逸平訳、東京中日新聞出版局、1963年、ダヴィッド社、1972年。(John Halas and Roger Manvell, *The Technique of Film Animation*, Focal Press, 1959.)

昼間行雄『一人で作る人のためのアニメーション講座』洋泉社、2004年。

Jerry Beck (ed.), *Animation Art: From Pencil to Pixel, the World of Cartoon, Animé and CGI*, Flame Tree, 2004.

Maureen Furniss, *The Animation Bible!*, Lawrence King, 2008.

Kit Laybourne, *Animation*, National Education Services, American Film Institute, 1977.

Kit Laybourne, *The Animation Book*, Three Rivers Press, 1998.

Edwin George Lutz, *Animated Cartoons*, Applewood Books, 1998.

Fraser MacLean, *Setting the Scene: The Art & Evolution of Animation Layout*, Chronicle Books, 2011.

Jayne Pilling, *Animation: 2D and beyond*, RotoVision, 2001.

Andrew Selby, *Animation in Process*, Lawrence King Publishing, 2009.

資料集・データ集・事典・白書(複数の領域にまたがるもの)

基本的な情報を調べようと考えるとき、Wikipedia等のネットの情報に頼る以外にも、以下のような本は、それぞれのかたちでひとつの「編集」を経て作られているがゆえに、示唆も多い。(D)

浅沼圭司ほか編『新映画事典』日本図書センター、1980年。

石川弘義ほか編『大衆文化事典』弘文堂、1991年。

乾直明『海外テレビフィルム盛衰史』晶文社、1990年。

岩本憲児ほか著『世界映画大辞典』日本図書センター、2008年。

スティングレイ・日外アソシエーツ編『アニメ作品事典』日外アソシエーツ、2010年。

日外アソシエーツ編『漫画・アニメの賞事典』日外アソシエーツ、2012年。

日外アソシエーツ編『漫画家・アニメ作家人名事典』日外アソシエーツ、1997年。

日外アソシエーツ編『映像メディア作家人名事典』日外アソシエーツ、1991年。

キネマ旬報社編『日本映画人名事典 監督篇』キネマ旬報社、1997年。

キネマ旬報社編『外国映画監督・スタッフ全集』キネマ旬報社、1989年。

スティーヴ・ブランドフォード『フィルム・スタディーズ事典』杉野健太郎、中村裕英訳、フィルムアート社、2004年。

Bruno Edera, *Full Length Animated Feature Films*, Focal Press, 1977.

Hal Erickson, *Television Cartoon Shows: An Illustrated Encyclopedia, 1949 through 2003. 2nd ed.*, McFarland, 2005.

Thomas W. Hoffer, *Animation, A Reference Guide*, Greenwood Press, 1981.

David Kilmer, *The Animated Film Collector's Guide: Worldwide Sources for Cartoons on Videotape and Laserdisc*, John Libbey, 1997.

Jeff Lenburg, *The Encyclopedia of Animated Cartoons Series*, Checkmark Books, 1999.

Jeff Lenburg, *Who's Who in Animated Cartoons*, Applause Theatre & Cinema Books, 2006.

Jeff Lotman, *Animation Art: The Early Years 1911-1953*, Schiffer Publishing, 1995.

Jeff Lotman, *Animation Art: The Later Years 1954-1993*, Schiffer Publishing, 1996.

Neil Pettigrew, *The Stop-motion Filmography: A Critical Guide to 297 Features Using Puppet Animation*, McFarland, 1999.

Graham Webb, *The Animated Film Encyclopedia: A Complete Guide to American Shorts, Features, and Sequences, 1900-1999*, McFarland, 2011.

George W. Woolery, *Animated TV Specials: The Complete Directory to the First Twenty-five Years, 1962-1987*,

Scarecrow Press, 1989.

【白書】

電通総研編『情報メディア白書2012』ダイヤモンド社、2012年。(一年ごとの発行)

『デジタルコンテンツ白書2012』一般財団法人デジタルコンテンツ協会、2012年。(一年ごとの発行)

『ゲーム産業白書2012』メディアクリエイト、2012年。(一年ごとの発行)

『オタク産業白書2008』メディアクリエイト、2008年。

本報告書は、文化庁の委託業務として、森ビル株式会社が実施した平成 24 年度「メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業」の成果をとりまとめたものです。

本報告書の内容の全部又は一部については、私的使用又は引用等著作権法上認められた行為として、適宜の方法により出所を明示することにより、引用・転載複製を行うことができます。